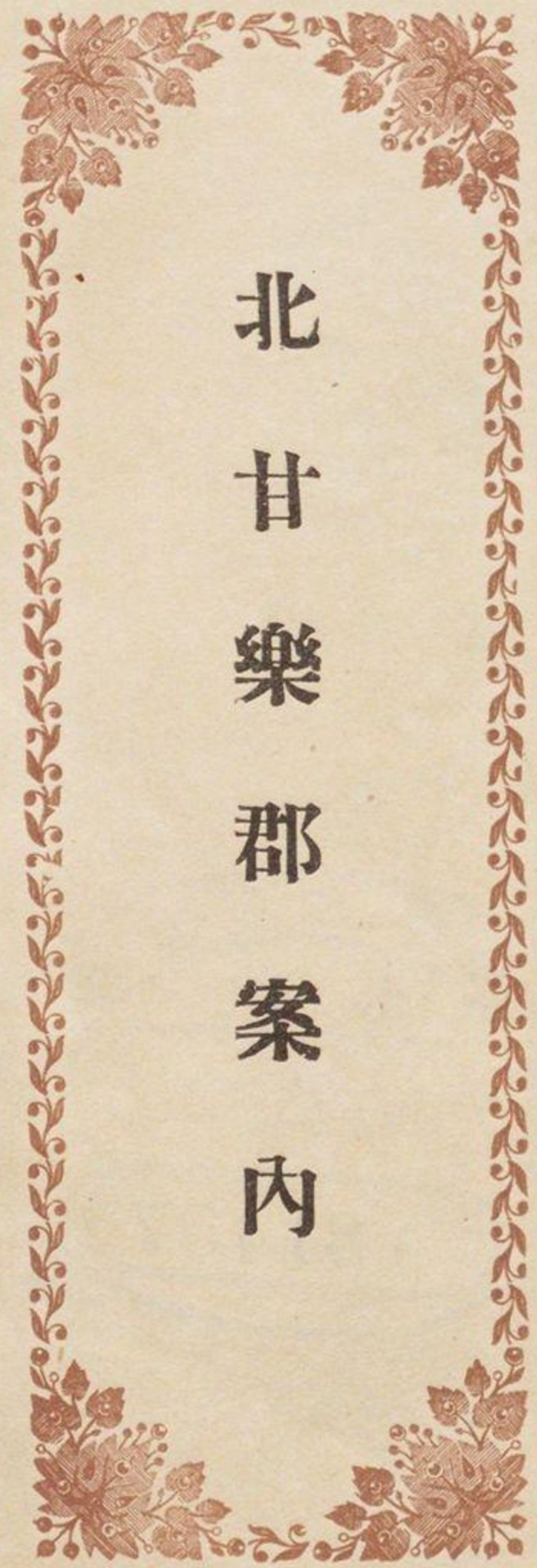




K296.3
K165

北
甘
樂
郡
案
內



富源涵養

潤次



由來北甘樂郡は産業上風致上觀るべきの所探るべきの
地頗る多し産業上に在りては我國の蠶絲界に於て特に
嘖々たる名聲を有する上州南三社として碓氷社と竝に
稱せらるゝ甘樂下仁田の兩社あり製絲界に於て創設最
早く規模亦大なる原富岡製絲場あり又風致上に在りて
は奇巖峻嶒として怪奇人を驚かす妙義の絶景を始め霧
蔚幽邃自ら人をして仙化せしむる黒瀧山の神境あり其
の他名所舊蹟亦尠からず人若し本誌を榮として郡内の
狀勢を探らんか其趣味と實益思半に過ぐるものあるへ
し一言序とす

明治四十三年八月

群馬縣内務部長

佐藤孝三郎

北甘樂の地其廣袤より云へば面積二十六方里加ふるに
北西南に亘り山嶽起伏し平坦の地は僅に中央より東方
に於て見るのみ誠に彈丸黒子の地なり然れども物は獨
り大なるが故に尊む可きにあらず半池盆石の中尙煙霞
具足するを見る

北甘樂の風光産業の事情其大体は佐藤内務部長の序之
を盡し詳しくは收めて本書の中にあり綱領細目既に盡せ
るを以て敢て蛇足を加ふるを要せざるなり
一府十四縣聯合共進會開設記念の爲め本書を作る北甘
樂を知らんとする人をして裨益するを得ば作者の光榮
とする所なり

北甘樂郡教育會々長

清水國太郎

北甘樂郡案内誌目次

總 說……………一
 位 置……………一
 教育の部……………三
 神社の部……………四
 寺院の部……………六
 勸業の部……………一〇
 名勝の部……………一五

舊蹟の部……………一九
 鑛泉の部……………三三
 偉人の小傳……………三三

附

學事統計……………北甘樂郡青年團體表……
 農家及耕地反別……………米麥收穫高……………製絲戶
 數及蠶絲類……………桑園及茶畑……………食用及
 特用農產物……………養蠶……………牛馬養豚鷄類
 ……織物類……………蠶種製造……………產業組合
 ……果實

總 說

郡名起源 延喜民部式に甘樂郡とあり和名抄國郡部に甘樂(加牟)とあり或は甘良と書し或は甘羅と記す、信濃、武藏の波娑摩はさまにあり隱國かくろくの地なれば甘樂と名づけしなるべしと信濃地名考に見へたり又上野名跡考に依れば韓級の郷などありて韓人を置かれし地なるべければ甘樂は加良の義ならんともあり何れも唯臆斷に過ぎざる考證にして其由て名付けし起因を詳かにせず

位 置

縣の西南にありて東南は群馬多野の二郡に接し西は一帶信濃の南北佐久郡に界し北は碓氷に連なり郡の西南は山嶽伏起して頗る峻嶮を極め北方丘陵ありて中央より東部に亘りて平坦にして且つ土地豊饒なり

山嶽 縣下第一の名山にして多年人口に膾炙せる妙義山は郡の西北にありて妙義町

の西に屹立し白雲、金雞、金洞の三峯に分る、荒船山は極西信濃の國境にありて直立四千五百尺に達し東麓は西牧村に屬し稻含山は南方下仁田町と秋畑村との境界点にありて巍然衆峯と睥睨す

河川 本郡に於て著名なる川は獨り蕪川(加婦長川又鑄川と書す)にして其水源二あり一は尾澤村大字熊倉の山中より發して南牧川と云ひ東流下仁田町に出で一は西牧川と稱し西牧村大字南野牧の山中に發して東南流して下仁田町に入り南牧川と相會して東流し更に高田川を併せて多野郡に入る

交通 道路は古來信濃街道の別路にして碓氷郡より富岡町を経て下仁田町に至り更に西牧川に沿ひて長野縣に入るものと多野郡より來り富岡、下仁田を経て、南牧川に沿ひて尾澤村を経て長野縣に入るものとあり

上野鐵道は高崎市に起りて多野郡に入り山名、吉井を経て更に本郡に入り其の中央を貫き福島、富岡、一ノ宮、南蛇井等の各驛を経て下仁田町に達する延長二十一哩

餘の輕便鐵道にして實に本郡唯一の交通機關たり貨物の集散旅客の往復悉く之れに頼らざるはなし

廣袤 東西八里二十六町、南北四里九町面積二十六方里八十二町を占む

町村、全部を區劃し富岡町、一ノ宮町、福島町、下仁田町、妙義町の五町、黒岩村丹生村、高田村、小坂村、西牧村、尾澤村、月形村、磐戸村、青倉村、馬山村、吉田村、高瀬村、額部村、秋畑村、小幡村、岩手村、新屋村、小野村の十八ヶ村とす戸數一萬二千八百十八、人口八萬二千二百二十五(四十三年四月調)を有す

物産 繭、生絲、蠶種、絹、太織等を最とし蒟蒻、麻、麥、石灰、木炭、楮皮紙、木材等之れに次ぎ砥澤の砥石下仁田葱等又著名なり

教育の部

富岡中學校 富岡町大字七日市にあり校長以下職員廿三名にして近年成績良好なり

詳細は別表に掲載せり

北甘樂女子實業講習所 富岡町にあるものと下仁田町にあるものとの二にして職員十名にして生徒九十八名を收容し北甘樂教育會の施設に係り學科は高等女學校程度に準じ實業に最も重きを置き普通學科と實業教科と教授時間相半ばし高尚に過ぎず卑近に流れず民情に適切ある設備にして其成績尤も良好なり(口繪參照)

神社の部

(國幣中社及著名なる神社)

國幣中社貫前神社 一ノ宮町にありて町の北端陰地にあり老杉森々として神嚴を加ふ祭神を經津主命と稱へ奉り香取神宮と御同体になし延喜の制各神大社に列し後上野國一ノ宮と稱し現今國幣中社たり太古鴻濛の世天神天祖の勅を奉し大將軍をして不順を逐ひ國土を拓くに方り先づ諏訪大神を歸順せしめ其鋒を抜き此地に立て玉ひしより拔鋒明神と稱へ奉りたるに依りて考ふるに其當時の創始なるべく神代

鎮座の大舊社たりしや明なり故に朝廷の尊崇他に異り正一位を授け玉ひ勅額をも進めさせらる隨て國司武將の瞻仰怠りなく源の頼義、義家の奥羽を平定し義重、義貞の義兵を起して此の大神を尊信祈請したるを以て其感應を蒙りたる等史上に存して顯著なる所なり徳川氏に至りて尙ほ尊奉措かず宮殿を造營し神領を附し金屏書畫等を寄進するに至る毎年三月十五日例祭を執行し奉幣使の參向するあり年中數度の祭事ありて鈴鐸の響き常に絶へず縣下隨一の靈神なりとす(口繪參照)

妙義神社、妙義町妙義山腹にあり祭神は俗に卯の神と稱し開運守護の大神なり欽明天皇の御宇今を去ること千三百年餘の創立にして毎月卯の日の例祭には遠近の參詣多し現今の社殿は明暦二年の建築に係り構造莊嚴なり有名なる白雲山の山腹に倚りて建てたるに依り殊に靈威の尊嚴を加ふ妙義の絶景奇勝は本誌名勝欄に詳説するを以て茲に贅せず(口繪參照)

中の嶽神社 小坂村大字上小坂村にあり祭神は日本武尊東夷征伐の砌り當山の妖賊

を退治せられたるを以て村民尊の徳を慕ふて御尊靈を勸請す其後ち僧空海此山に上り大國主尊を齋き奉り壽永元年尊の御遺跡を永世に傳へんとし藤原祐胤詞堂を建立す降て元弘年間無夢上人本社を守護し爾後小幡の城主織田筑前守、松平攝津守等修繕を加へ殿堂莊嚴を極めたり明治十五年三月山火の爲めに殿堂悉く灰燼となり神官工藤武雄氏苦心經營して現今の社殿を再建したり金洞山の風景と其神斧鬼工の妙に至りては本誌名勝の部に之れを悉せり

寺院の部

(名利及皇室に由緒ある寺院)

不動寺 磐戸村大字大塩澤に屬し黒瀧山頂にありて黄檗宗の中本山たり本尊不動明王は元正帝の御宇行基菩薩の彫刻に係る一刀三禮の靈佛にして嵯峨天皇の如きは奇瑞を感得し玉ひ勅願の道場となさしめらる

全寺中興の祖にして改宗の開山たる潮音道海禪師は黄檗宗開祖隱元禪師の法孫にして二代木菴禪師の法嗣たり圓滿澤徳の高僧にして延寶年間當山の堂塔伽藍を完備して關東の大禪林となす實に東海の禪窟たるの名に背かず之れより先き萬治三年觀音感通傳三卷を著し國母東福門院に奉り又 後水尾院太上法皇に召され禪要を下問せられ對奏叡慮に稱ひて忝なくも御衣御鏡を御下賜せらる全寺は往昔より嵯峨御所の勅會御灌頂に際して住僧の召さる、事五會に及び寛政年間御縁故に依り菊御紋付の戸張一領、全布幕一張、提灯二張及繪符等を拜領す潮音禪師は深く五代將軍綱吉公歸崇を受け關國の諸侯大半禪師の法化に霑はざるなく就中松平信濃守治水、鍋島加賀守星巖全紀伊守金粟の三居士各々大法の付囑を受け遂に弟子の禮を執るに至る禪師嗣法の禪哲六十三名受法の宰官士庶數十人受戒の道俗數萬人其法化に浴するもの幾十萬人なるを知らず禪師四度大道場に座し開山に奉する道場貳十餘ヶ所支院末寺貳百有餘ヶ寺是即ち黄檗宗潮音門派にして之れを黒瀧派と公稱し派下の法孫をして僧階を昇進せしむる本山にして現今黄檗宗黒瀧派の法務所たり

堂宇は黒樹門、山門、中門、不動堂、本堂、客殿、庫裡、經藏、開山堂等を有し縣

下隨一の大刹なり

什寶に後水尾院所賜の三光佛、櫻町天皇の御衣、菊御紋付の戸張(錦地)鍋島金粟居士奉獻の舍利塔、長崎元規筆開山潮音禪師の畫像、弘法大師筆曼多羅神道灌傳卷、知證大師筆不動尊因觀作白檀千手觀音、黃檗諸高僧、隱元、木菴、即非、高泉、悅山、獨吼、惠極等其他の書畫數十点を藏し毎年四月廿八日を以て祭典を舉行し遠近の善男善女四來雲集し日々の賽者又絶ゆる事なし

光巖寺 高瀬村にあり曹洞宗に屬し寺記の傳ふる所に依れば 人皇九十六代光巖寺院天皇の御開基にして御震翰、御物其他古器古文書等多く寶庫に藏したりしが天文正保、安永の三度祝融の災に罹り盡く灰燼となり今や徵證するに由なし今古老の傳説口碑を基とし明治の初年時の住僧に依りて記述せられたるものを見るに正慶三年甲戌年 光巖天皇寶位を遁れ賜ひ曆應二巳卯年春東國を巡遊あり其途次此地へ御輦を向けされ當所河北の大名仁義と云ふ河原にて供奉の諸侯に御暇賜はり當地の草菴

に御駐輦遊ばし給ひしと云ふ是れ即ち今の光巖寺にして 天皇は歸依僧たる越前國永平寺七世鷹林禪師を當國に召降され以て當山の第一世とす正平七年壬辰年八月禪師の誨を受け御落飾遊され禪師と共に輪廻解脱の御修行怠なかりし由後ち富士塚を築き朝夕彌勒上天經を修し登退の思召有之しか滿願の後程なく崩御あらせられたりと云ふ時は正平十九年七月七日にして御法諡を 光巖院量仁禪定法皇と申し奉る當寺の境内に古墳あり老松古木森々と茂り往古より天皇塚と稱し御陵墓と言ひ傳へたり中興四世の遺書によれば是則ち法皇の富士塚にして彌勒上天經を誦讀せられし所なりと此の塚上に五輪の碑あり御詠を彫刻しありしが風雨寒凍の爲め缺け崩れて今は全く其の形を止めず僅に其礎石を存せり(口繪參照)

御制

志留知らむ世は管ゆめの跡もなし

黒布にひやく松風の音

什寶

天皇行脚の際用ひたる笈にして(高さ二尺一寸二分前面二尺七寸七分側

面一尺〇五分) 天皇廿三回忌の法會に使用したる小形の鳴鉢(經六寸三分) 一對にして其一方は再三の火災に遭ひ甚しく焼け損じたるも一方は稍原形を存す

勸業の部

甘樂社、富岡町にありて上野鐵道富岡停車場に接し一廓を爲し明治十三年五月の創立に係り北甘樂精絲會社と稱せり其後種々の變革を経て明治廿六年馬山組外廿二組相率ひて加盟を脱せんことを請はれ時の郡長利根川孫六氏の裁議を容れ其申出を承認せり全廿八年三月甘樂社と改稱し定款を社則とし各組の名を支部と改め其後卅一年四月の總會に於て本社新築の議熟し次に明治卅二年四月三日新築開業式を擧げ明治三十九年社長山口太三郎氏は多年の功勞を賞し時の農商務大臣松岡康毅氏より銀杯一個に賞狀を添へて下賜せられ四十年一月蠶絲界の功績者として山口社長に對し

大日本蠶絲會總裁伏見宮殿下より金賞牌及賞狀を御親授あり全年四月十七日森平副社長は米國機業家視察の爲め渡米し同年六月廿八日歸國せらるる全四十一年十月山口社長に對し勅定の綠授褒章を下賜せらるる以上は甘樂社過去歷程を略記せしに過ぎず蓋し蠶絲業は我國經濟界を維持するの骨子にして又實に我邦の命脈なりとす然して吾國は日露戰役後國力の發展を來し當業者の奮闘は晚近數年の製絲量に於て頓に増加し其總量斤數實に一千餘萬斤の巨額に上り其の三十分の一は甘樂社の製絲に係はるものとす豈盛んならずや(口繪参照)

下仁田社 下仁田町の東部停車場の附近にあり社長を佐藤量平氏とし副社長を齋藤正次郎氏とす明治廿六年三月の創立に係り全貳拾八年本社の礎を改め更に下仁田製絲社を設立し明治卅三年に至り向ふ五ヶ年の繼續事業として本社新築の事を決し全年四月工を起し全年十二月五日略は竣工せしを以て假宅社より移轉し翌卅四年四月三日新築落成式を擧げ來賓は朝野の紳士實業家貳百有餘名にして當日佐藤社長の式

辭に始まり關群馬縣知事の告辭及社員總代淺川龜太郎氏の答辭にて式を了り其他種々の餘興等ありて來觀者群をなし下仁田町開闢以來の盛典なりし明治廿八年四月副社長齋藤正次郎氏に對し多年の功勞に依り大日本蠶絲會總裁宮殿下より名譽の金賞牌を下賜せらる明治四十年四月十七日社長佐藤量平氏は社業擴張の目的を以て米國視察として渡航せられ同行者を碓氷社長、甘樂副社長の二氏とし縣下の三大社相提携して視察を了し六月下旬多大の參考資料を齎し無事歸朝せらる實に斯界空前の壯舉にして諸氏の熱心や想ふべし次て翌四十一年十月社長佐藤量平氏副社長齋藤正次郎氏に對し斯界多年の効績を賞し勅定の綠授褒章を授與せらる此の秋に當り本社の發展驚くべきものあり其の工場區域、群馬、長野、新潟、岩手の四縣下よ渉り六十七組社員三千六百四十人を計上し晩近に至り全社より製出の生絲一ヶ年の總量斤數約三萬貫にして其賣上價格又實に約貳百萬圓に達せんとするの盛況を見るに至れり

(口繪參照)

原富岡製絲所 富岡町にあり明治五年以來官營の模範工場たりしが時勢の進運に伴ふ自然の結果として政府より或る條件の下に明治廿六年十月三井家へ拂下げとなり其後三井氏の手により幾多工場の改善と業務の擴張とを謀りたるも明治卅五年九月更に三井家より原家に譲り渡され現今原家の經營に屬せり今茲に現状の一斑を略記せんに繰絲工場は第一工場に於て鐵製三つ取三百五拾釜にして第二工場に鐵製三つ取百貳拾釜あり轉繰工場は鐵製轉繰機百九拾窓ありて汽罐は「ランカッシャア」式貳個と多管式壹個とす製絲産額は一ヶ年約五萬五千斤一日平均廿七貫餘に當り原料使用高一ヶ年平均約九千五百石一日廿九石に當り其他座繰絲も金櫻銀櫻の商標を附して若干個づゝ製出しつゝあり就業者は數十名の事務員分掌の下に男女其他の雇傭者合計七百名餘の多きに達せり工女は所内に寄宿するものと通勤するものと相半し寄宿舎の設備に至りては衛生、風俗、教育等に注意し些の間然する處なし營利的工場として他に見るべからざる理想的模範工場と云ふべきなり(口繪參照)

神津牧場 西牧村大字南野牧字物見山にあり本牧場の創立は明治廿年十月二十日にして長野縣北佐久郡志賀村の人神津邦太郎氏の經營に係る其設計費拾萬餘圓を投じ四百八十七町九反七畝壹歩の地を占有せる一大規模の文明牧場なりとす現今の設備は中央農區二十三棟第二桶萱農區五棟第三荻の平農區一棟、總計貳拾九棟惣建坪六百八十六坪七合七夕牧柵の延長一萬四千五百五十三間餘に涉り其飼養法は半牧半舎にして飼料は穀燕麥、大豆、亞麻、仁粕、蕪青、馬鈴薯、食鹽、牧草、藁等なり現今飼養せる畜牛の數は約百頭にして其賣却價格は乳牛一頭三百圓乃至千圓牝犢は一頭六十圓以上百八十圓以内牡犢は一頭拾圓より四拾圓迄の範圍にして其成育頗る良好なるを以て販路非常に廣く其の收益又多大なり晚近斯業界に於ける神津牧場の名聲尤も高く神津(バタ)の販賣高は約二萬斤に達し全國主要の地に代理店特約店を置き外人の赴く處神津(バタ)の存在せざるなく唯一の精良品として内外貴紳淑女の賞玩措かざる所にして今や供給不足の盛況を呈し其成效又驚くべし(口繪參照)

名勝の部

妙義山(白雲山) 上毛三名山の一にして其名天下に高く國中に鼎立して天賦の絶勝を擅にし其の秀麗を誇るもの如し容姿の堂々たるは古英雄の如く特趣の天景を占有し一塊の怪岩里餘に涉りて三大突起を爲す其前方を白雲山と云ひ中央を金洞山と云ひ後方部にあるものを金鷄山と云ふ是れを總稱して妙義山と名命す院線伸仙道を松井田驛に下車し直ちに妙義町(一里餘)に至り町を登れば樓門に着くべし即ち妙義の五本杉にして更に石階を登れば隨神門なり次ぎの唐門を入れば境内幽寂なる妙義神社なり裏門を出で、奥の院に登れば斷崖絶壁嶮又峻辛ふじて白雲山の頂きに達すれば放眸前程を遮るものなく白雲漠々の間遠く毛武の山野を望み人をして登仙羽化の感あらしむ此の山又紅葉の名所にして山麓を遶れる遠近の秋色紙筆の盡すべきにあらず(口繪參照)

金洞山(中の嶽)小坂村に屬し尾花坂より南に向ひ九十九折なる峻坂を登るべし途次

一本杉に至る迄は道路甚だ困難を極む進んで第一石門に達し鎖に頼りて蟹の横這と稱する難所を登らば第二の石門に至るべし之れより第三の石門第四の石門と順次登達すべく一步は一步より峻にして古人の所謂前人の脚は踏む後人の頭と云ふに似たる其景其勝真に探賞するに價すべし古來其真景を寫さんとして詩に歌に文に畫に推敲卍筆大に務めたるもの尠ならずと雖及ばざるや遠しとし歎息之れを久ふして遂に筆を投じたりと云ふ此の故を以て茲に蛇足の贅贅をなさず唯だ觀客をして天成の鬼工を感賞せしめんと欲するに過ぎず(口繪參照)

妙義山(白雲山)の頂き迄妙義町より卅五丁中の嶽(金洞山)迄一里十町、金鷄山へは貳里あり何れも案内者ありて叮嚀に説明の勞を執るべし松井田町より妙義町迄一里強にして磯部より貳里半あり人力車は松井田町より十五錢磯部鑛泉地より卅錢の定めなれども坂道なると惡路なるとに依り凡て倍額を拂はざるべからず下仁田方面よりする者は三里にして途中迄馬車の便あり此間人力車賃金約七八十錢を要するもの

のとす

荒船山郡の西境西牧村に屬し信濃の南佐久郡に跨り海面を抜くこと四千五百尺にして破風山亦砥山の名あり山容屋宇の如く頂上平坦なり信濃地名考に荒船山は佐久、甘樂、兩郡の間にありて山形船の南天に行くが如し云々とあり蓋し山名之れより出でたるものなるべし(口繪參照)

黒瀧山、郡の西南磐戸村の北部に位し下仁田町より乗合馬車の便に依りて途中(貳里)小澤村に達し全所より徒歩大鹽澤に出で小鹽澤を経て黒瀧の山麓に達す溪流に沿ひ羊腸たる峻坂を登ること十五丁にして山門に達すべし古來上毛五色山の一にして山腹に不動寺あり其大伽藍は高く雲表に聳へ幽邃なる禪窟は遠く深山森谿の裡にあり怪岩奇石其の間に點在し日東、星中、月西の三岩は堂後に屹立して高く百尺以上に達し萬春寺院を擁護するに似たり飛泉高く巉巖に懸りて千丈の白布を曝すが如し一橋の空に架するは蒼龍の天に上るが如く溪聲の潺湲たるは般若を談するに似たり

盛夏樹蔭に書を繙けば清涼の氣人に迫り深夜禪窟に默座すれば靈鳥幽を破りて實相一如の玄理を語り夜猿時に來りて眞如の月を捕へんとす其景其勝筆舌の及ぶ處に非らず由來關東の高野山と稱して東北隨一の靈場たり此の山秋の紅葉尤も宜しく滿山の錦繡溪泉に映じ所謂秋色春花に勝るの風光眞に掬すべく四時の風景又佳ならざるなし

山に靈鳥あり三寶鳥、慈悲心鳥、木魚鳥と云ふ三寶鳥は晚春より中秋に涉り夜間明鏡天に懸るの時幽を破りて佛法僧と啼き慈悲心鳥は晚春より初夏の頃晝夜其の聲を絶たず木魚鳥は二月下旬より四月上旬に至りて其聲を聽く是又當山の名物たり

(口繪參照)

舊蹟の部

國峰城址 小幡村大字國峰村にあり里人之れを城山と云ふ東西三十間南北十五間西北及東方皆廢塹なり鎌倉幕府の時赤松則景の子右衛門尉と云ふもの外舅小幡平四郎行頼の後を受け始めて此處に居し傳へて十二世上總介重定の時に至り威を四隣に振ひ郡中に雄視せり天文弘治の間箕輪、上杉憲政に屬し永祿貳年長野業政の爲めに逐はれ避けて武田信玄に寄る後四年武田信玄夜に乗じて此の城を抜き重貞を服せしむ其子信眞に至り北修氏に屬す其後廢城の年月詳かならず(口繪參照)

小幡城址 小幡村大字小幡にあり往昔小幡氏の居城にして天文の頃憲景入道泉龍齋國峰城に移る後ち北條氏の有となり家人北條喜太郎氏盛爰に住し元祿元年松平下總守忠明に賜る慶長七年參州筑手へ徒封元和元年より織田越前守信久に賜る子孫相傳へて信邦に至り明和四年轉封全年閏九月松平忠恒封を此の地に移し相傳へて忠福忠良、忠恕に至る忠恕明治卅五年五月廿一日薨去す然して廢城の年月詳かならず

(口繪小幡の御殿參照)

七日市城址 富岡町大字七日市にあり元祿二年前田大納言利家の貳男大和守利高此の地に居り子孫相續で右京利慶に至り明治の初年に及び廢城となり現今富岡中學校の地是れなり

水戸浪士の古戰場 下仁田町の西北伊勢山道より下小坂村字岩下、安道寺の邊に戰ふ高崎兵の戰死者四十餘人浪士の死者數人にして元治甲子年十一月十六日の曉なり武田小豎、野村丑之助、當時歳十三、重傷を蒙り自ら首刎ねて死す本町岡横丁に葬る久保田藤吉、齋藤仲次の首級を本誓寺に埋葬し皆墓石を存す(口繪小坂村高崎藩士戰死者の碑參照)

小野小町の舊蹟 富岡町を距ること北方貳里にして小野村大字小野にありて古へより美人の名高き小野小町の舊蹟として同村得成寺に左甚五郎の作と稱する卒塔婆小町の木像と云ふものあり古色蒼然眞に珍とすべし口碑の傳ふる所に依れば小野小町

諸國行脚の際當郡に來りて病を得、後賀の藥師に病氣平癒の祈願をなし其靈現を感じて一字を建立し得成寺と云ふ(口繪小野村得成寺參照)

富岡町 郡の東部にありて鑄川の北岸に位し七日市及曾木村を併せて町制を布き市街九、東西十五町、南北七町、戸數二千〇十七戸、人口一萬〇四百六十四人を有し郡役所の所在地にして區裁判所、稅務署、警察署、原富岡製絲場、甘樂社、富岡中學校、甘樂銀行、富岡銀行等ありて郡中第一の名邑なり街衢は平坦にして交通至便商家軒を連ね車馬輻輳賑を極め加ふるに上野鐵道第一の要驛なり(口繪參照)

黒岩の大日堂 黒岩村大字上黒岩にありて眞言宗に屬し貞和年間の創立にして文明十年大修飾を加へ隆盛を極めたり爾來數回火災に罹り種々の變遷を経て安永九年十一月今の堂宇を建立したり爾來四方の信者賽するもの多し(口繪參照)

一の宮町 富岡町の西方にありて上野鐵道の一驛あり宇田村、宮崎村、神農原村、田島村を併せて町制を布き戸數七百十四戸、人口三千八百六十七人を有し國幣中社

貫前神社の鎮座せるを以て名あり(一の宮町全景口繪參照)
 丹生鳴澤不動堂 丹生村大字上丹生にあり境内幽邃にして瀑布を有し夏季一遊の價
 致あり(口繪參照)

金乗寺 全村にありて曹洞宗に屬し丹生四郎金乗の開創に係り金乗寺と云ふ永林寺
 又此の村にあり(口繪參照)

妙義町 下仁田町の北方三里にして妙義山の麓にありて戸數貳百八十戸 人口貳千
 六百三十九人を有す然れども商業振はず居民大半農桑を業とす妙義山は此町より登
 山するを順とす

妙義の撰種園 小澤善平氏の經營に係り妙義町字諸戸にあり、中の嶽道に接し里俗
 御茶屋場と稱する土地を下し約六町歩に對し創業費四千圓餘を投し曾つて自己が渡
 米中實地經驗を有する葡萄園を開始したるは實に明治十七年十一月にして其栽培せ
 し葡萄は有名の最良種米國産(イサペラ)にして醸造庫は天賦の寶庫たる金洞山の岩

窟を利用したるを以て製酒の成績良好にして他の地方に於て遠く及ばざる天然の美
 味を有し其の賣價比較的低廉あるを以て世の賞賛を博し明治廿三年第三回内國勸業
 博覽會に出陳し褒狀を受領し全廿五年に至り土地の拂下を受け事業上種々の改善を
 加へ梅桃桑等を栽培し各種の苗木を培養し専ら精撰の良種を供給せん事に盡瘁せり
 明治卅六年八月斯業の功勞者として大日本農會總裁の宮殿下より綠白授有功章を下
 賜せらる次て明治卅七年五月終に不歸の客となり長男開氏後を繼ぎて經營し今や葡
 萄の年收八百貫以上に達し其他葡萄酒、梅酒等を盛んに醸造販賣せり
 小坂の製鐵業 小坂村大字中小坂村字金窪にあり弘化嘉永の頃の發見に係り當時の
 經營者は交通の不便と事業に無經驗あるに依り收支相償はず數年の後ち休業せり
 其後明治二年野村政一郎氏の手によりて現今の位置に熔鑛爐を創設し數年營業を繼
 續したるも明治六年由利公正氏に依りて其規模を改め次で政府の手に移りて官營と
 なり更に明治十六年會社組織となり小澤武雄氏之れが社長となり諸般の經營を爲し

たりしも遂に採掘の運びに至らず轉々して小倉某、山崎某を経て明治三十九年二月
 東京市銀座四丁目林謙吉郎氏の所有となり再び事業開始の運びとなれり然れども又
 幾許もなく休業して今日尙ほ其儘となれり

荒船風穴蠶種貯藏所 西牧村大字南野牧字屋敷と呼ぶ荒船山麓にして海拔八百七十
 米突の高地にあり此地盛夏の候尙ほ寒冷を覺へ附近の地に氷塊の堆積するを見る本
 風穴の創立は明治卅八年九月にして全村庭屋靜太郎氏の經營に係り資金五千圓餘を
 投じて間口七間奥行三間半深さ十五尺とし之れを二段に仕切り下室（室内高さ七尺
 床下一尺）を秋蠶種運出場とし上室（高さ七尺）を早出及究理室とし順次二階三階
 を經て生理的温出穴と爲し得るの設備にして其施設の合理的にして模範的なるは慥
 に本貯藏所の特長にして斯界の白眉と云ふに足るべし宜なるかな連年の成績極めて
 良好にして今や風穴界の霸王と稱せらる現今東京、京都の二府及外十九縣の地域に
 涉り隨て貯藏室の狹隘を感じ更に七拾萬枚收容の完全無欠にして本邦無双の一大貯

藏所を經營し去る四十一年に至り竣功を告げ廣く一般希望者の需用に應じつゝあり
 該風穴は其廣さ數反歩に涉り如何なる酷暑の候と雖寒烈なる地風を生じ平均温度五
 月の頃三十四度餘六月に至り三十五度全七月乃至八月に至り三十五度強より三十八
 度にして九月尙ほ四十度強に過ぎず眞に天惠の一大風穴場ありと云ふべし
 星尾風穴蠶種貯藏所 尾澤村大字星尾にあり明治卅八年一月の創立に係り資本金一
 千五百圓の合資組織にして代表社員は大河原茂平、市川竹十郎、今井邦平の三氏に
 して該所の建物は間口貳間、奥行三間高さ一丈にして別に附屬として間口六間半奥
 行貳間の建物一棟を有し優に二萬枚の貯藏を爲し得るの設備にして風穴として第一
 の要件たる室内の温度は最低華氏二十四度最高四十五度にして七月三十日蠶種搬出
 の末期に至り尙四十二度位に過ぎず故を以て尤も安全なる貯藏所なるを以て委託者
 間に於て非常の好評を博し荒船風穴に對し好一對の理想的風穴なりとす（口繪参照）
 砥澤の砥石 尾澤村大字砥澤の南方約半里にして山上砥山明神の社あり猿田彦の命

を祀りて神體とせり傳説に依れば往古獵夫弓を以て猴を射る老猿其の箭を取り岩石にあて、之を礪ぐ人々是れを見て此地の岩石及物を磨ぐに足るべきを知りしと云ふ發見の年月は詳かならずと雖建久年間以前已に此事ありし由其後延寶三年黒瀧潮音禪師此山に來り其實況を見て獎勵の爲め一詩を賦す

金輪湧出青砥山 開闢不知何世時

天下寶山稱第一 來遊此地志歸期

當時既に徳川御用砥の外一切他國に搬出せしめず運上(租税)の内へとして毎年一定の切出を命じ處理監督頗る嚴なりしと云ふ其當時採掘せし鑛區は已に廢鑛となり現今の作業地は字今戸なる所にして全村第一の高山三つ岩の南麓にあり明治十三年始めて全村の人津川喜三郎氏之れを發見し當時官有地なるを以て時の縣令楫取素彦氏より試掘許可を得て採掘せり後ち現今の坑業主全郡富岡町篠原榮吉氏之を採掘し經營三十年に亘り今日の盛況を見るに至れり砥石の性質は白色にして茶褐色を帯び處

々斑文を見る恰も虎皮の如く名つけて虎砥と云ふ硬軟其宜しきを得世の需用者に賞賛せられ一ヶ年の産出高貳萬個(壹個拾貫匁)に至り其價格實に一萬數千圓に達せり此地古來淺川家の所有地なりしが明治九年地租改正の時誤て官有地に編入せられたるを以て淺川龜太郎氏之を慨し明治三十二年下戻の申請をなしたりしも全三十六年九月不許可の旨を達せられ全年十一月更に行政訴訟を提起し全三十九年十月九日原告淺川龜太郎の勝訴に歸し前に其の所有權を回復し現今全家の所有地となれり青倉の石灰業 嘉永、安政の頃發見せしも故ありて中止し更に明治十四年に至り神戶某、土谷某と協同經營の下に大に其の發展を謀り十五座の窯を築き一日平均四千五百貫の石灰を製出するに至れり爾來青倉石灰の名大に著れ需用隨て多きを加へ明治三十三年全三十四年に至り相前後して石灰製造し合資會社及西毛石灰製造株式會社の二會社創立せられ其の製出量一日平均兩會社併せて六千八九百貫を出で其外個人の經營せるもの十七窯あり是又一日平均五千二百貫程を製出しつゝあり賣價は目

下壹圓に對し三十五貫位にして現今の總窯數は大五座、小二十七座にして其外近年生石灰の販賣行はれ一ヶ年百万貫以上に及び年々の總收益實に八九百萬圓に達せりと云ふ

下仁田町 郡の中央にありて上野鐵道の極端驛たり警察分署、登記所、下仁田銀行郵便電信局等ありて戸數七百七十戸、人口四千百八十九人あり富岡町に次ぐの名邑にして南西牧兩地の咽喉地なるを以て物貨の集散一に此の地を經由し附近に小坂鐵山(十八丁)鐘乳洞(二里餘)黒瀧山不動寺(二里半)稻含山(三里)等の名所あり水戸浪士の古戰場及墓地等も此の地にあり特に此の町にある下仁田社は所謂南三社の一にして碓氷社甘樂社と俱に其名世に高し(口繪參照)

稻含神社 下仁田町及秋畑村の境界に聳へたる稻含山の山腹にありて民家を距ること五十丁の峻坂なり其境内風光翠色甚だ掬すべく此の社の創立は人皇六代孝安天皇の御宇の頃鎮座ありしと社殿は數次火災に罹り假殿を造營したり大祭は毎年五月七

八日の兩日にして此日は遠近の信者相競ふて峻坂を攀じて賽するもの頗る夥し又郡内著名の神社なり(口繪參照)

宇藝神社 吉田村大字神成にあり口碑の傳ふる所に依れば人皇四十一代天武天皇白鳳七年四月八日始めて左の神成山の山腹に一祠を建て宇藝大明神と尊崇し以て五穀豐熟の守護となす後ち天明年間火災に罹り社殿寶物等悉く烏有に歸す次で享和元年四月に至り殿堂を再建して同山脈の東方七町許の地に移して現今に及ぶ當社は延喜式内上野十二社の一なりと云ふ(口繪參照)

實相寺 天台宗に屬し吉田村大字南蛇井村にあり當寺は元慶四庚子年の創立にして比叡山法性坊尊意僧正を開山とし二世尊興に至り堂塔全備せり寺記の傳ふる處に依れば往古妙法院宮性高法親王巡國の砌當山に留り夏九旬苦行御煉修ありし御舊跡なり其後正和年間比叡山總持院學頭守明禪師此の地に來り堂宇頽廢せるを興し天神の廟を堂後に造營し以て當山守護の神とす降て建久八年源賴朝公由緒ある舊跡なるを

を以て特に永代五十貫文の地を寄附せられたり延應年間焼失せしを以て延寶四年之れを再建したるも明治三十三年四月六日又類焼の災に罹り堂宇、什器等悉く烏有に歸し徴證すべき舊記なしと雖郡内の最古の寺院たるは論なし(口繪參照)

最興寺 吉田村大字南蛇井にあり曹洞宗に屬し堂塔完備し又郡内の大刹なり(口繪參照)

織田家の墓 小幡村大字小幡にあり織田信雄以下の墓地あり歴史上注目するに足るべし(口繪參照)

笹の森稻荷神社 福島町大字福島にあり町の南方僅かに二三町を距つるに過ぎず當社の祭神は蒼稻魂命及豊城入彦命にして天長二年の勸請に係り後應仁二年社僧某再興す其後領主小幡播磨守武運長久を祈りて其驗あり社領を寄附し朱印に改む現今の本殿拜殿等は明和七月十一月の再興にして每年三月中初午の日を以て祭日とし之れより二の午三の午と稱し三回の祭日あり祭典毎に境内に許多の商人來集し養蠶具、

農具、桑苗等を初めとして其他雜貨の賣買盛に行はる當日遠近の老幼男女參詣を兼ね物品購買の爲め群集し廣大なる境内實に立錫の餘地なきが如し(口繪參照)

長學寺 小野村大字小上高尾にあり曹洞宗に屬し創立は天平寶字六年弓削道鏡此の地に來り一字を建立し天平菴と號す次て仁明天皇承和二年山城國高雄山神護寺の僧眞濟此地に來り地名を高尾寺と稱し寺を祝融山高尾寺と號す後曹洞宗に改め長學寺と稱す實に應安二年なり其後前田利孝七日市に封せられ當寺の檀越となり祿三十石を寄進し次で維新となる境内に大磯の虎女なるもの、手植の銀杏樹あり周圍三丈に餘り無比の大木とす秋の紅葉に見るべきものあり殿堂、樓門等宏壯にして舊七日市藩累代の墓地あり當寺の什寶は

徳川家光寄進に係る刀掛及茶臺等あり

南牧の蒟蒻栽培 現今南牧一帶の地に於て盛んに栽培せる蒟蒻は其起原詳かならずと雖永正年間南牧大日向村の人茂木某關西地方巡遊の途次紀州より持ち來りたるも

のを以て其原種として爾來日に月に増殖して南牧の地到處栽培せざるなく明治廿二三年の頃に至り時價の騰貴と俱に更に大發展の氣運に向ひ今や全地方の特産物として優に他の生産物を凌駕し生絲を除くの外之れに及ぶ物なきに至れり現今全地方に於て栽培する一ヶ年間の惣反別百八十丁歩餘にして其年收約貳拾萬圓に達するの盛況なり然して其主産地は南牧中月形磐戸以西とし去る明治四十一年十月近衛機動演習として前橋市に行啓遊されたる皇太子殿下の御臺覽に供したる磐戸村大字大塩澤白石幸吉製造に係る蒟蒻粉は特に御買上げの榮を蒙り無上の名譽を博したり

下仁田葱 本郡物産中の蔬菜類にして其名の著しきは下仁田葱にして下仁田地方の特産物に係ると雖晚近栽培の状態見るべきものなく僅かに地方人の需用を充たすに過ぎず然れども是又明治四十一年十月皇太子殿下の御買上げを蒙りたり

鑛泉の部

坂口鑛泉 岩平村大字坂口にあり富岡町一ノ宮町を距ること遠からず炭酸泉にして主として慢性皮膚病、腺病、胃弱、肝臓病、神経痛等に特効なりと云ふ

玉子の鑛泉 福島町大字君川の東端にあり富岡町を距ること東北約一里弱なり明治十六年の發見に係り其後數年葦塚某之れを計營せしも明治三十一二年の頃上野鐵道の布設と俱に之れを止め爾來十數年を経て本年四月に至り寺田榮吉氏玉子の湯と稱し開業したり温度は華氏の六十二度六分にして泉質は硫黄泉なり主として慢性癩麻質私、全皮膚病、全潰瘍、火傷、疹癬等に効ありと云ふ

偉人の小傳

高橋道齋 下仁田町の人にして名は克明字子啓家世々農を業とす資性孝友恭謹常に節儉を守り知友親族に急あれば資力を盡して之れを故濟す幼より學を好み能く詩文

を屬す傍ら臨他の技に達し其著す所辨孟論、李滄孟尺牘、家集若干卷あり寛政六年二月六日す歿す年七十七

市川寛齋 磐戸村大字大塩澤市川甚七郎氏の先より出で通右衛門と稱し名世寧字に靜、笈を負ひて江戸に上り林祭酒正良の門に入り業成り名顯る博學にして書を能す昌平黌の學員長を勤むること五年加賀候の支封富山侯徵して藩の教授を托す其の職に在る事二十年晚年長崎に遊び清人吳客と相唱和し吳客の爲めに敬重せらる當時名聲一世に高く文政三年歿す年七十門弟私に文安先生と諡す長子三亥米菴と號して書を以て其名海内に鳴る

因に寛齋父を小左衛門と云ひ磐戸村大字大塩澤市川彌五左衛門の次男にして分家して寛齋を生む一説に依れば下仁田町に分家し全所にて生るゝと何れが眞なるかを知らずと雖市川甚七郎氏の祖先より出でたるは争ふべからざる事實なりとす

天野八郎 諱は忠告、幼名林太郎磐戸村大字磐戸大井田氏の先より出づ豪邁にして

奇氣あり素行總て義に違はず好んで書を読み擊劍を能す明治戊辰の役彰義隊に加はり官軍に抗す敗するに及び本所炭屋某の家に潜伏し再舉を謀る事顯れて官に捕へらる全年十一月遂に獄中に没す年三十八年其の獄中にあるや斃林録を著し其志を述ぶ此著上野戦争實記として般に世に刊行す又下手將棋等の戯著あり

市川眞親 尾澤村大字羽澤の人にして新羅三郎義光の後裔にして通稱は五郎兵衛眞親は其名なり東照公創業の時源家の末流たるを以て徵されて朱印弓戟を賜はり後ち信州の地に於て田圃を開墾すること一千六百餘石此地を五郎兵衛新田と稱す寛文十年九月廿日歿す年九十四遺命に依り故里峰に葬る同十九年幕府生前の功を賞し開墾せし田地一百五十石を其子孫に賜はる

佐藤墨溪 翁安永三年奥州會津に生る幼より書を好み長して江戸に出て諸家の門に入り書道の濫奥を極め雅號を墨溪后醉墨と稱す性快活にして放豪、其技眞に入り當時名聲漸く高し後天保元年居を本郡富岡町に卜し靜隱の地と定む時に歳五十六爾來

周遊多年名聲益々著る遺墨又多し翁年七十三弘化三年八月七日歿す海源寺に葬る墨
 溪永年居士と諡す

(一) 學事統計

就學百分比	學齡兒童		計
	就學	不就學	
九九、二二	七二、九〇	七二、三四	一四〇、三四
九八、五七	七〇、〇五	一、〇五	一、六一
			一四一、九五
			九八、八八

(二)

種別	學級數	教員數		兒童數
		本科	專科	
尋常小學校	八	〇	八	三一
尋常高等小學校	二	三	二	二
同分教場	四	四	四	四
合計				

校	尋常科		計
	高等	尋常	
尋常科	二八	二五	五三
高等科	九	一	一〇
合計	三三	二六	五九

在籍兒童出席歩合 尋常科 高等科 平均

九〇、五八 九七、五二 九四、〇五

(四)

實業學校	種別	校數	學級數	教員數	兒童數		計
					男	女	
實業補習學校	北甘樂女子實業講習所	一	二	三	三三	四	八三
兒童社蠶業學校		二	三	七	二〇	〇	九八
合計		三	五	十	五三	四	一〇二

備考 北甘樂女子講習所は北甘樂教育會の施設にして學科は高等女學校程度に準し實業に最も重きを置き普通學科は實業教科は教授時間相半はし普通高等女學校の如く高尙に流れず又卑近に失せず民情に最も適切なる施設にして其成績優良なり

(五)

種別	教場	教員數	男	兒	女	童	計數
福島町子守教育	各大字社殿堂宇	一一					

備考 本事業は福島尋常高等小學校長の計劃に係る事業にして本校職員全部各受持區域を定め豫定の日割に各受持區域に出張して携帶黑板に依りて必須なる學科を教授しつゝあり

(六)

學事	教育費	平均一戸當り	平均一人當り	町村費に對する教育費の歩合
教育費	七四、六七、六二〇			
學校基本	現 金 公 債	五、八八	一、五二四	
財產	二五八、三九五		四九一、七六〇	
			價 土 格 反 地	
			一〇九三、二九四	
			町反畝歩	九九、五、六、一三

(七)

北甘會	員	教	育	會	事	業	經費	總額
特別	一二九	定期總會、教科書及牀操講習、教育功勞者						
通常	三〇〇	表章、教育品展覽會准教員養成講習會、郡						
計	四二九	市聯合及關東聯合教育大會女子講習所維持						四三一一、五四〇

北甘樂郡青年團躰表

名	稱	創立年月日	會員數	基本財產	事業	業
一ノ宮	校 友 會	三、一、三	二八五	〇	演說及講話	
丹生下組	青年忠孝會	三、一、一五	六三	三〇〇、〇〇〇	風紀の改善、學術の研究實業の改良等	
高田久原	勤儉貯蓄組合	四、一〇、三〇	五二	七五、二六八	新聞縱覽、生産物品評會	
全村下高田	俱樂部	三、八、七	四七	一〇、〇〇〇	試作地を耕す、學術研究	
妙壽町	小學校卒業生同窓會	三、八、一六	一五〇	一六、〇〇〇	學術研究、杉苗仕立	
全町尾崎	青年共富會	四、八、一六	一〇	一〇、〇〇〇	學術研究、共同勞働	

全町日陰勤儉貯蓄會	三、二、五	一〇	七、五〇〇	學術研究、共同労働
西牧第十區學友會	三、一、二五	五三	五、〇〇〇	學術研究、公共事業、勤勞等をなす
尾澤星尾青年團	三、八、一、二五	七五	六五、〇〇〇	學術研究共同労働
全勸能青年團	三、一、二五	元借地五反歩の桑園	〇	學術研究荒地開墾
尾澤村砥澤青年團	三、一、二五	八四	〇	學術研究
全村熊倉青年團	三、一、二五	二七	〇	祭典の斡旋等
馬山村馬山石淵青年會	三、一、二五	二二	一〇〇、〇〇〇	桑園を耕耘して收利す
全村安堀青年會	三、一、二六	二二	〇	借地五反五畝 桑園とし又はコンニャクを植付
全村蒔田青年共勵會	三、一、二六	九	〇	桑園の耕耘
高瀬村桐淵青年勤勞會	三、一、二六	一六	二七、五〇〇	學術研究共同労働
全村大島青年精勵會	三、一、二五	七	四、〇〇〇	學術研究及農事改良道路修繕をなす
全村内匠村青年尙德會	三、一、二五	二八	一六、〇〇〇	學術研究共同労働
秋畑村秋畑村同窓會	三、一、二七	三五	七、八五〇	學術研究、繩綯ひ
全村第四區青年協同會	三、一、二七	二〇	〇	學術研究等
小幡村小幡婦人會	三、一、二〇	二五	五〇、〇〇〇	學術研究、救濟事業

農家及耕地反別

兼業	農家數	農業者		畑田	耕地反別	
		男	女		作付反別	不作付反別
福島町田篠青年會	三、九、一	一一九	一三〇、〇〇〇	公共事業桑園耕耘學術研究	〇	
福島町福島青年會	三、一〇、三	一〇五	二五、七六〇	學術の研究公共事業桑園の試作風紀の改善	〇	
全町君川青年會	三、二、二	二五	〇	産業の改良發達を計る	〇	
新屋村小學校卒業生同窓會	三、二、二	一五	〇	學術研究、風紀改善	〇	
全村引田青年會	三、一、一五	二五	五、〇〇〇	學術研究、農事の改善	〇	
小野村藤木村青年會	三、二、二	三三	三反歩の桑園	農事改良及基本金蓄積	〇	
吉田村青年讀書會	三、一、三	一四	二、〇〇〇	學術研究、及勤勞	〇	
全村赤心會	三、一、七	六〇	二六四、六四五	風紀の改善及實業の進歩を計る	〇	
全村友義一心會	三、一、一	九	八、七〇〇	實業の研究及勤勞貯金	〇	
磐戸村小澤青年會	三、一、一〇	六〇	一〇〇、〇〇〇	實業の研究及勤勞貯金、桑園の耕耘	〇	
兼業	二、〇、七三	三、九八二	七、〇、三三	六、七元、一	二、七、七〇、九	
專業	八、六、八	二、五、五六	三九、八、七四	一、三四五、〇	一、一、三四六、四	
合計	二、〇、七三	三、九八二	七、〇、三三	六、七元、一	二、七、七〇、九	

桑園及茶畑		食用及特用農產物	
反別	見積反別	反別	見積反別
3004.7町	71.3町	大豆	185.6町
		小豆	23.3町
		粟	49.3町
		大麻	60.7町
		蒟蒻	180.2町
		蒟蒻	340.6町
		楮	105.5町
		楮	146.7町
		楮	197.7町

養蠶		養蠶	
飼育戸數	掃立枚數	價額	蘭產額
8350	34956	9506.8	249.7
20	26	5.8	2.4
0	0	0	0
0	0	0	0
4	10	1.0	3.0
133	333	45.4	15.3
789	2101	333.4	98.3
15	19	2.0	2.9

製絲戶數及蠶絲類		米麥收穫高	
戶數	蠶絲戶數	作付反別	收穫高
8,649	2,343	1,371.8	2,866
		2,866	5,555
		合	合
		計	計
		田畑	田畑
		反別	反別
		收穫	收穫
		高	高

製絲戶數及蠶絲類		米麥收穫高	
戶數	蠶絲戶數	作付反別	收穫高
8,649	2,343	1,371.8	2,866
		2,866	5,555
		合	合
		計	計
		田畑	田畑
		反別	反別
		收穫	收穫
		高	高

樹種	收穫格	樹高數
梅	二,三三七 二,三三七	一三,〇一九 六九石
桃	二,三三七 三,五〇〇	二,三三七 三,五〇〇
梨	三,七四五 一四,〇〇五	二,〇〇七 二,〇〇七
生柿	一〇,六四三 六,九〇六	六,七五 六,七五
柿干	二,〇三三 八〇五	五九 五九
葡萄	四,三三〇 六,一四五	七三 七三
栗	二七,六五八 二〇,七四三	四,一六六 四,一六六

果實

信用販賣組合聯合會	信用販賣組合	信用購買組合	信用購買販賣組合	合計
二	七〇	一〇	六	九七

產業組合

組合名	組合數	一化性風穴	二化性一化	二化性二化	合計
信用購買組合	二	一	一	一	三
信用購買販賣組合	七〇	一	一	一	三
信用販賣組合	一〇	一	一	一	三
合計	九七	一,三七〇	二七六	二〇〇	一七,四五〇

牛馬羊豚鷄數

牛	馬	羊	豚	鷄
二六七	二五二	一〇	一六〇	一五,五二四

織物類

工業內	實業	數量	價格	數量	價格
機業戶數	二五六	二四反	六四四	二八	四三六
手織機	三五八	七	三〇	四五五	三九四
職工	二	三三三	四三三元	四〇	八八
女	三五五	一〇五九	三五三	二四二五	五,六四八
男	二	三三三	四三三元	四〇	八八
合計	二五六	二四反	六四四	二八	四三六

蠶種製造

製造戶數	製造枚數	原種用枚數
三九	一二,七六七	一〇,四二九
三〇	七,三五三	五,一七五

明治四十三年九月一日印刷
全 年九月五日發行

〔非賣品〕

群馬縣北甘樂郡教育會發行

印刷者

深町傳七

群馬縣前橋市堅町十番地
電話 二十五番

印刷所

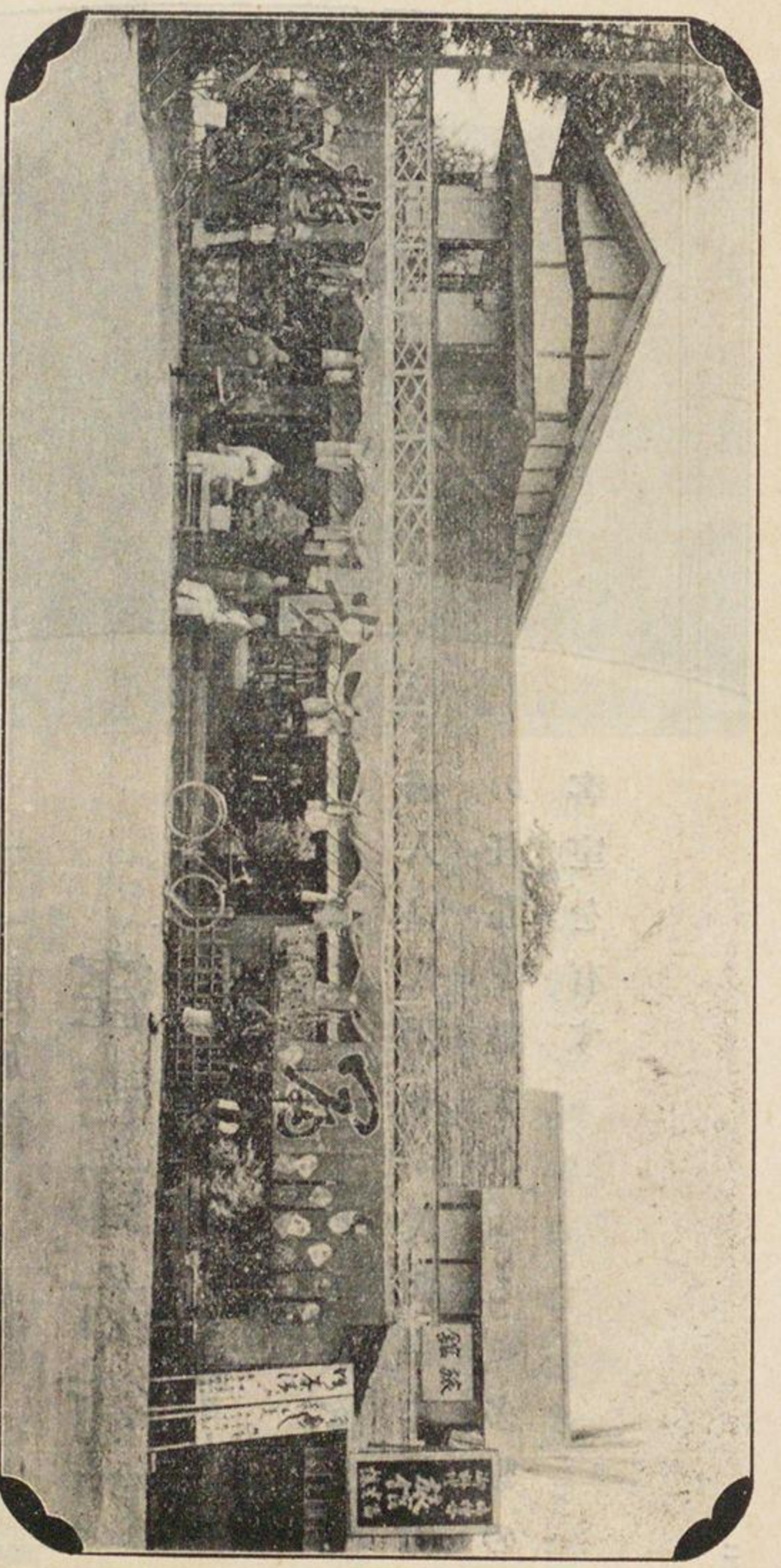
前橋印刷所

全 北曲輪町四十一番地
電話 三二〇番

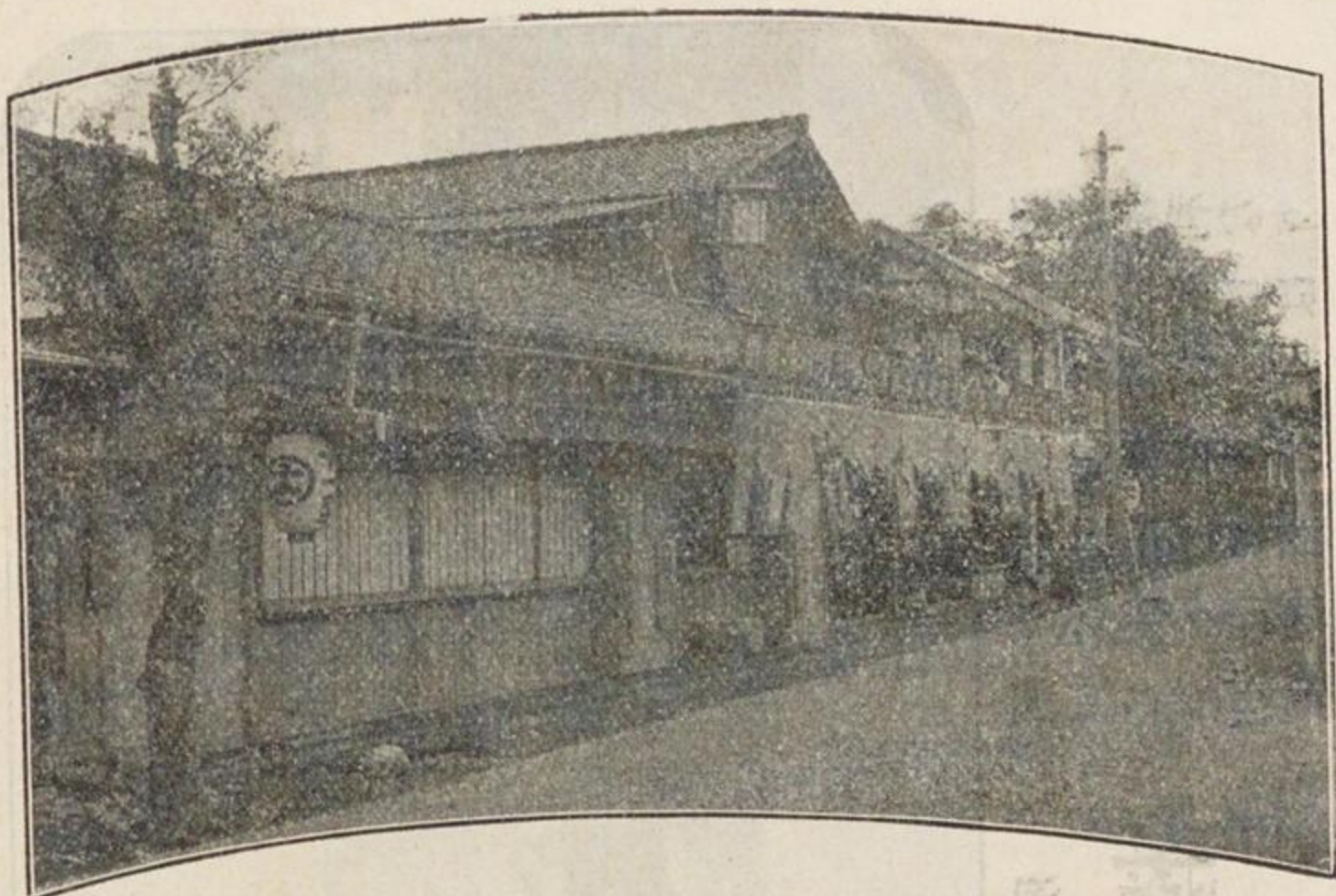
電話 出 川 〇 部
 分 町 電 報 四 十 一 號 五
 電 報 部 運 送 部
 郵 局 十 五 十 號 部
 郵 政 局 十 五 十 號 部
 郵 政 局 十 五 十 號 部

新島縣中央銀行

新島縣中央銀行
 總行 新島縣川口町
 支店 新島縣川口町



至極便利なり
 復の旅客には
 色とす瀛車往
 理の新鮮を特
 室の清潔と料
 を本領とし客
 勉強と懇切と
 所合待理料館旅
樓 費 富
 ジ フ 田 上
 前場車停町岡富
 番八十二話電

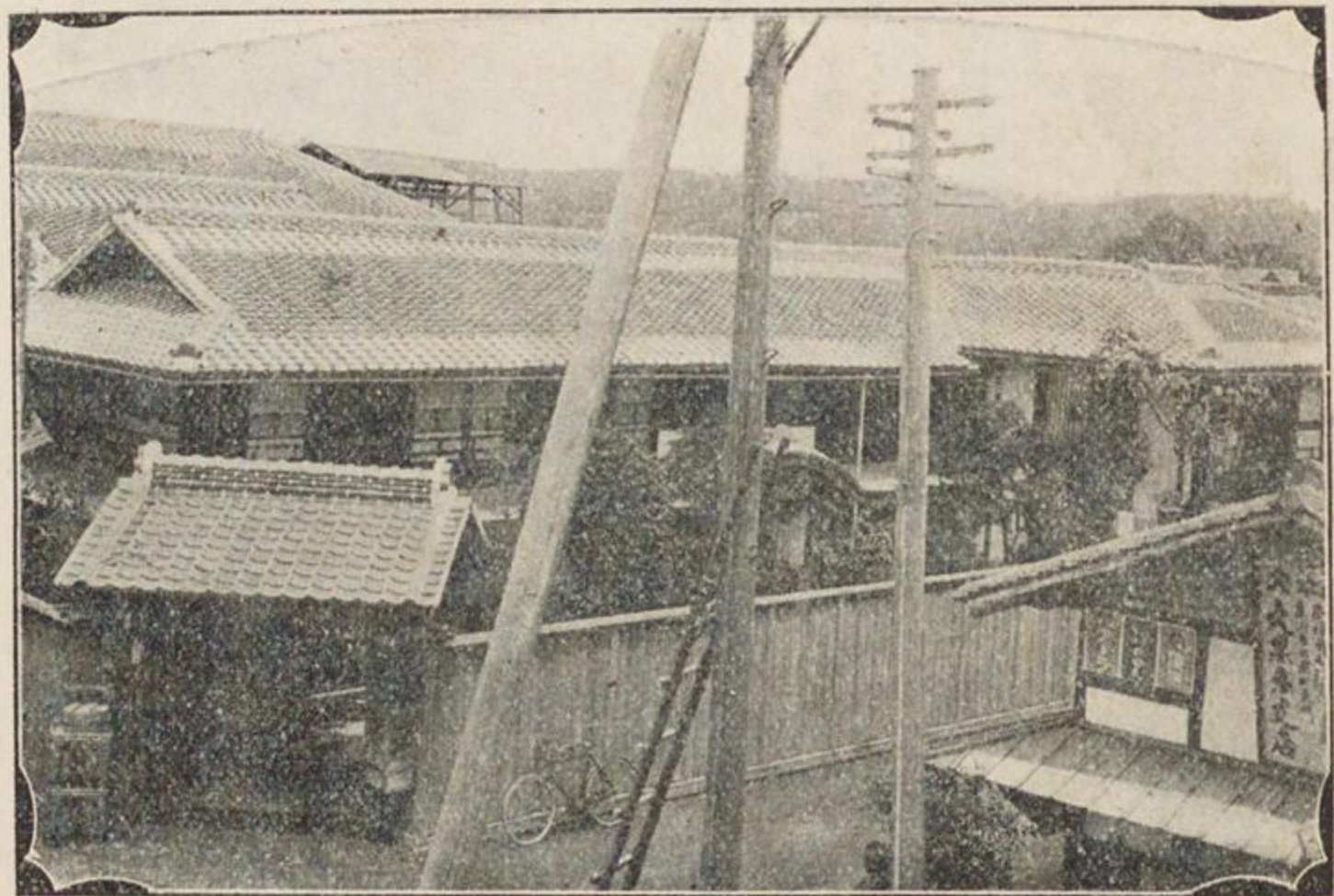


富岡町停車場前
十一屋旅館

窪吉郎右衛門

電話五十一番

勉強と懇切とを以て客を待ち
婦人は使用せず真面目に旅館
の任務を盡す加ふるに多数の
客室を有す

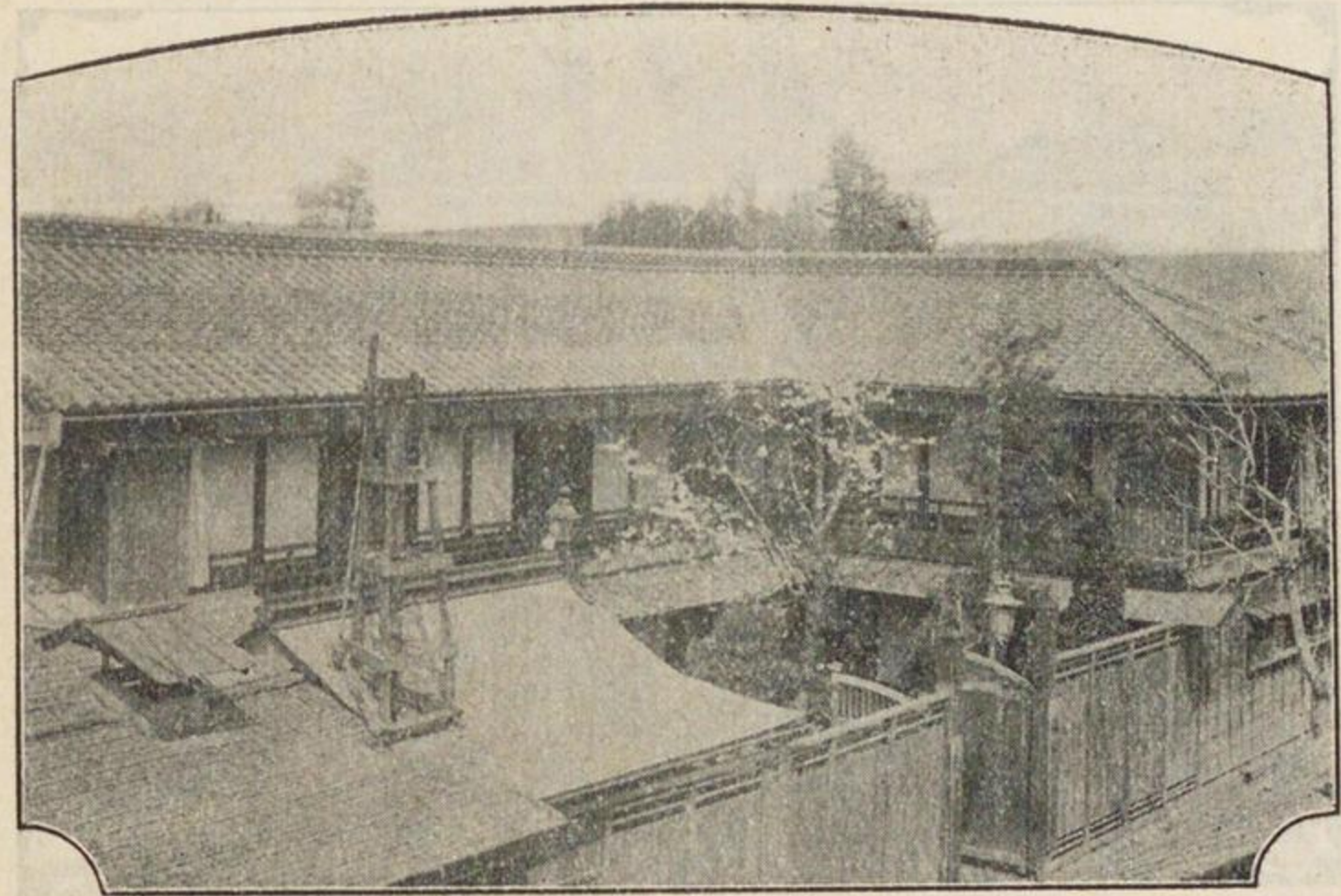


旅客諸君の御待遇に注意を拂
ひ御料理の新鮮を第一とし殊
に價格の底廉を以て本館の特
色と仕候

富岡町停車場前

旅館 蕪塚樓
御料理

電話二十五番



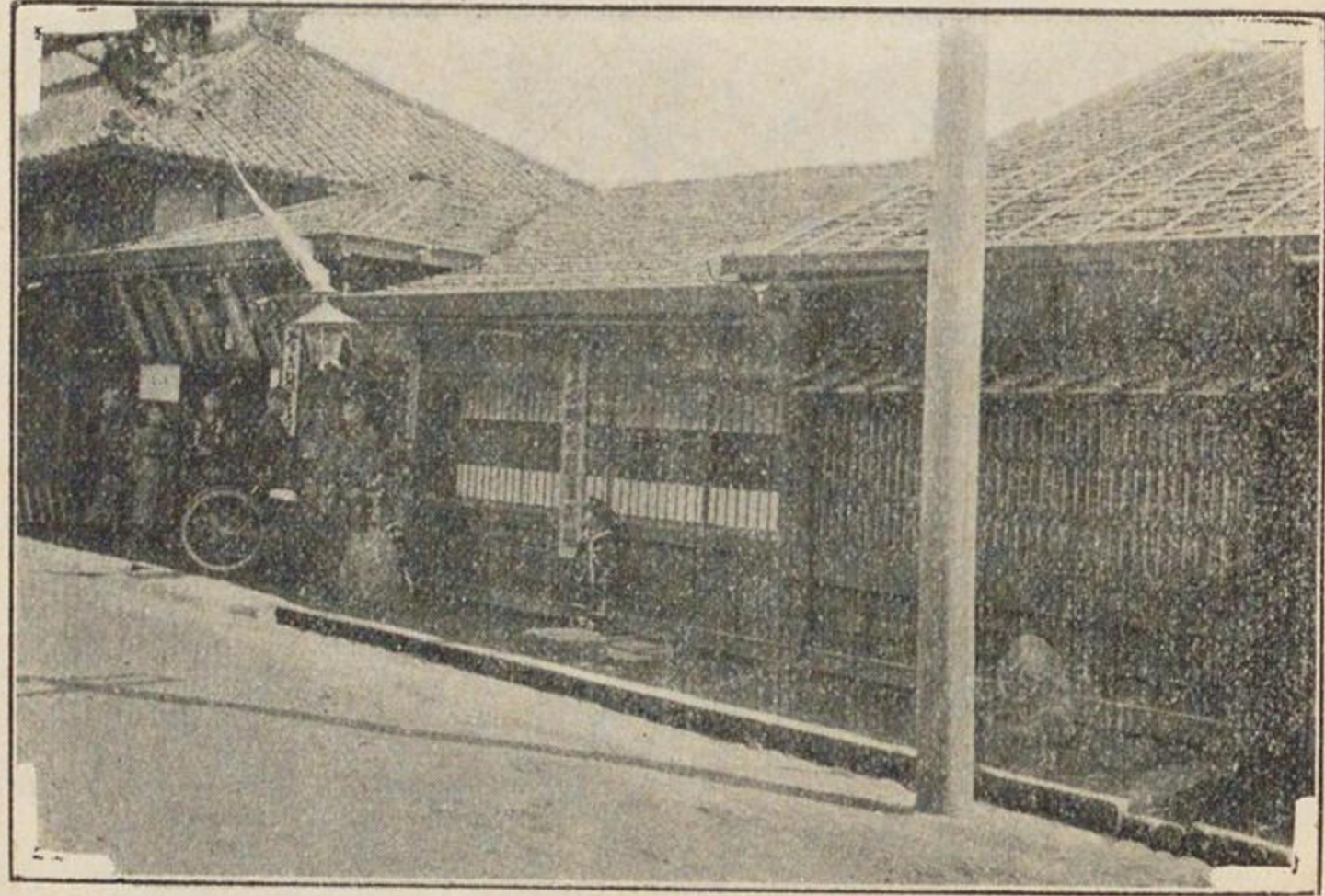
清潔なる多数の客室を
有し親切に勉強を以
て御客様を迎ふ之れ本
館の特色なり

富岡町郡役所脇

御旅館
御料理仕出し

大和屋

電話五番

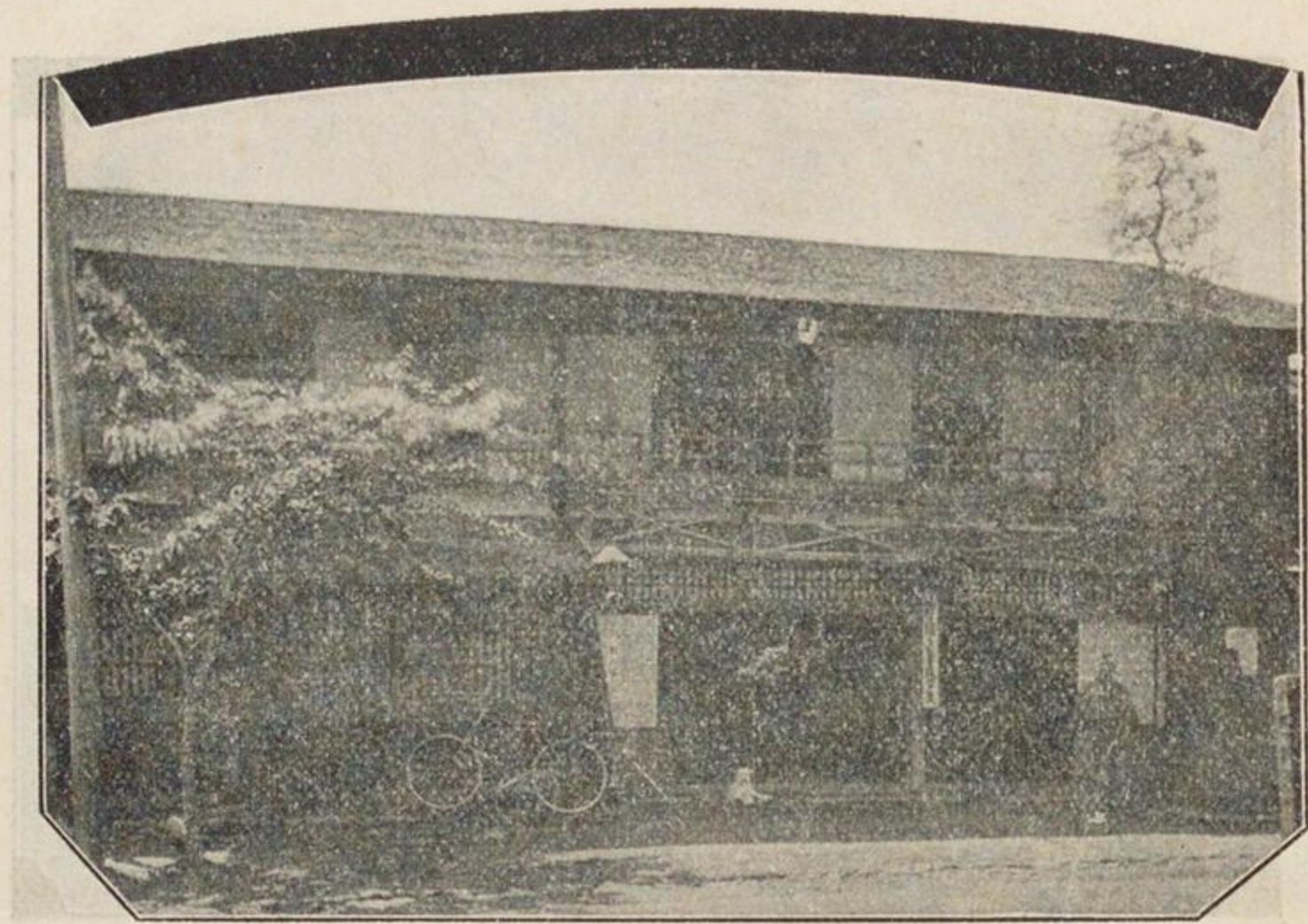


客室器具に
注意拂ひ

富岡町原製絲場前

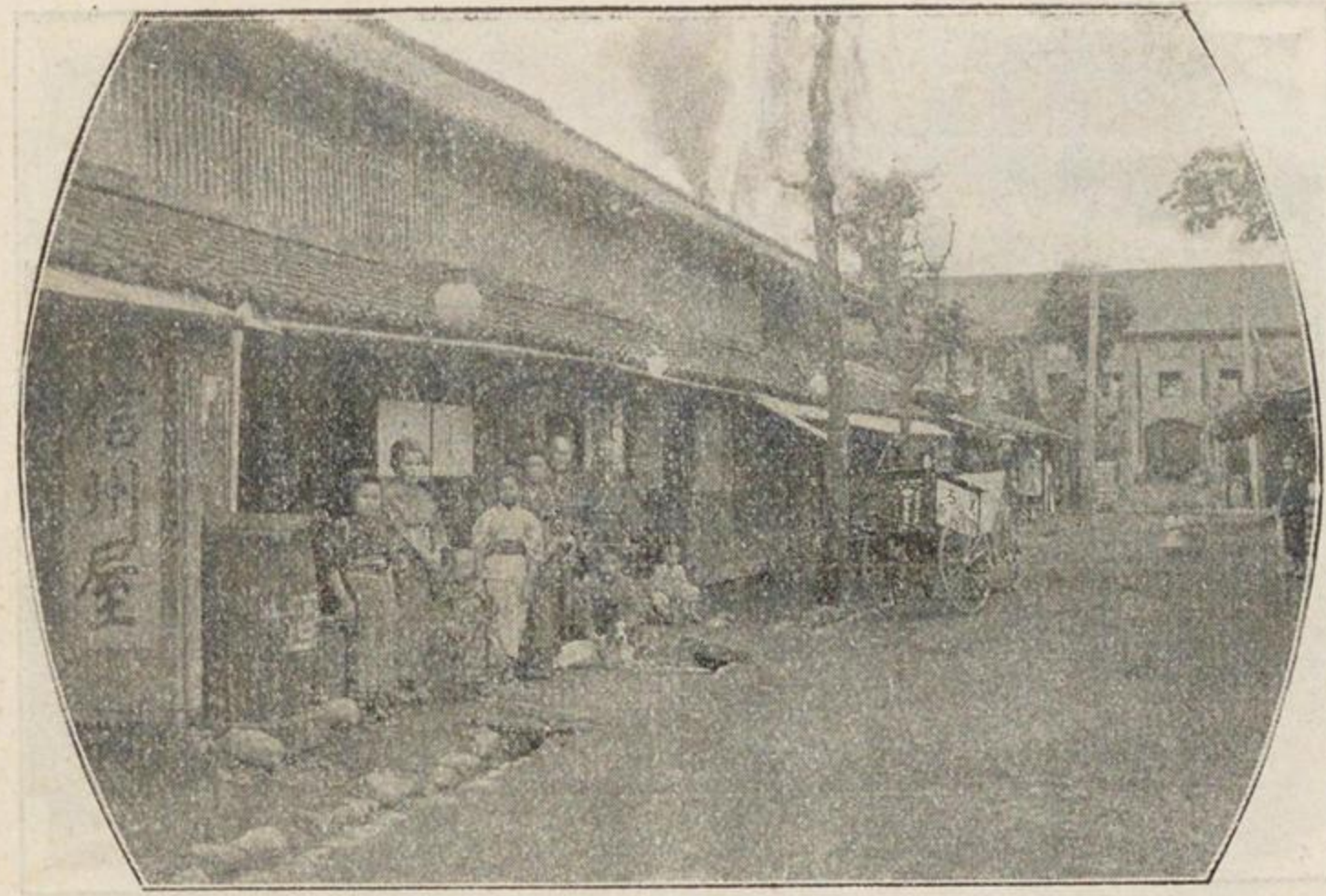
旅館 美濃屋

誠實と低廉とを
特色とす



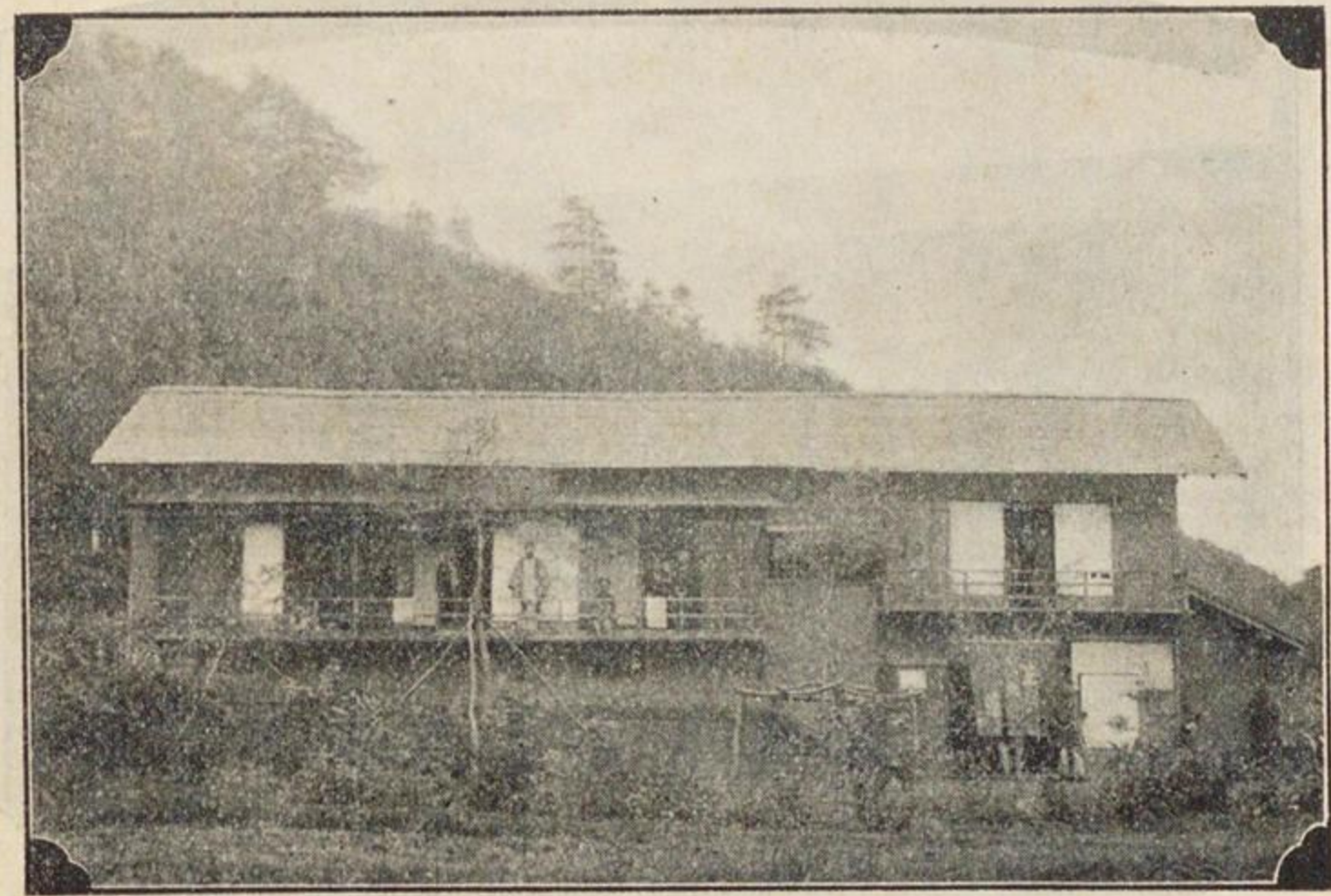
一ノ宮貫前神社前
 旅館 龜島屋
 御料理

本館は町の高地にあ
 りて眺望に富み懇篤
 と低廉さを以て華客
 を迎ふ



富岡町原製絲場前
 旅館 信州屋

低廉と親切さを
 以て本領とし
 誠實と勉強さを
 以て特色とす

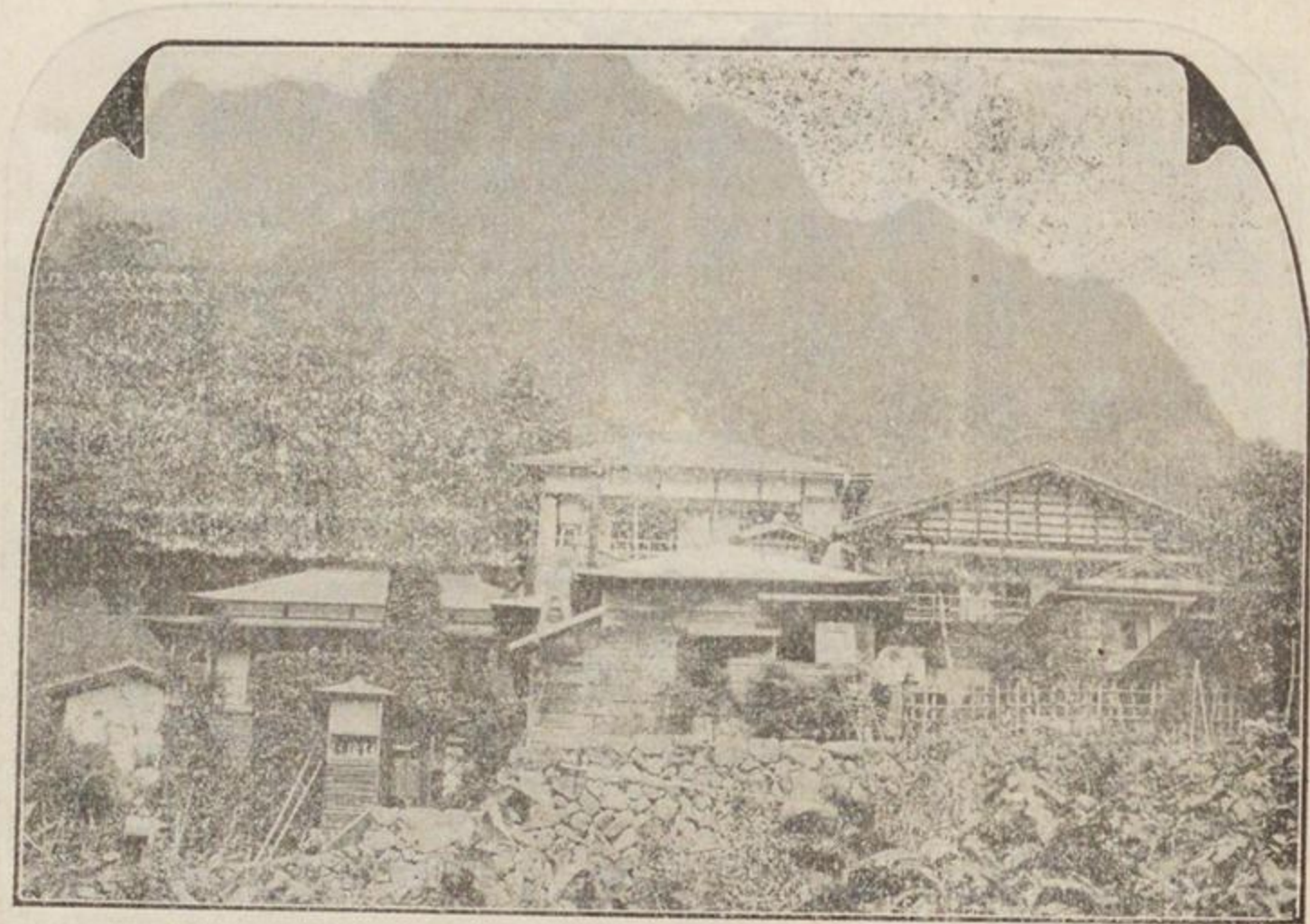


弊館は富岡町を距る一里弱にして一名を玉子の湯と稱す温度は華氏六十二度泉質は硫黄泉なり主として慢性痲痺私全皮膚病、全潰瘍、火傷疥癬等には尤も効あり加ふるに諸事總て吁嚀懇切に取扱可申候間何卒御入浴の程奉願上候

福島町大字君川

君川玉子の湯

寺田榮吉



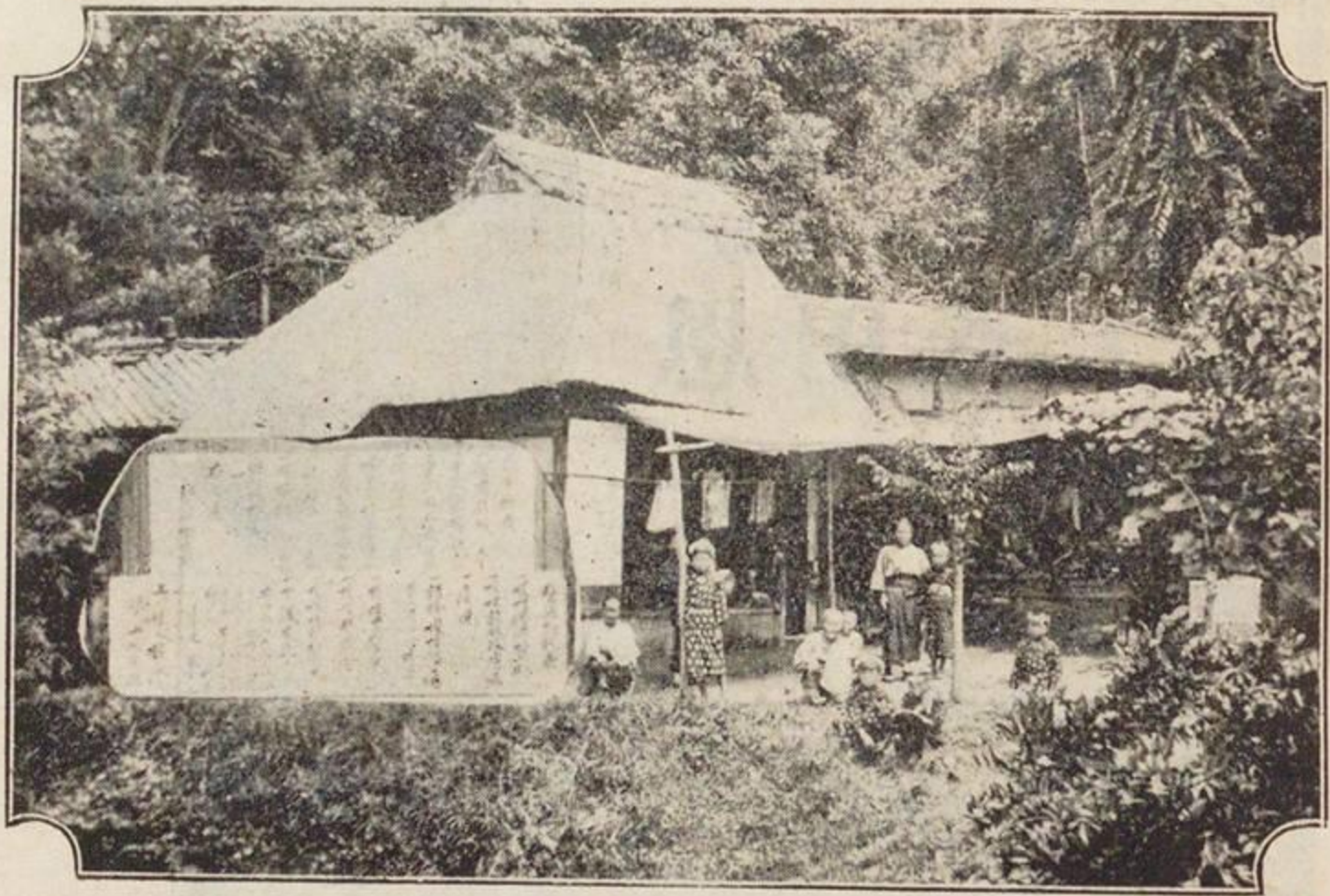
◎妙義の一大旅館◎
文化元年の創業◎

妙義山突當りに位し四時の風色天然の雅景に富む殊に紅葉の美觀と眺望の佳絶に至ては大に誇るべき天與の仙境なり

北甘樂郡妙義町

養氣館

ひし屋傳平



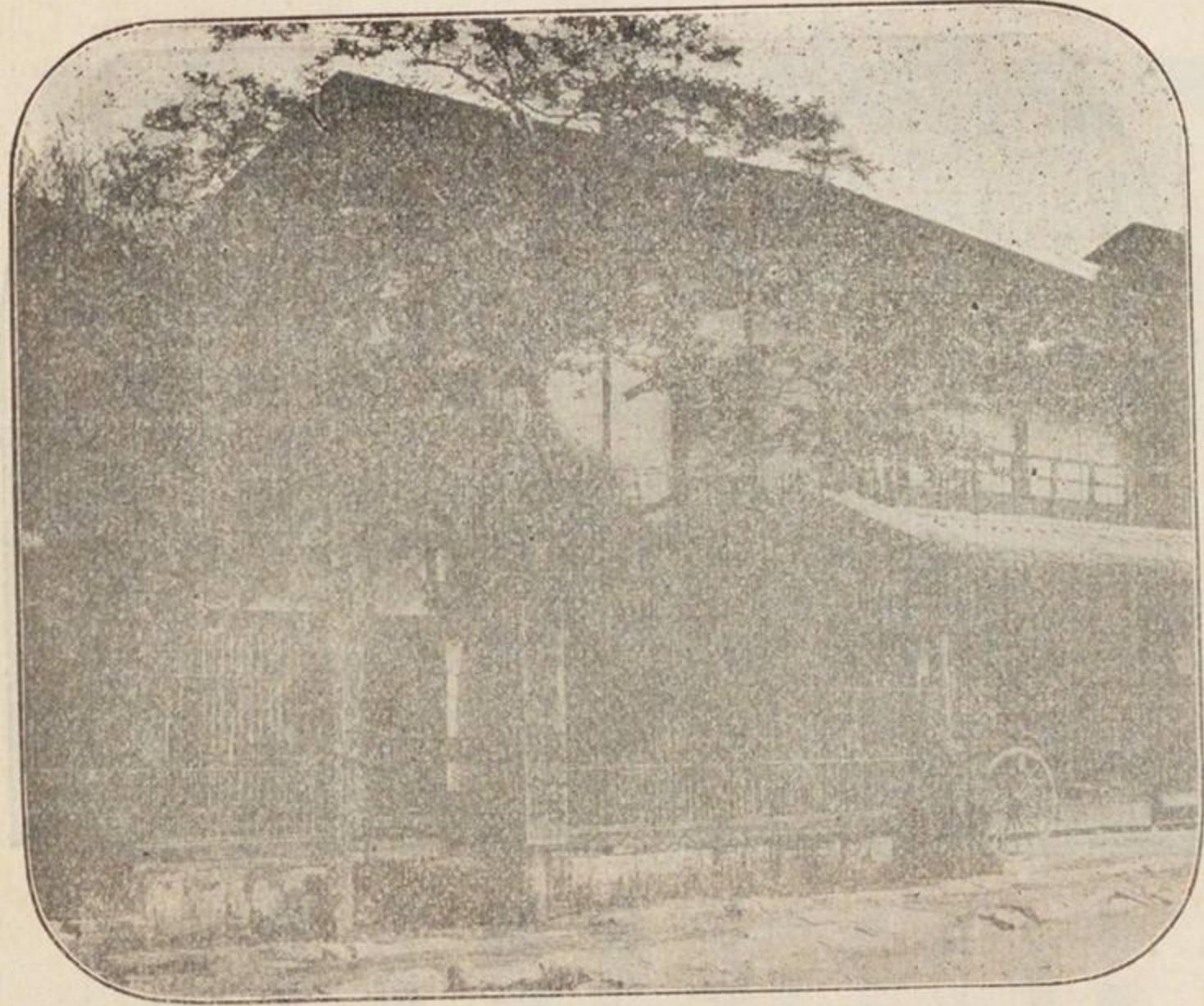
當館は岩平村大字坂口にあり
富岡町一ノ宮町を距ると遠か
らず極めて閑靜にして御療養
に宜敷殊に御客様に對し尤も
御便利に且贅費を省き申候

岩平村大字坂口

鹽ノ入 山崎榮助

主治効能

慢性皮膚病、腺病、胃弱、肝臟病、
神經痛に特効あり



下仁田町(電話五番)

旅館 杉原旅館

料理清鮮客室清潔待遇懇切價格底廉
此れ本館の誇りとする處

名所案内

黑瀧山不動尊	三
妙義中之嶽	二
稻含山	三
青倉石灰山	三
風口鐘乳洞	十
武田郡雲齊	八
高崎藩士戰場	四
鷹巢城跡	五
一ノ宮貫前神社	二

其他名所勝景不尠仰に従ひ一々御案内申上候

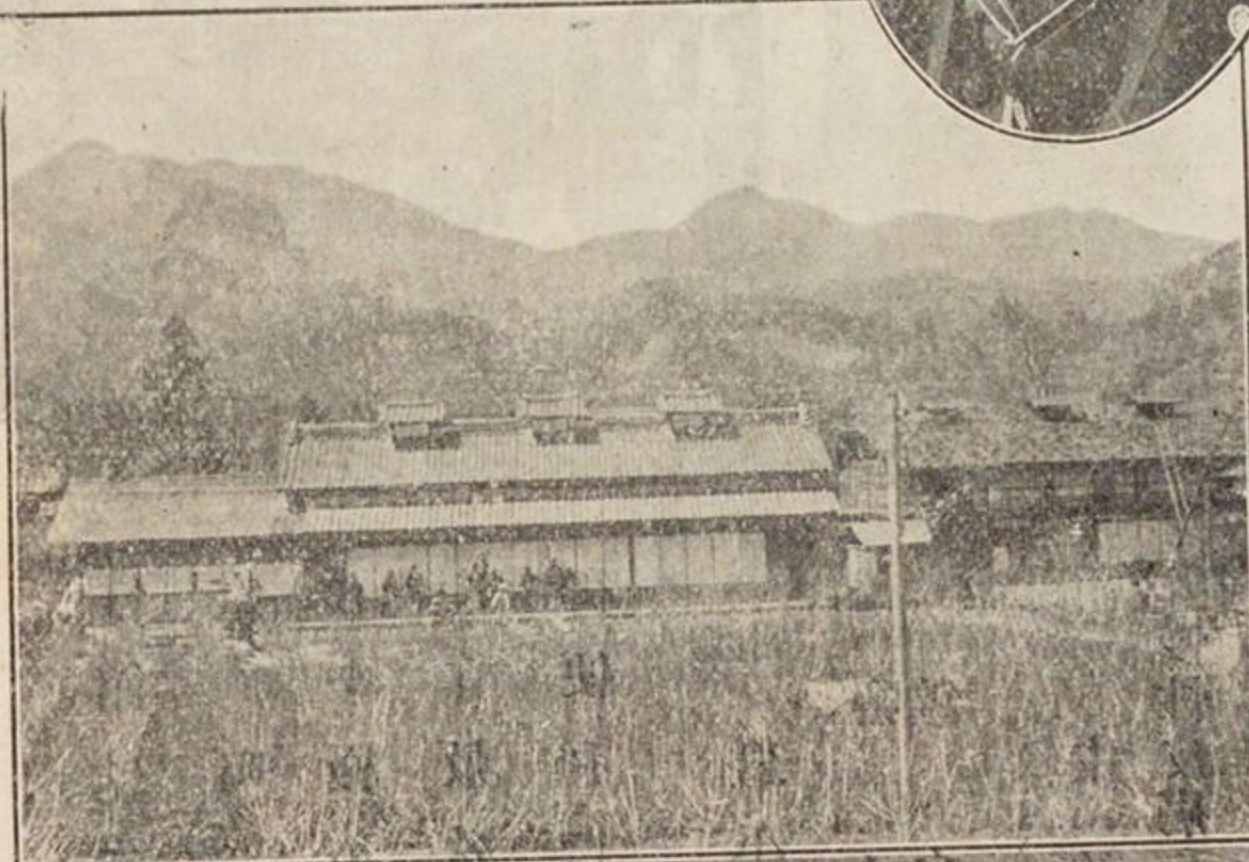
競進社第三廿支部

甘樂養蠶傳習所

群馬縣北甘樂郡馬山村大字

馬山村三六一

恩田彦太郎



蠶桑園

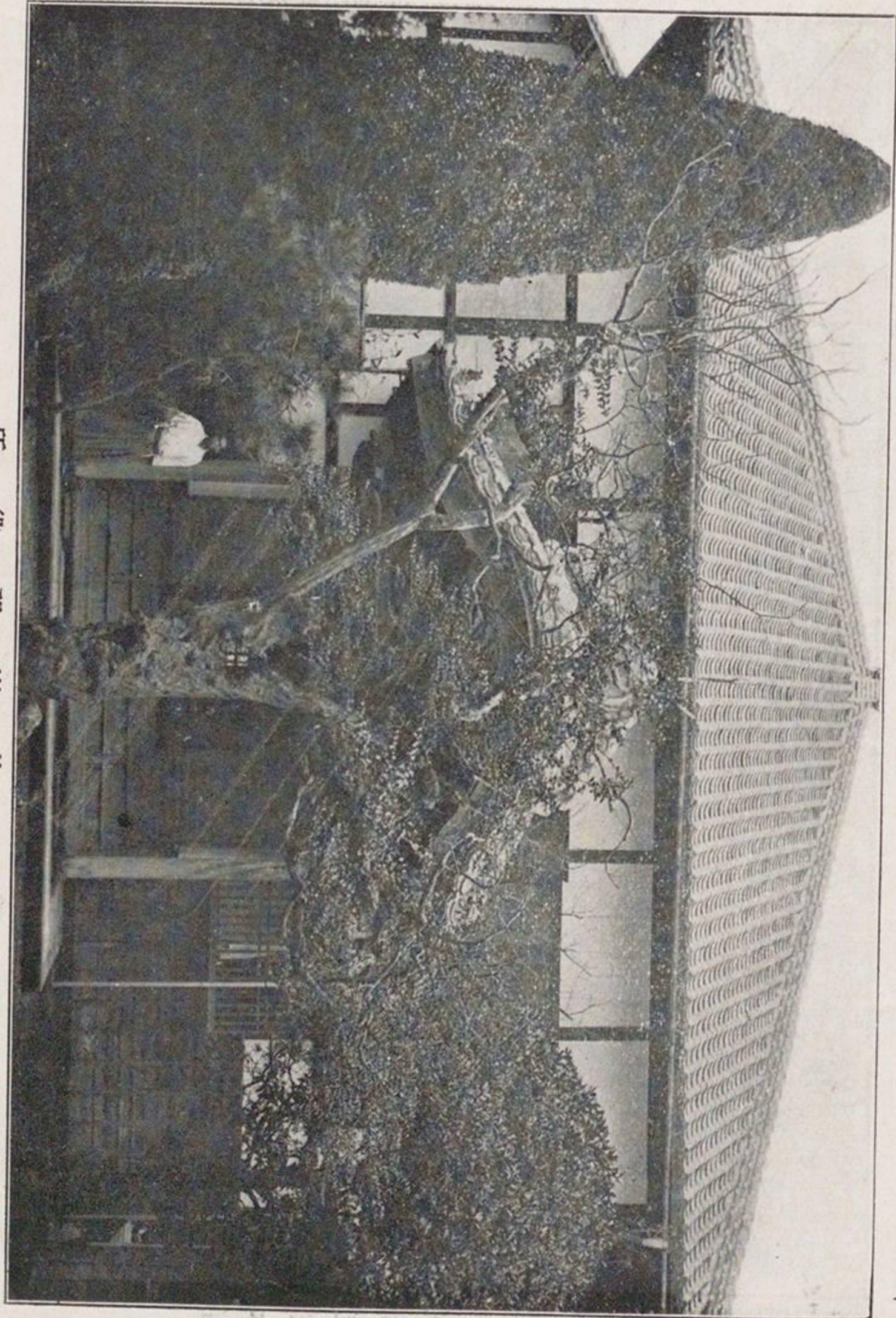


蠶種販賣廣告

種類及代金

優等しら玉	一升二百二十粒	絲量十六匁	框製一枚金九十錢	平附一枚金二圓七十錢
しら玉	一升二百五十粒	絲量十四匁	框製一枚金八十錢	平附一枚金二圓五十錢
伊達錦	一升二百四十粒	絲量十四匁	框製一枚金七十錢	平附一枚金二圓五十錢
又昔	一升二百四十粒	絲量十四匁	框製一枚金八十錢	平附一枚金二圓五十錢
媛蠶	一升二百五十粒	絲量十三匁	框製一枚金七十錢	平附一枚金二圓五十錢
風穴白龍	一升二百三十粒	絲量十三匁	框製一枚金八十錢	平附一枚金二圓五十錢

右何れも虫質強健飼育容易にして糸質最も善良なれば當所製造蠶種の特徴なる事世既に定論あり乞ふ愛育家諸君一度御試育の上陸續御引立あらん事を



北 甘 樂 郡 役 所

營 業 の 特 色

印刷物は種類の如何に
拘はらず貴需に應じ可
申候
弊店の特色は最も物品
の精良を期し出来期日
を違へず誠意懇切を旨
となすに御座候
諸般の設備に對し専ら
新式の應用に努め日に
月に改良を施し有之候

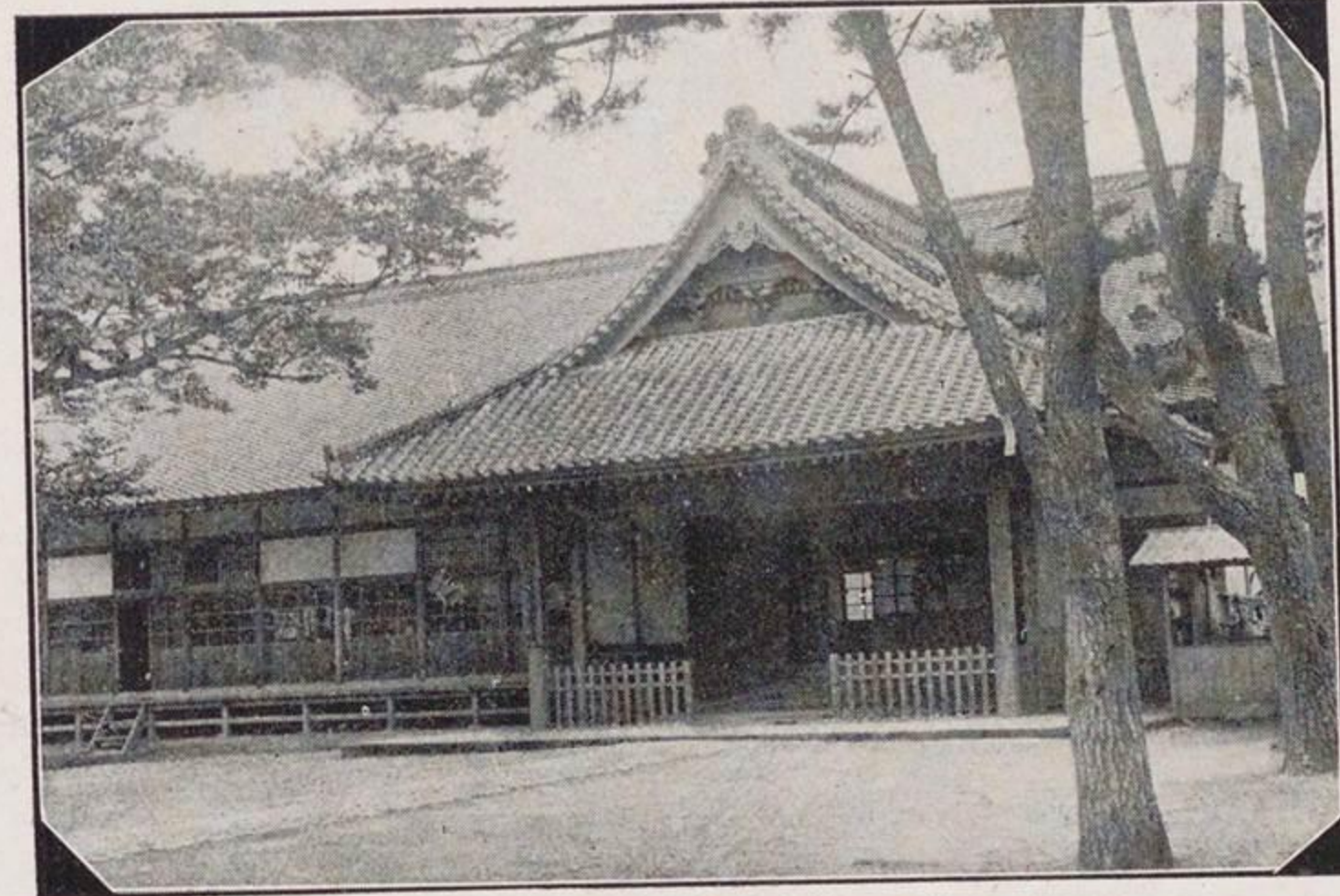
前 橋 市 北 曲 輪 町

前 橋 印 刷 所

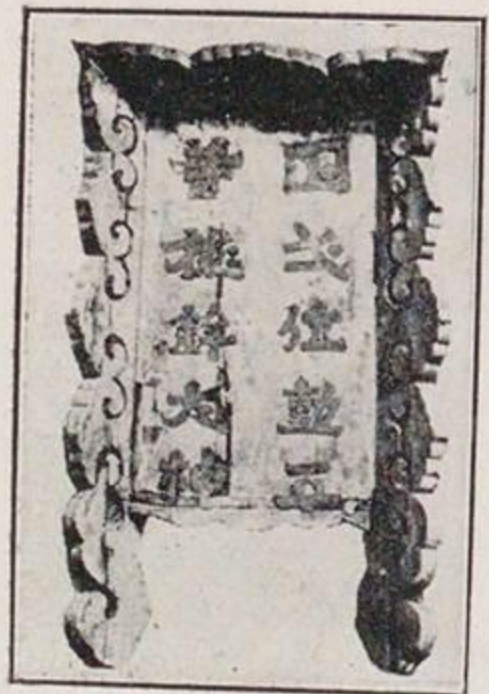
〔 電 話 三 二 〇 番 〕



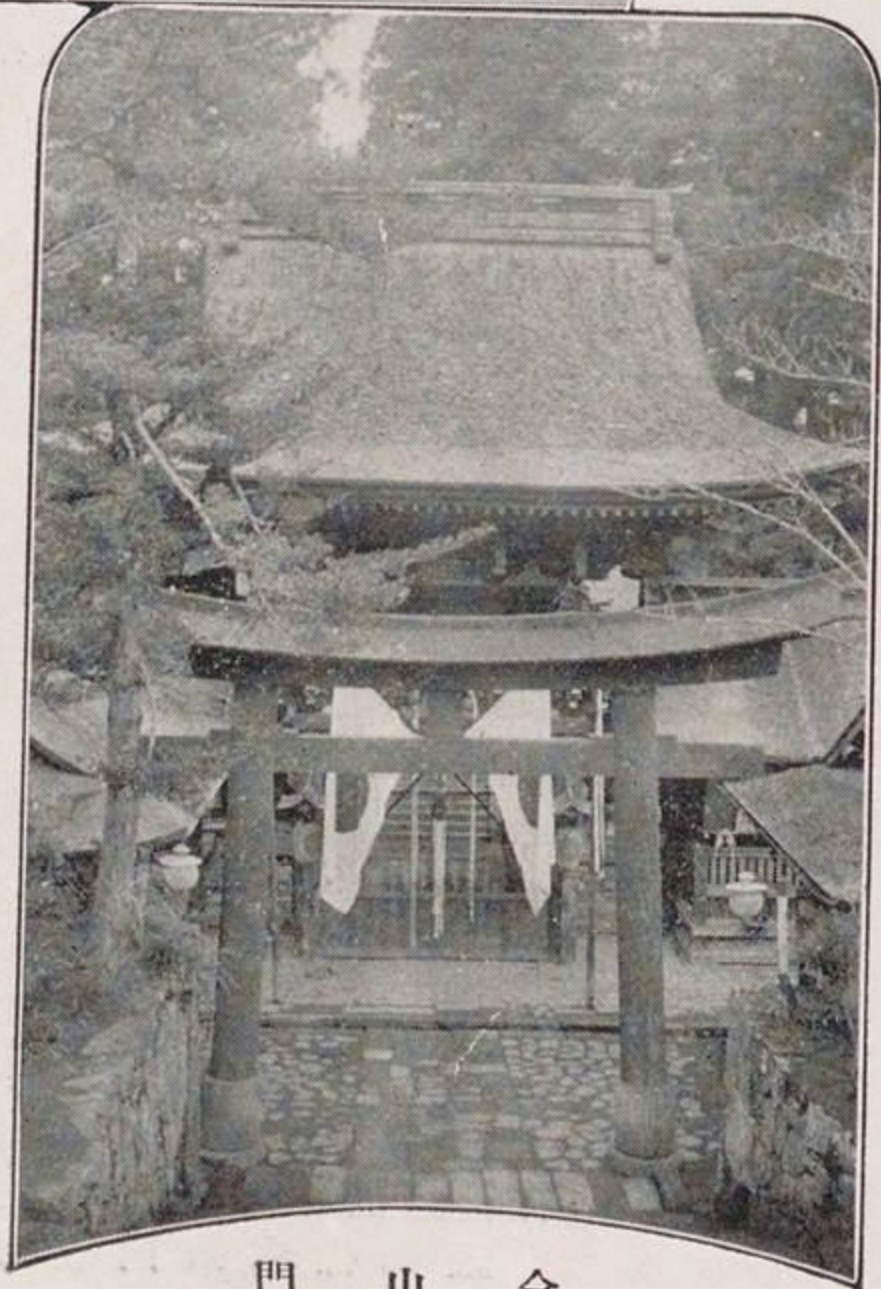
一ノ宮神社本殿



富岡中學校

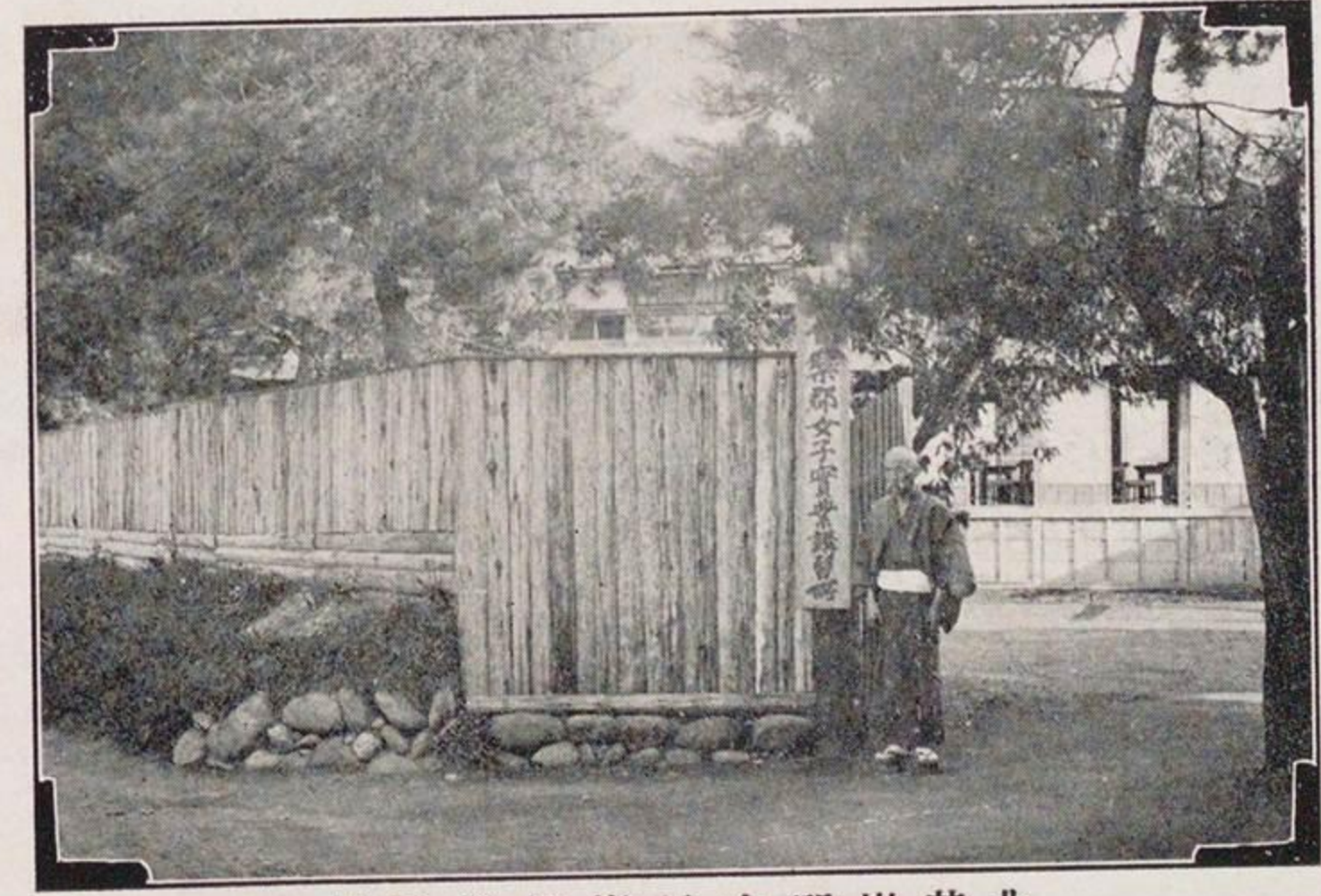


全勅額



全山門

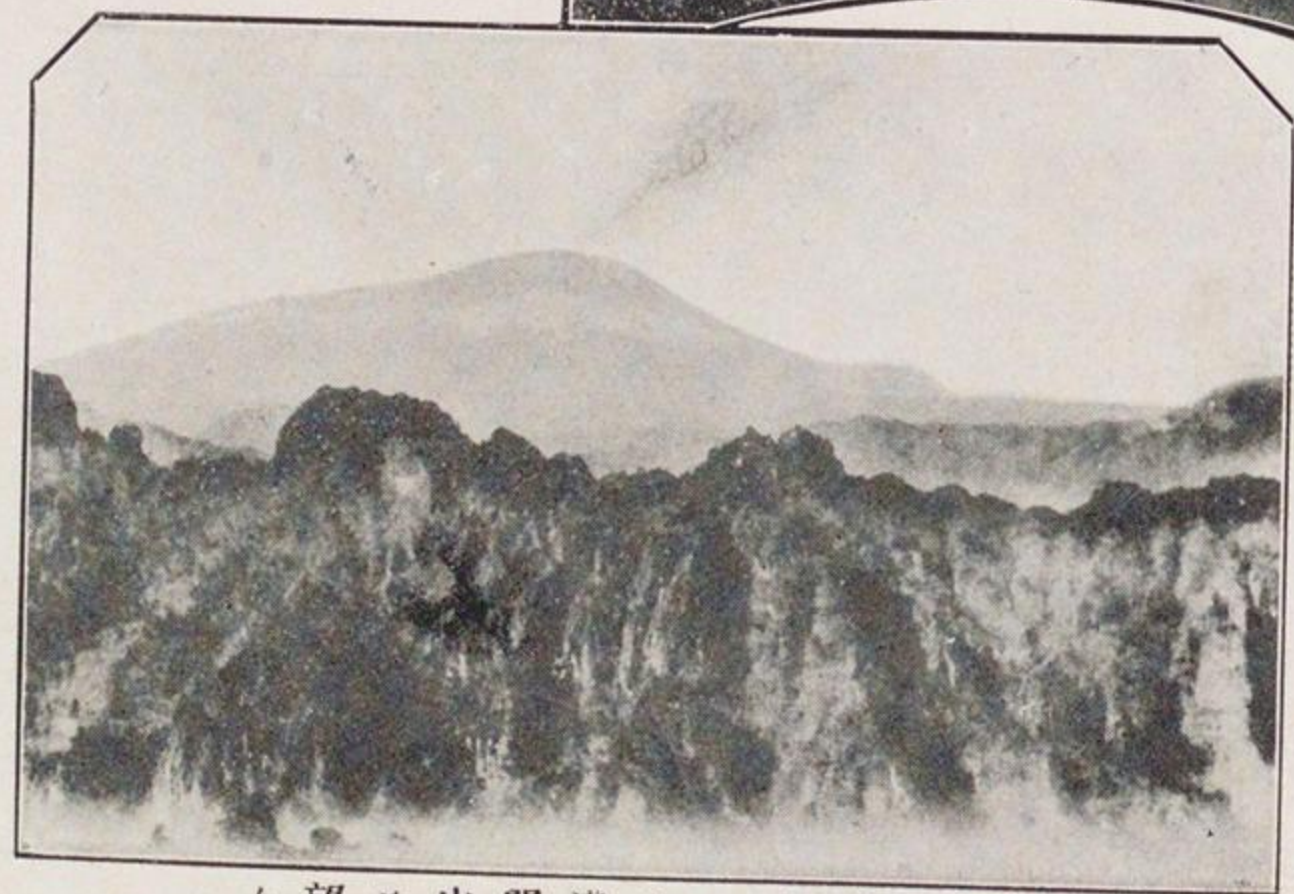
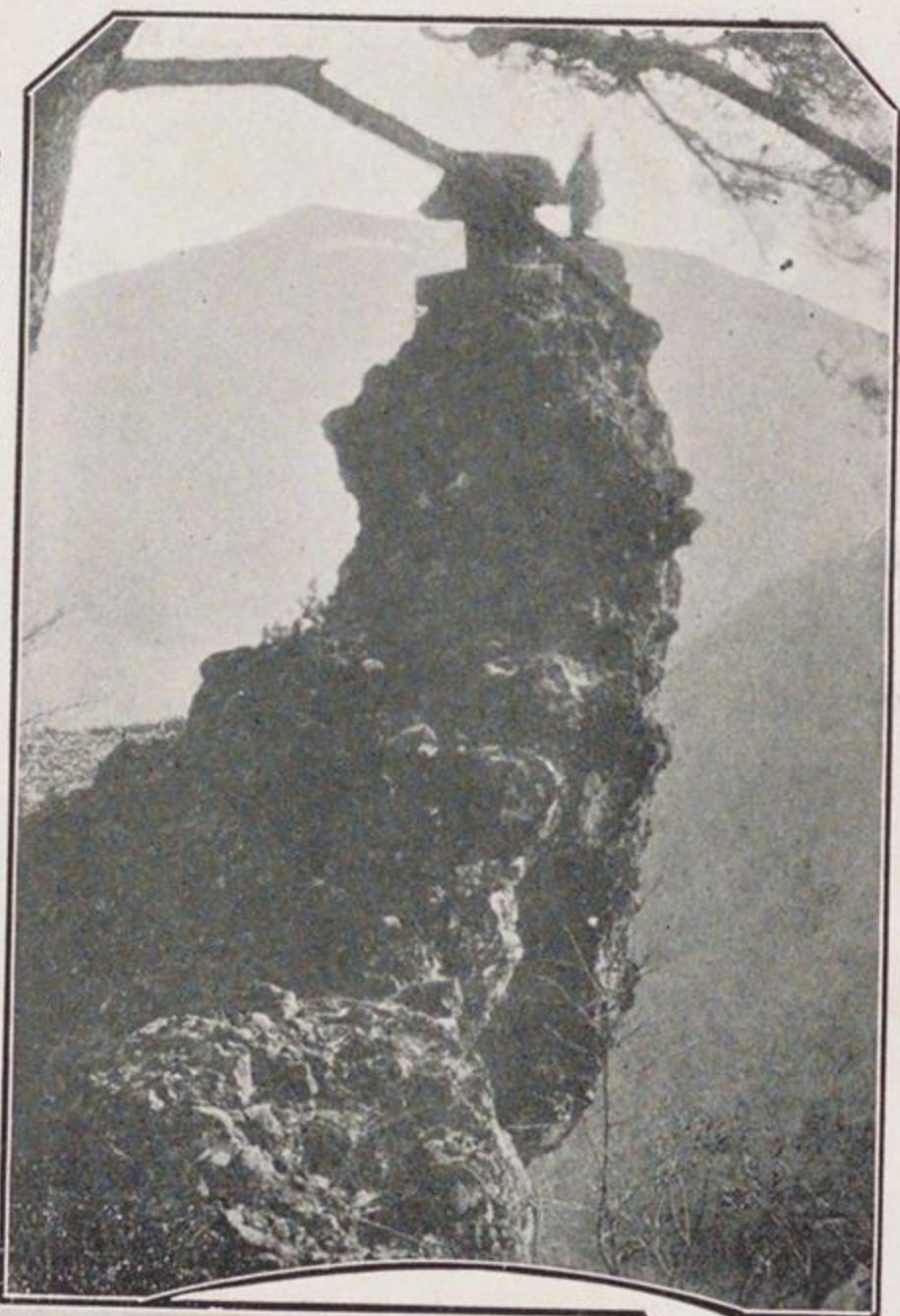
三



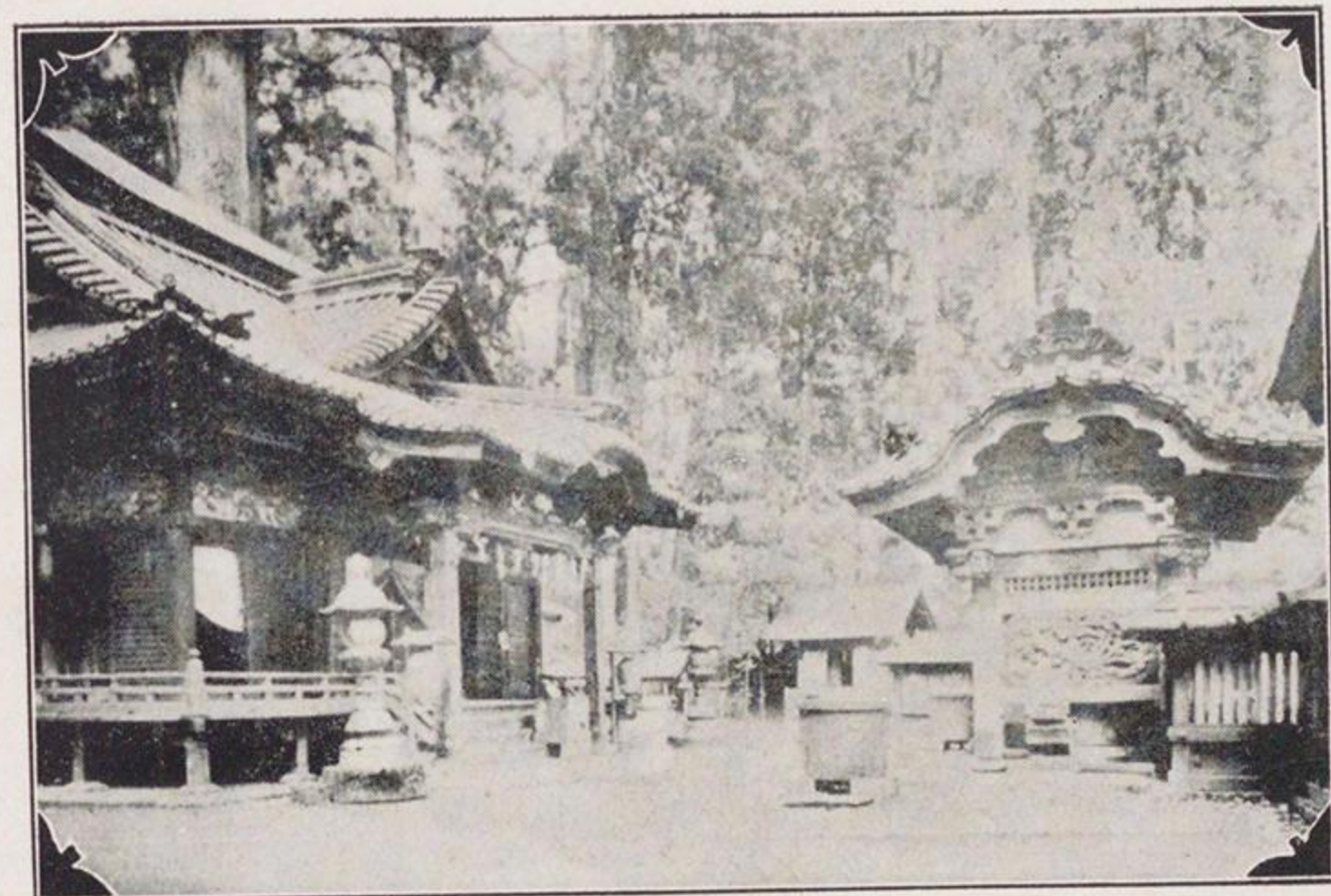
北甘樂郡女子實業講習所

二

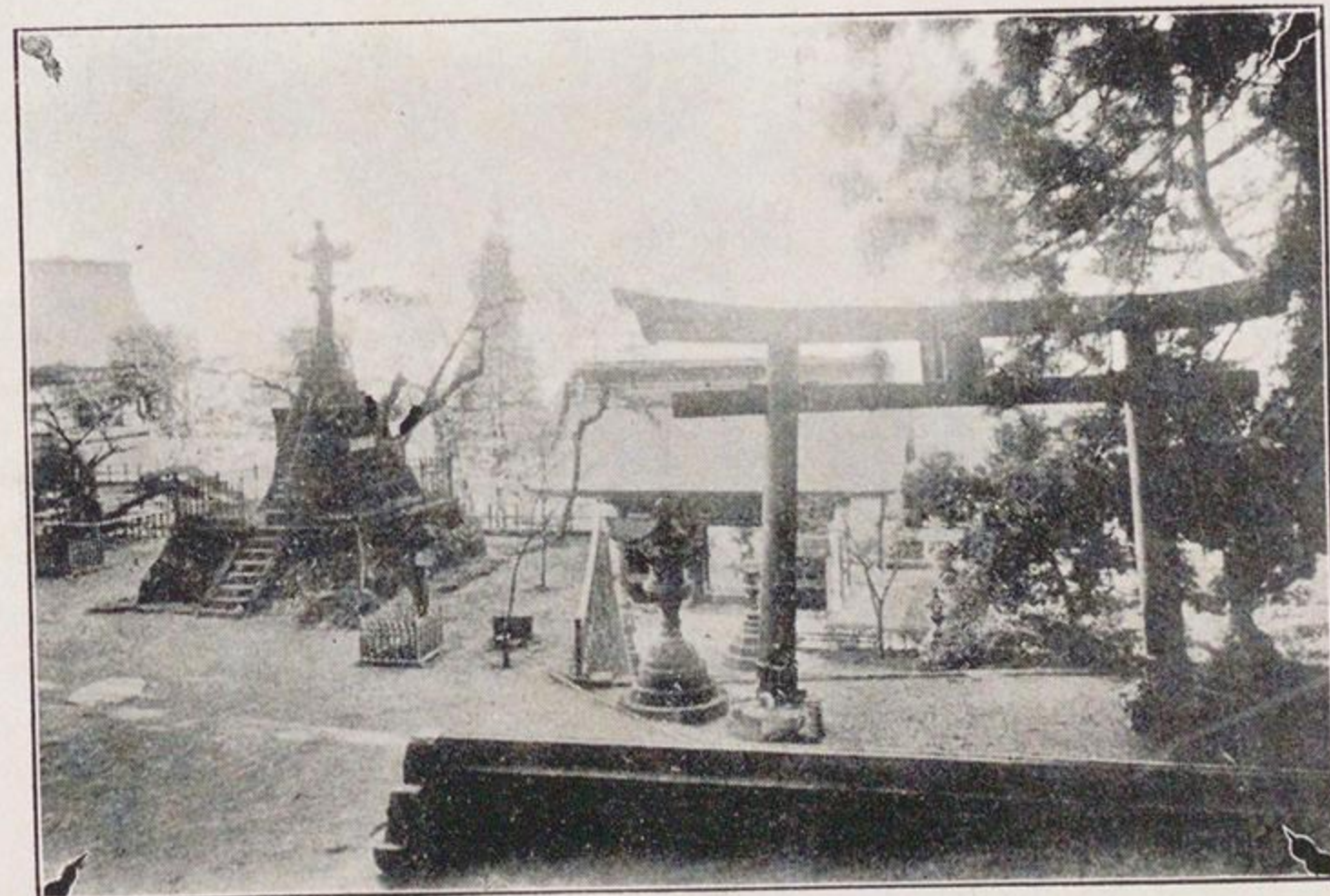
妙義町金鷄山御嶽御座所岩



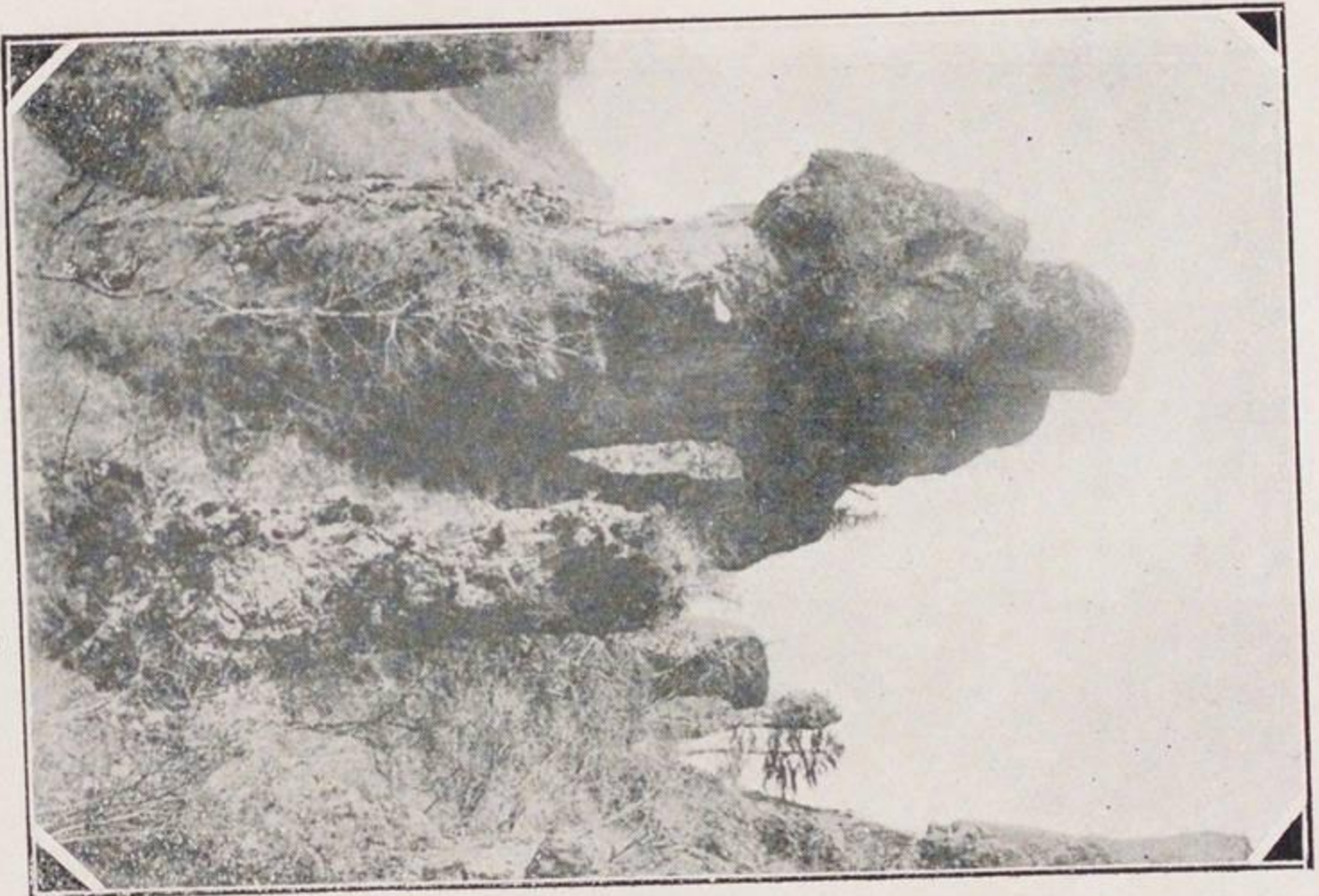
△望ヲ山間淺リヨ山雲白義妙全



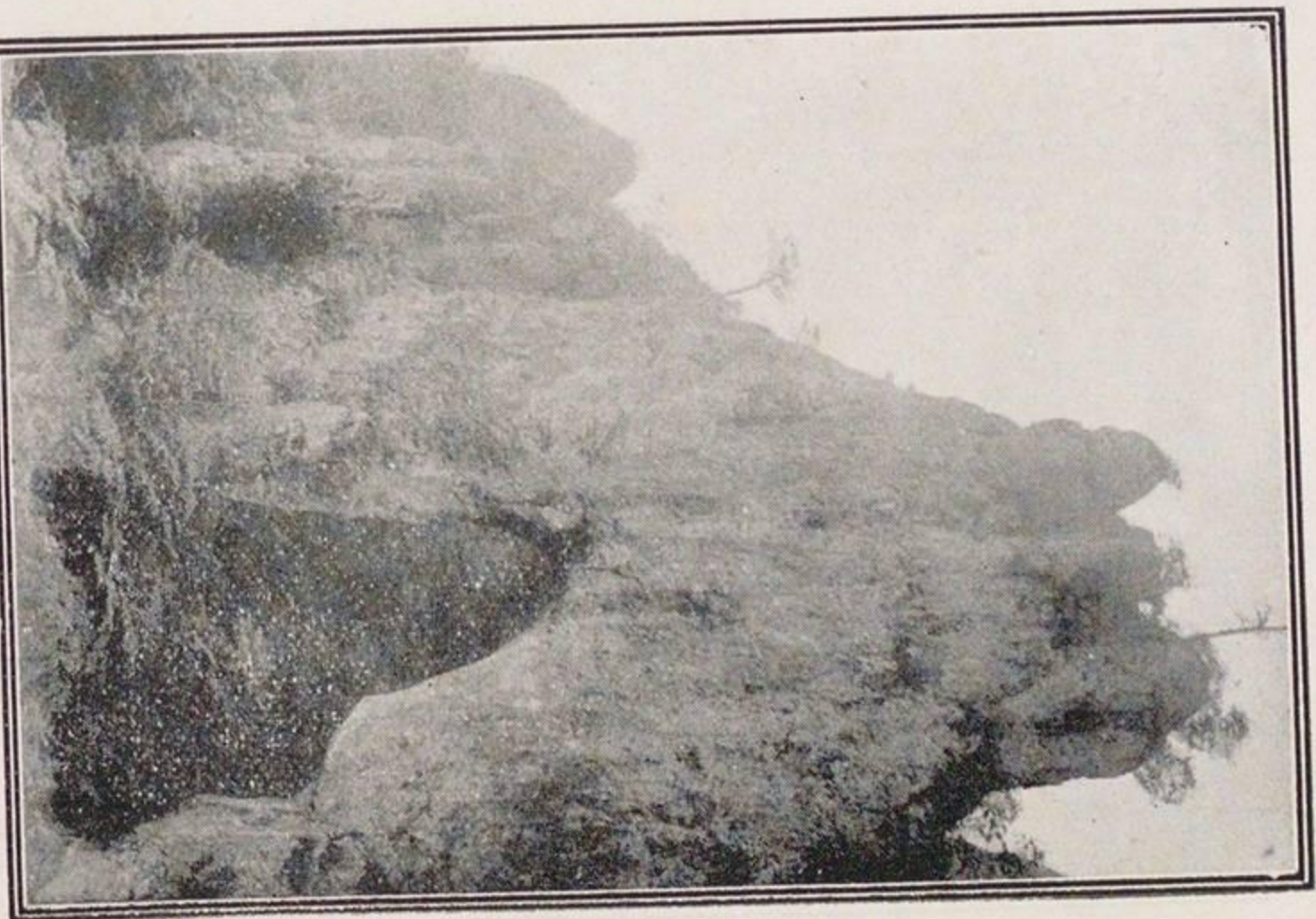
門唐及殿拜社神義妙



殿御様宮及門樓社神義妙



門石二第全

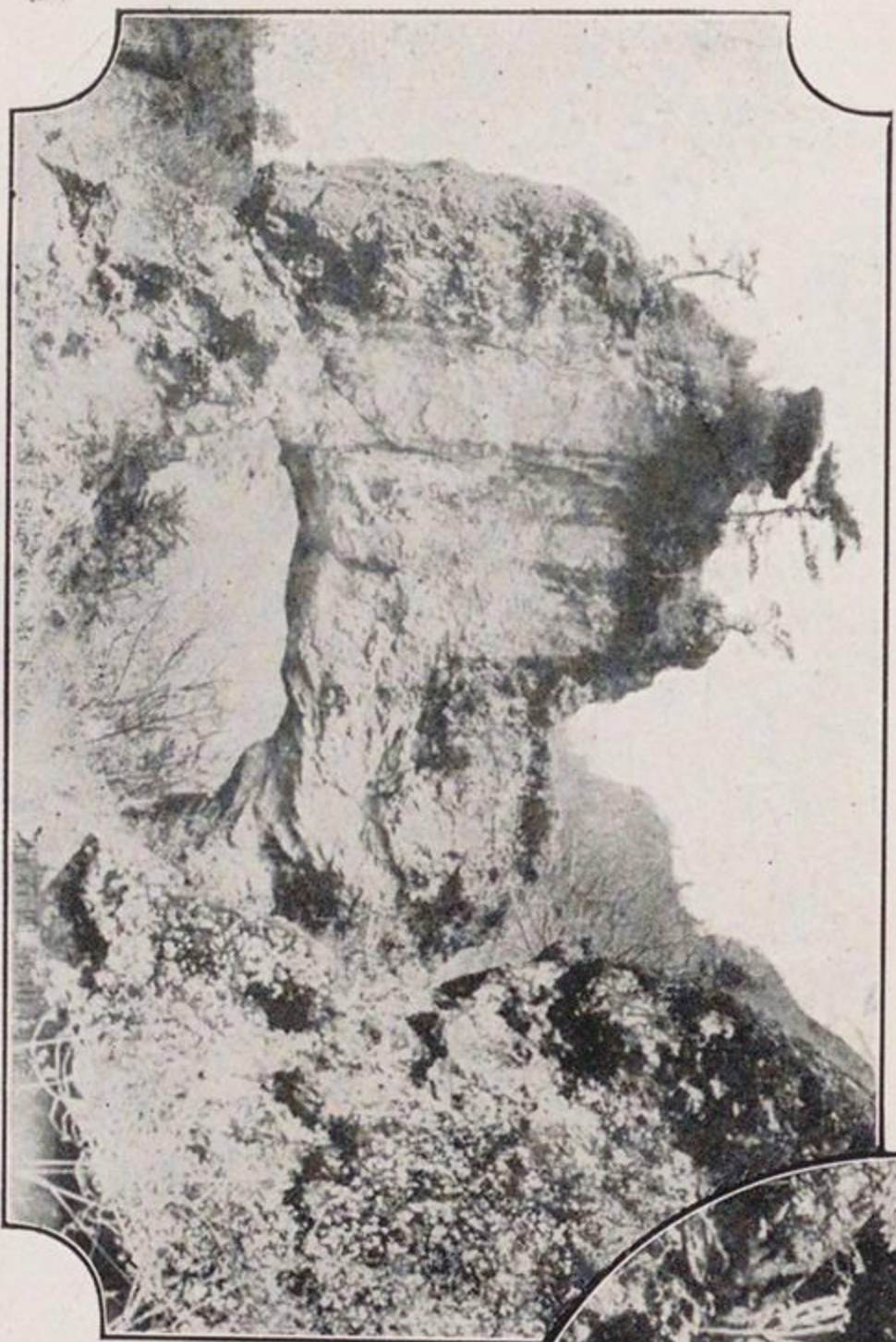


門石一第山洞全

六

七

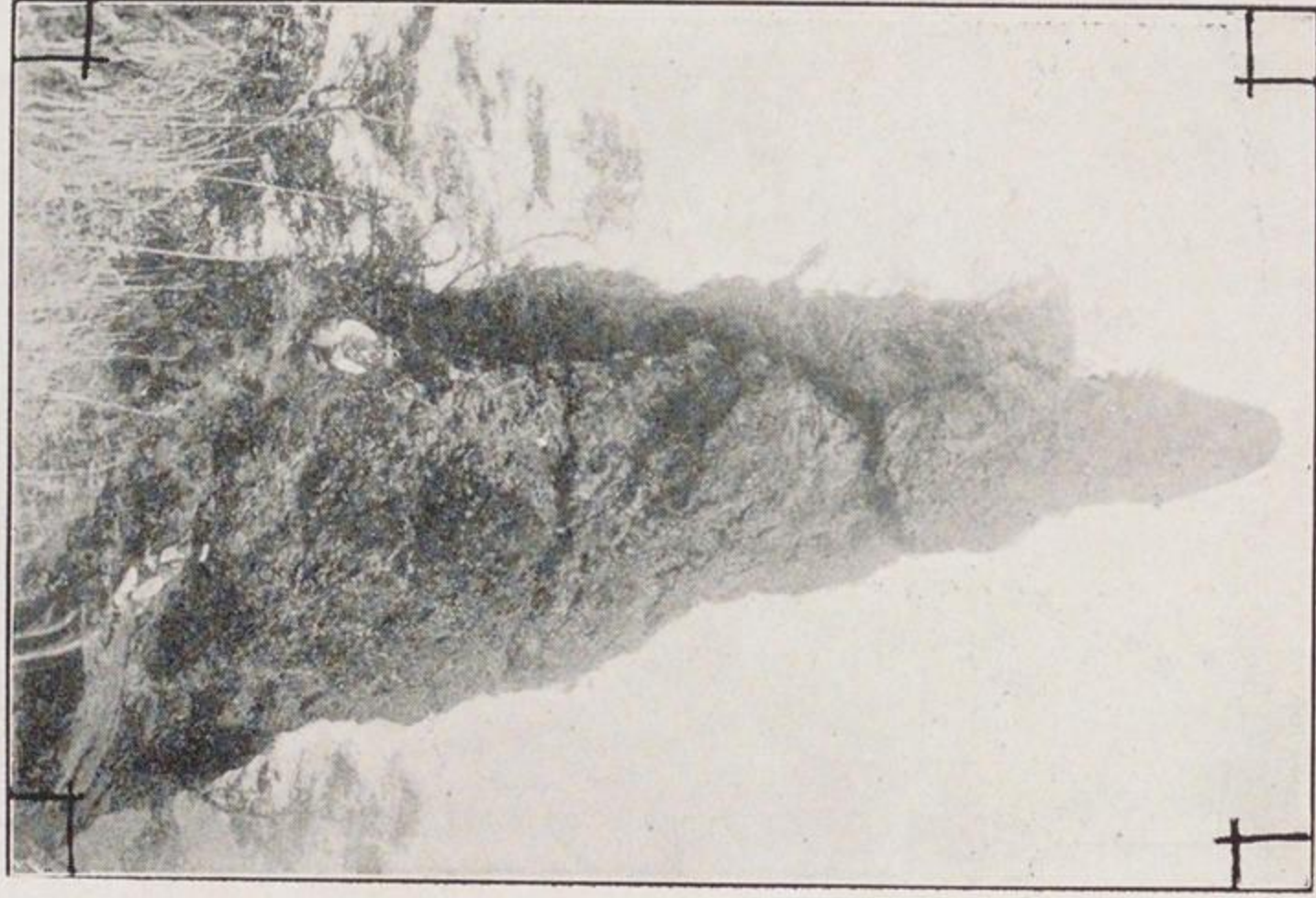
門石四第全



門石三第山洞全



岩頭筆山鶴金



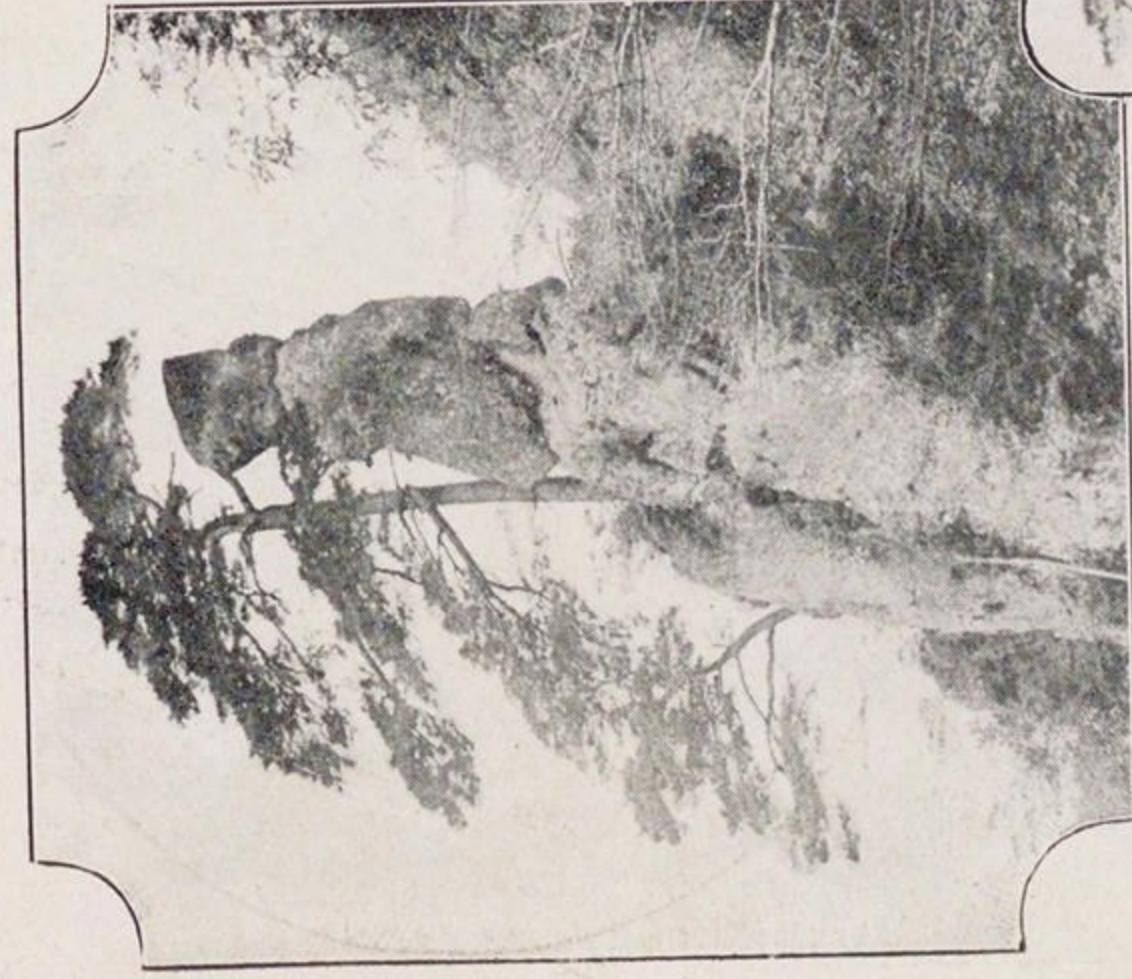
瀧の綾玉山洞金



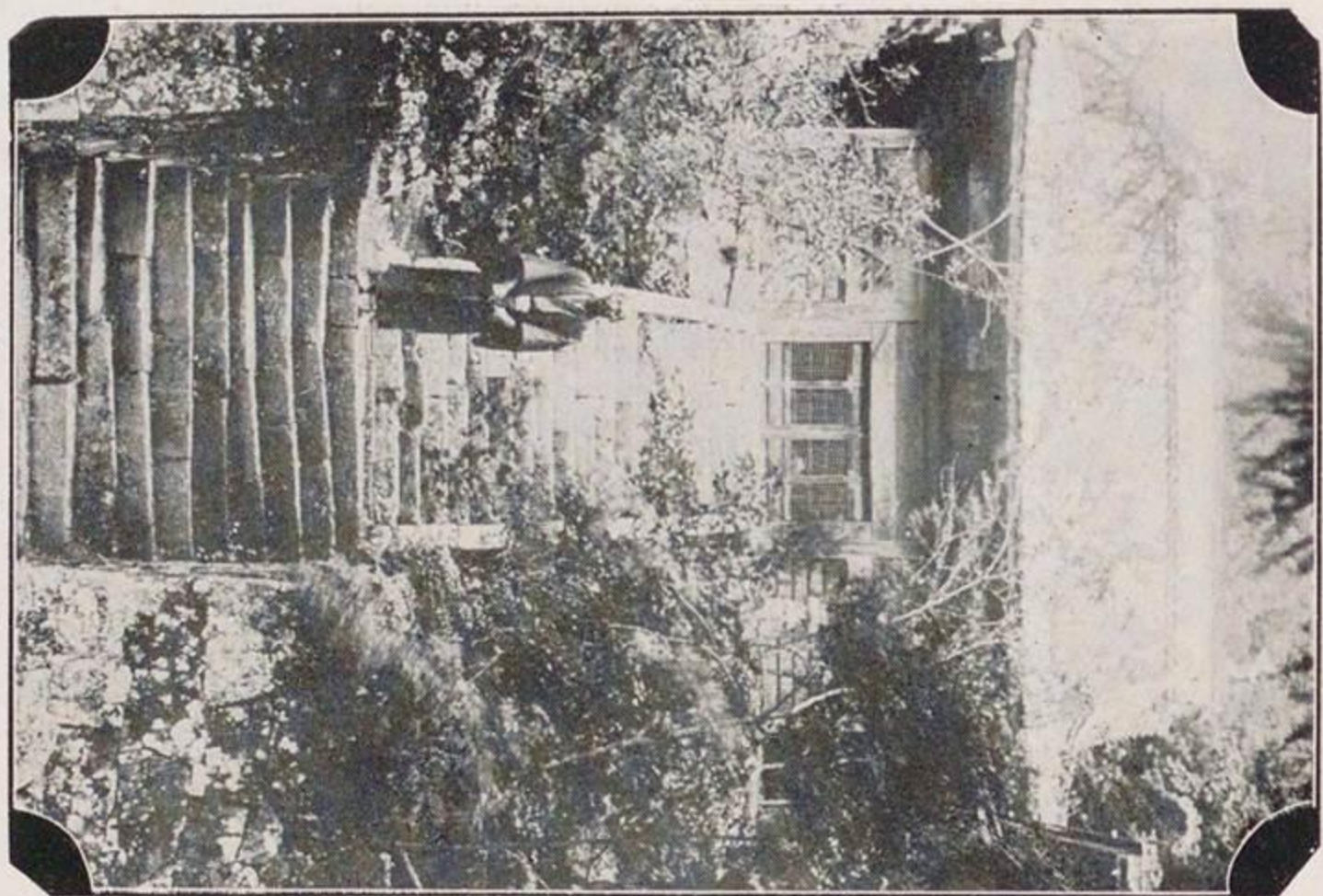
岩鏡山洞金



岩黒大全



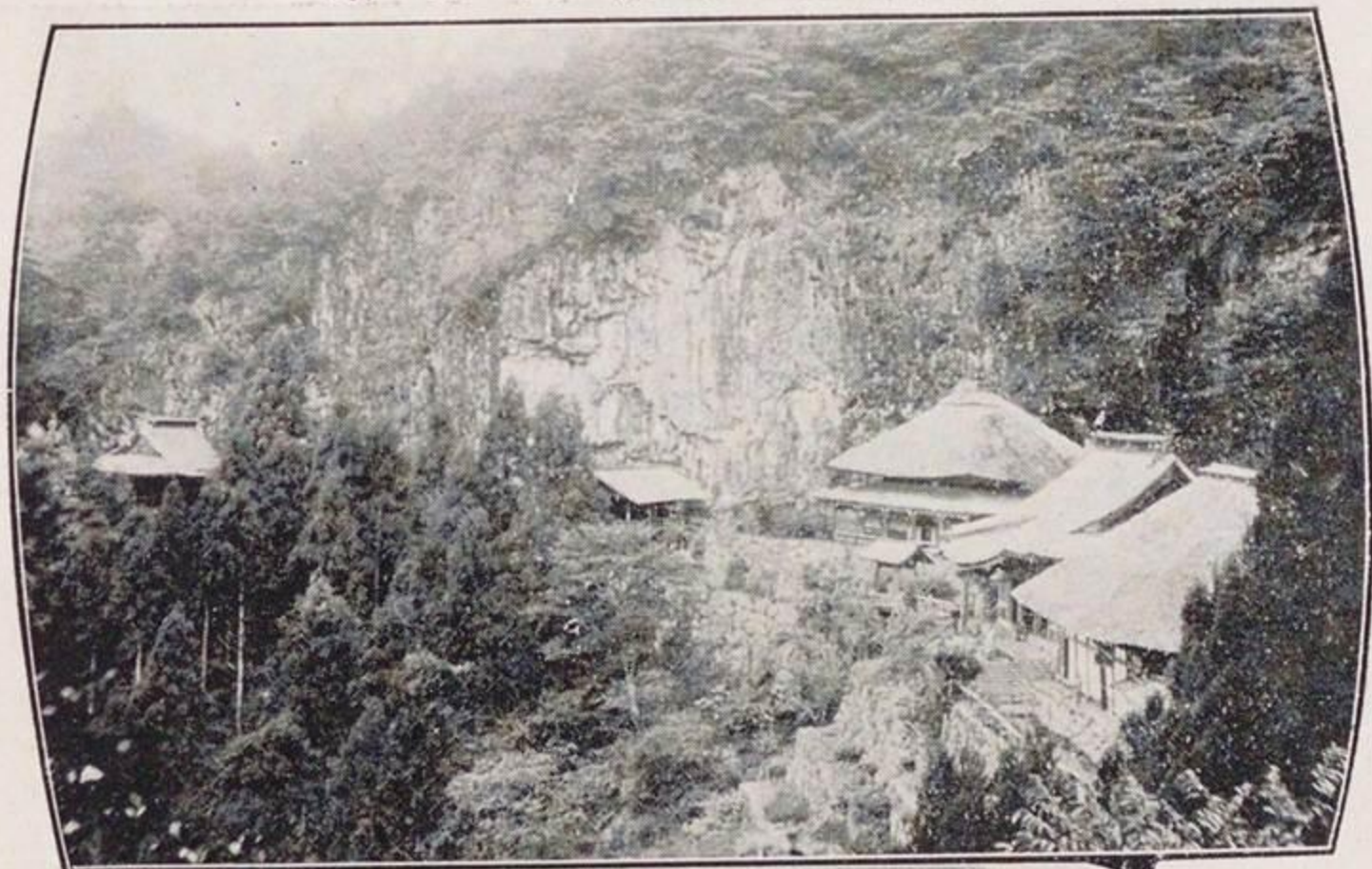
全開山堂



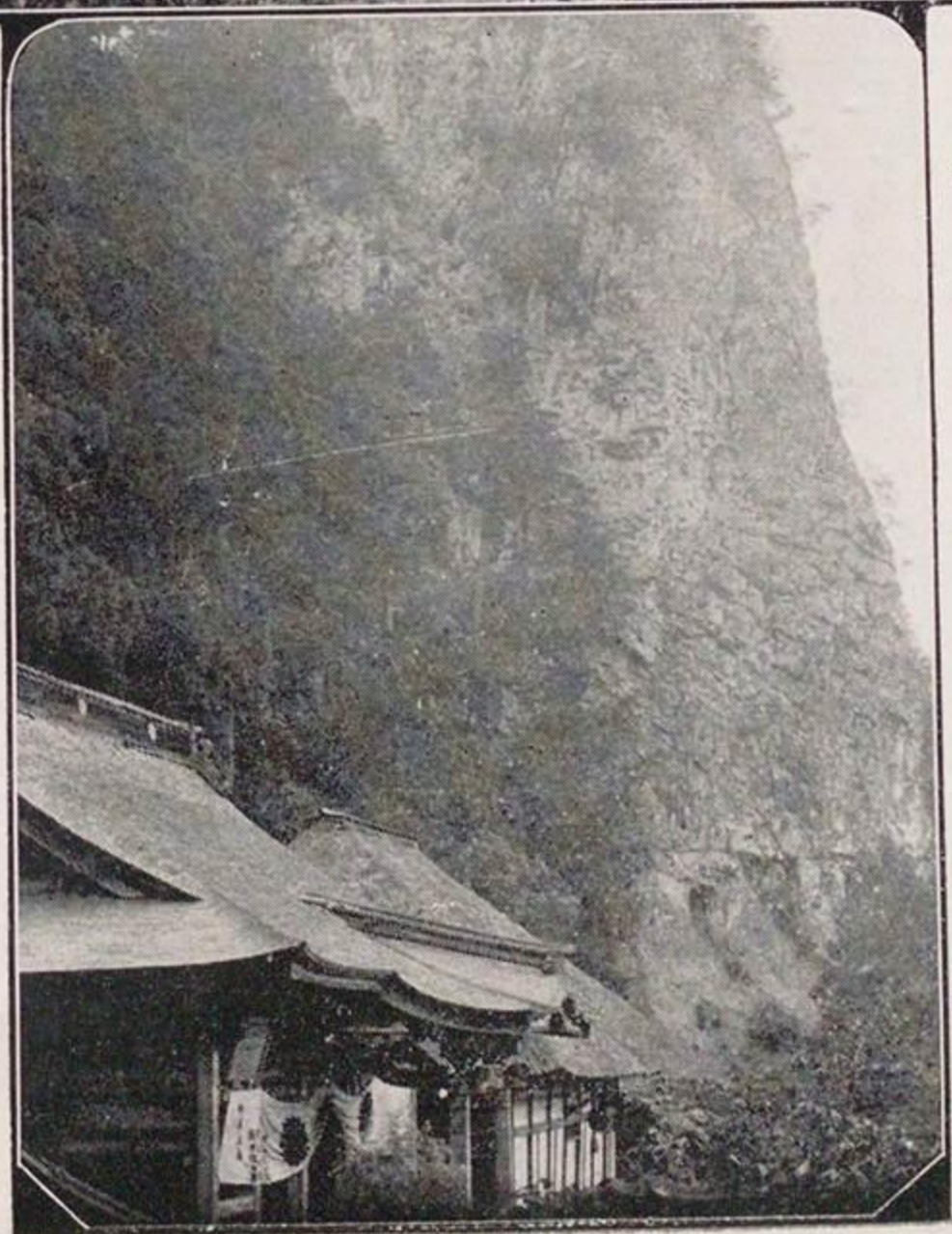
景瀧不動山



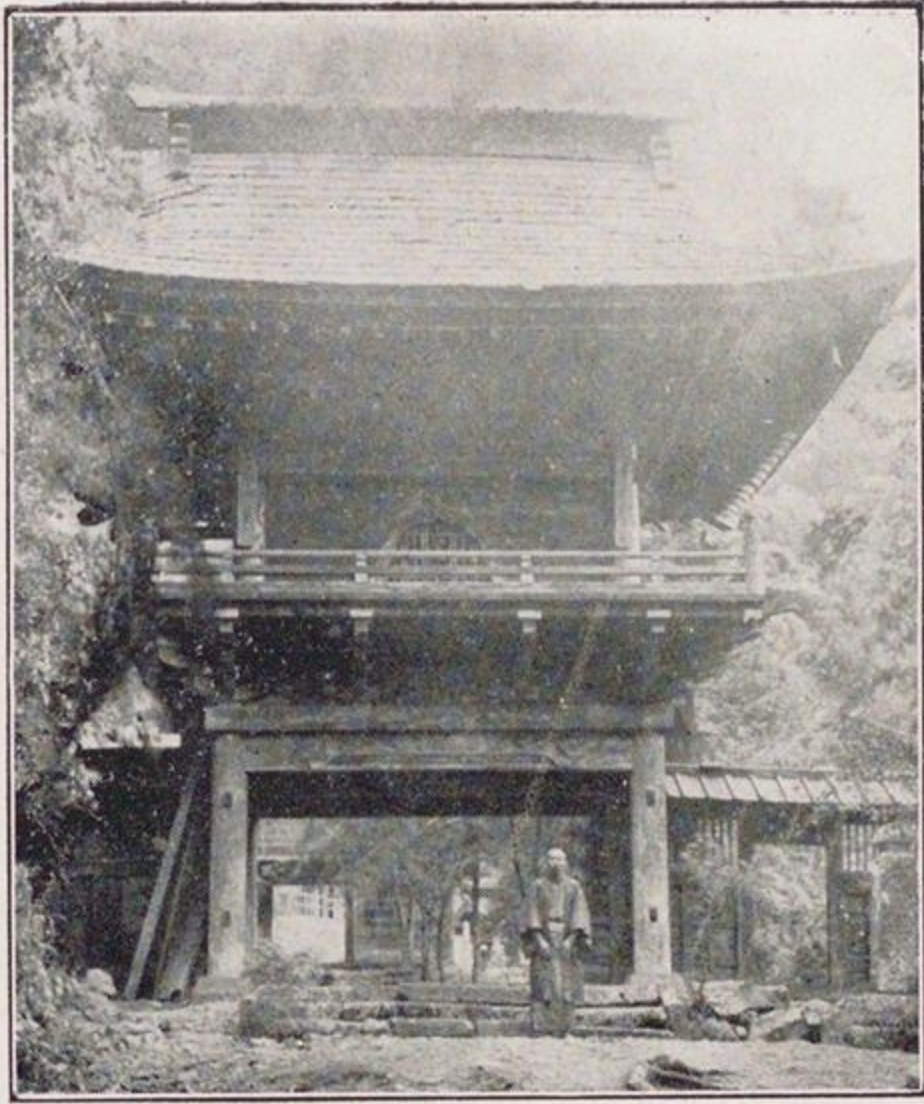
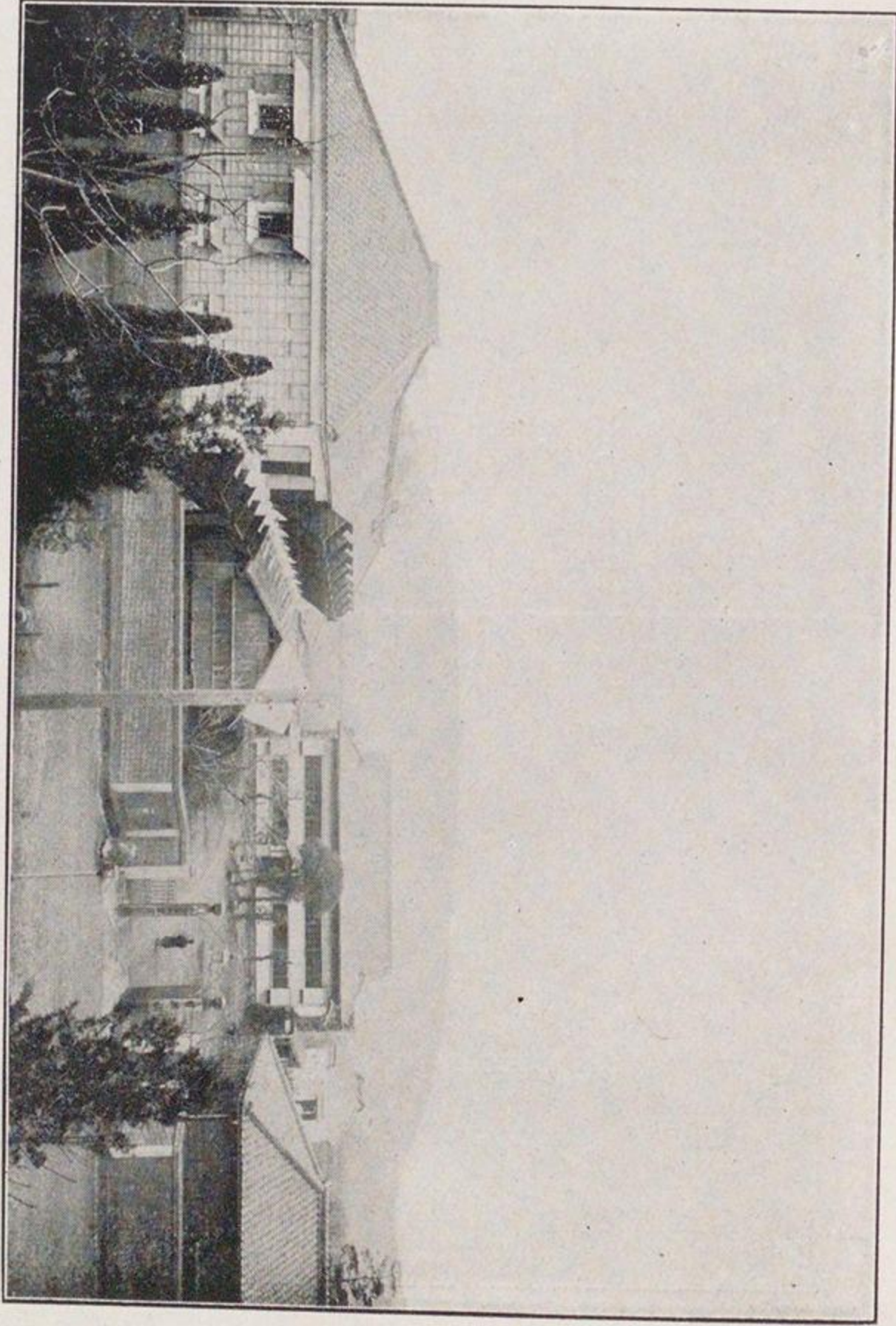
磐月村黑瀧山全景



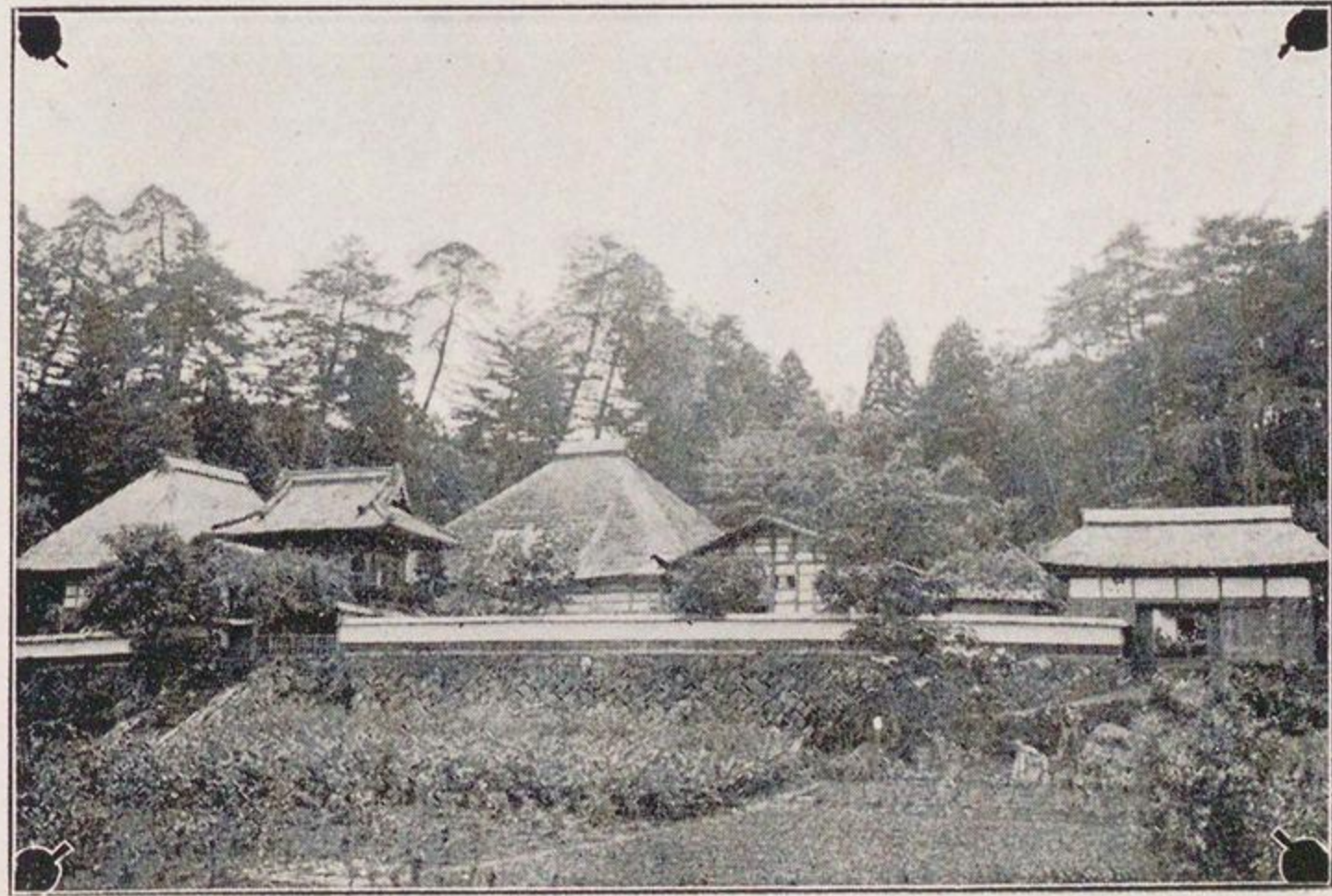
全日東岩下本殿及客殿



社 樂 甘 町 岡 富

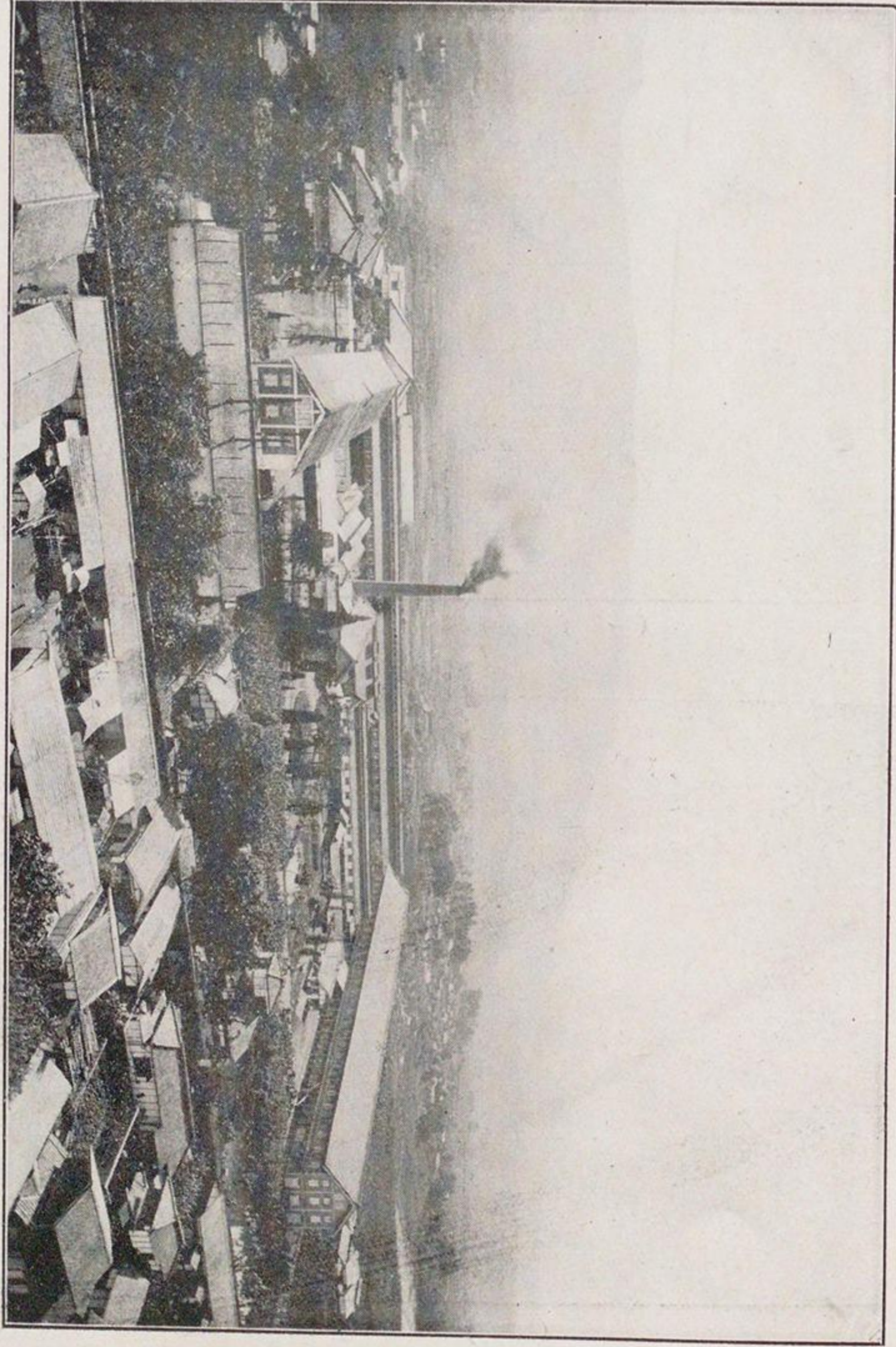


黒 瀧 山 山 門

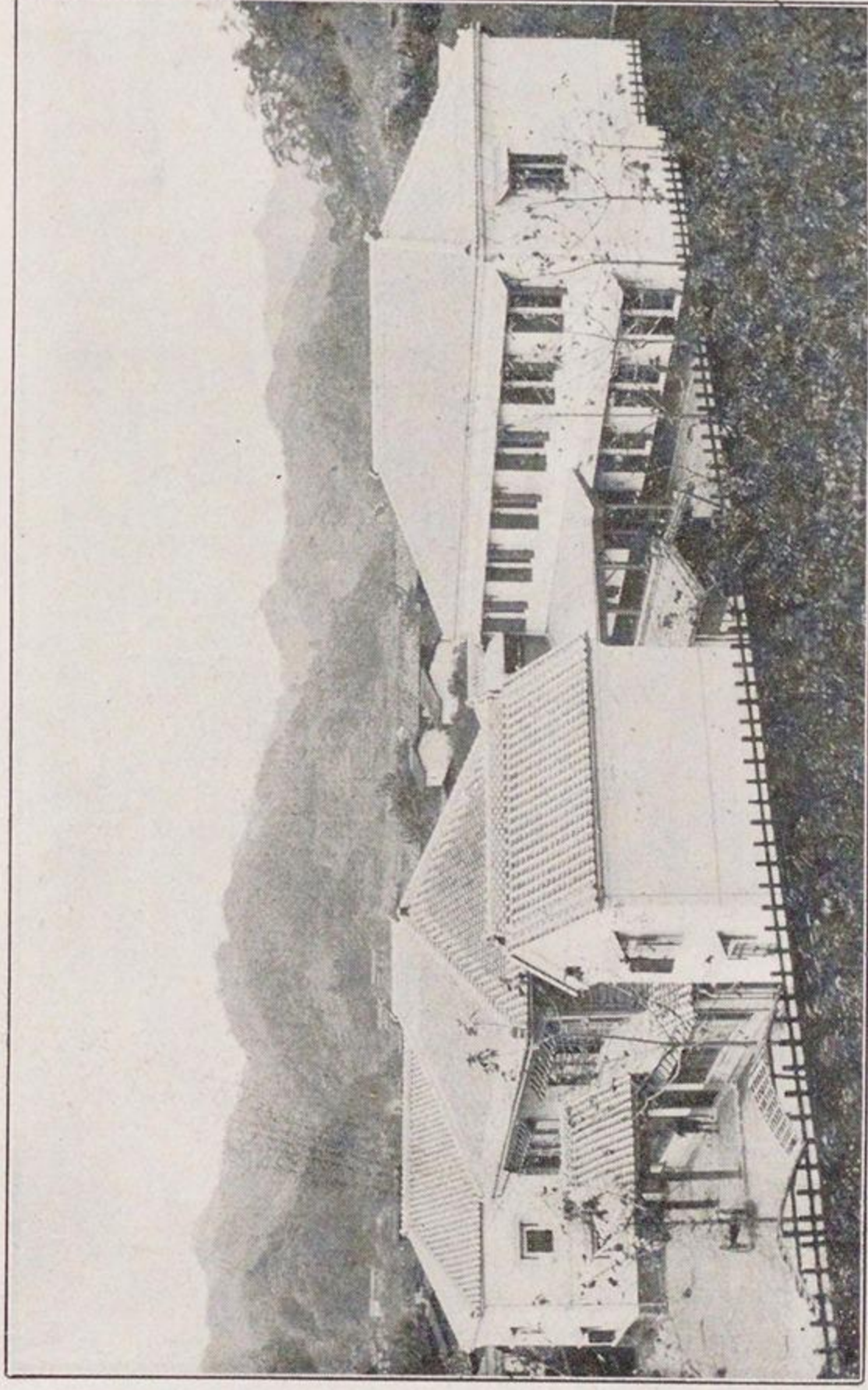


寺 殿 光 村 瀬 高

富岡町原富岡製絲場

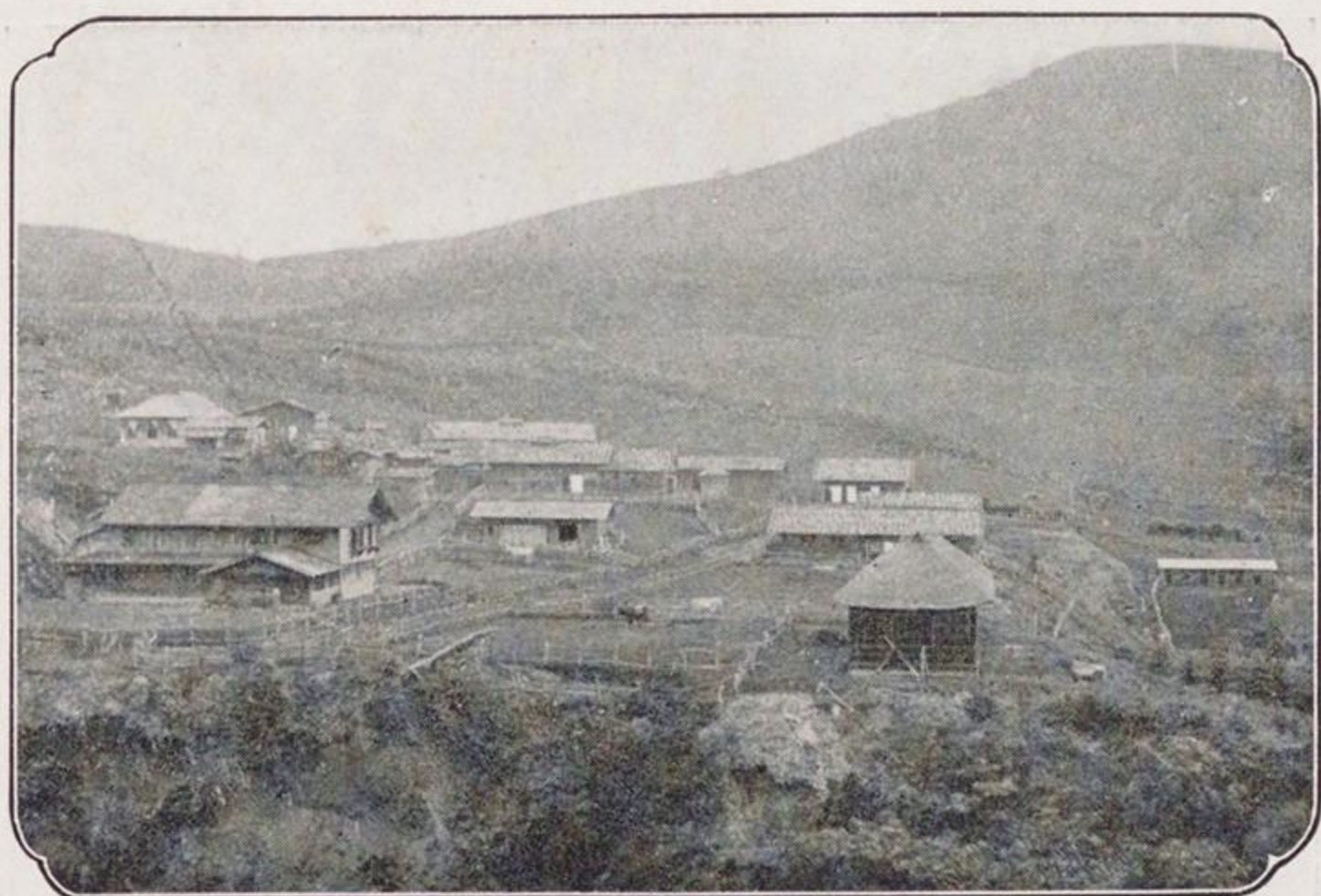


11

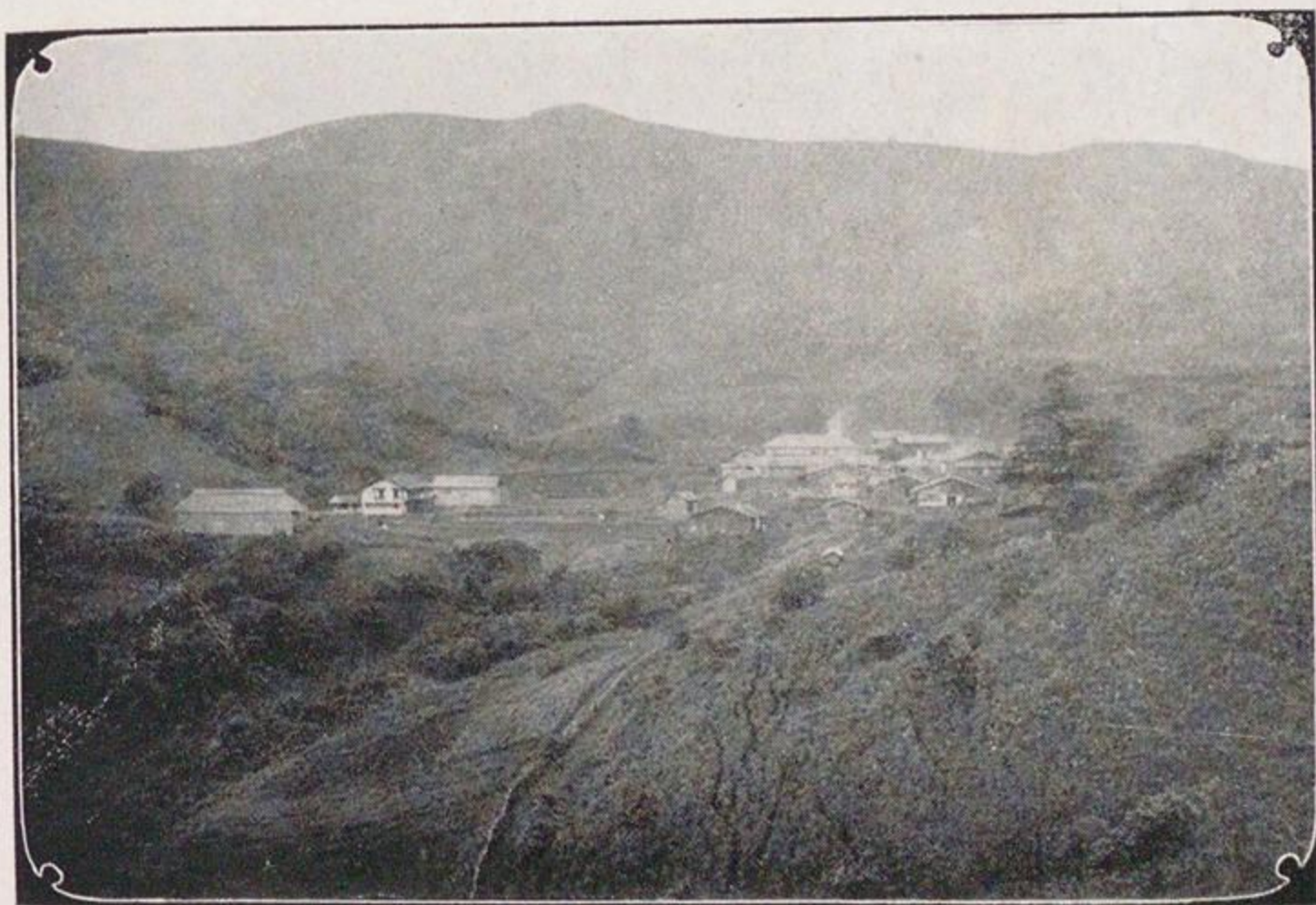


下仁田町下仁田社

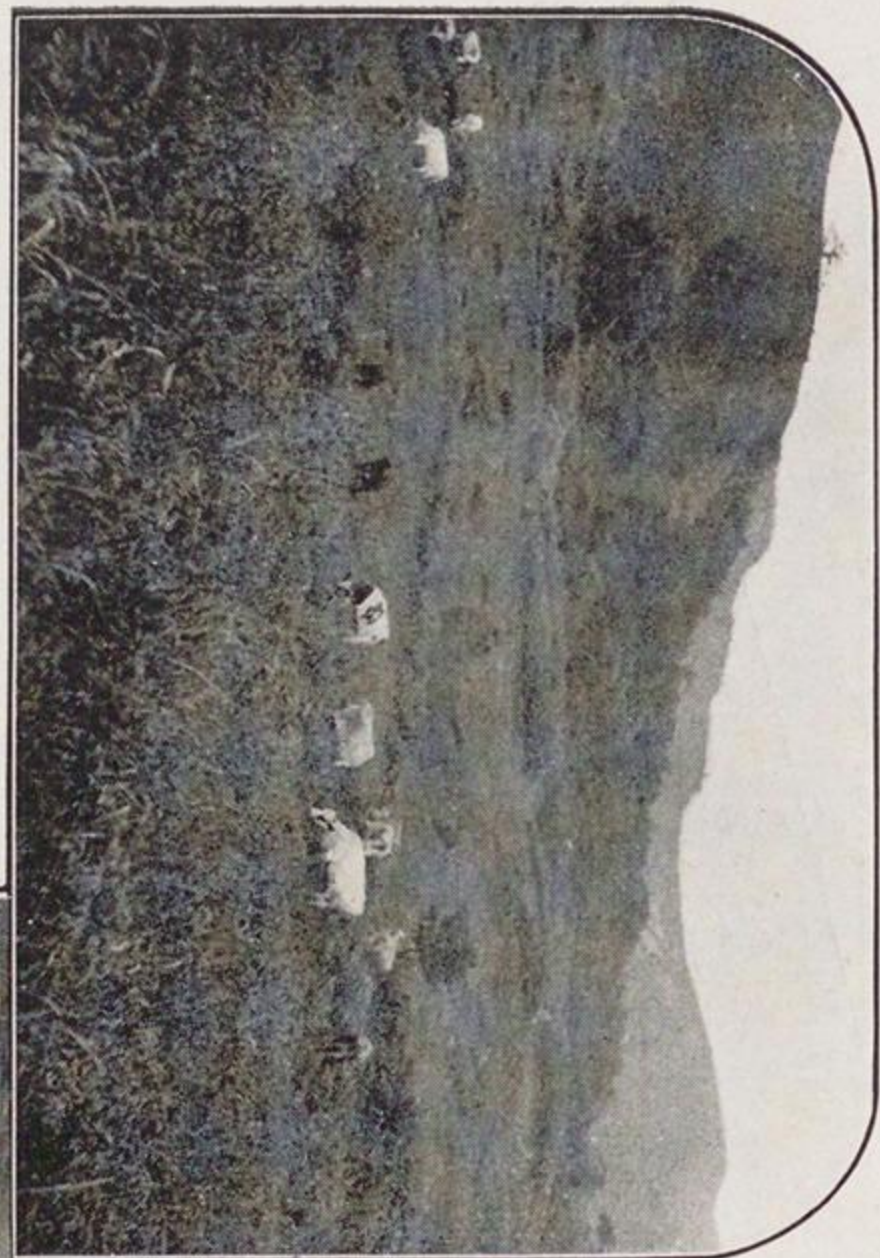
12



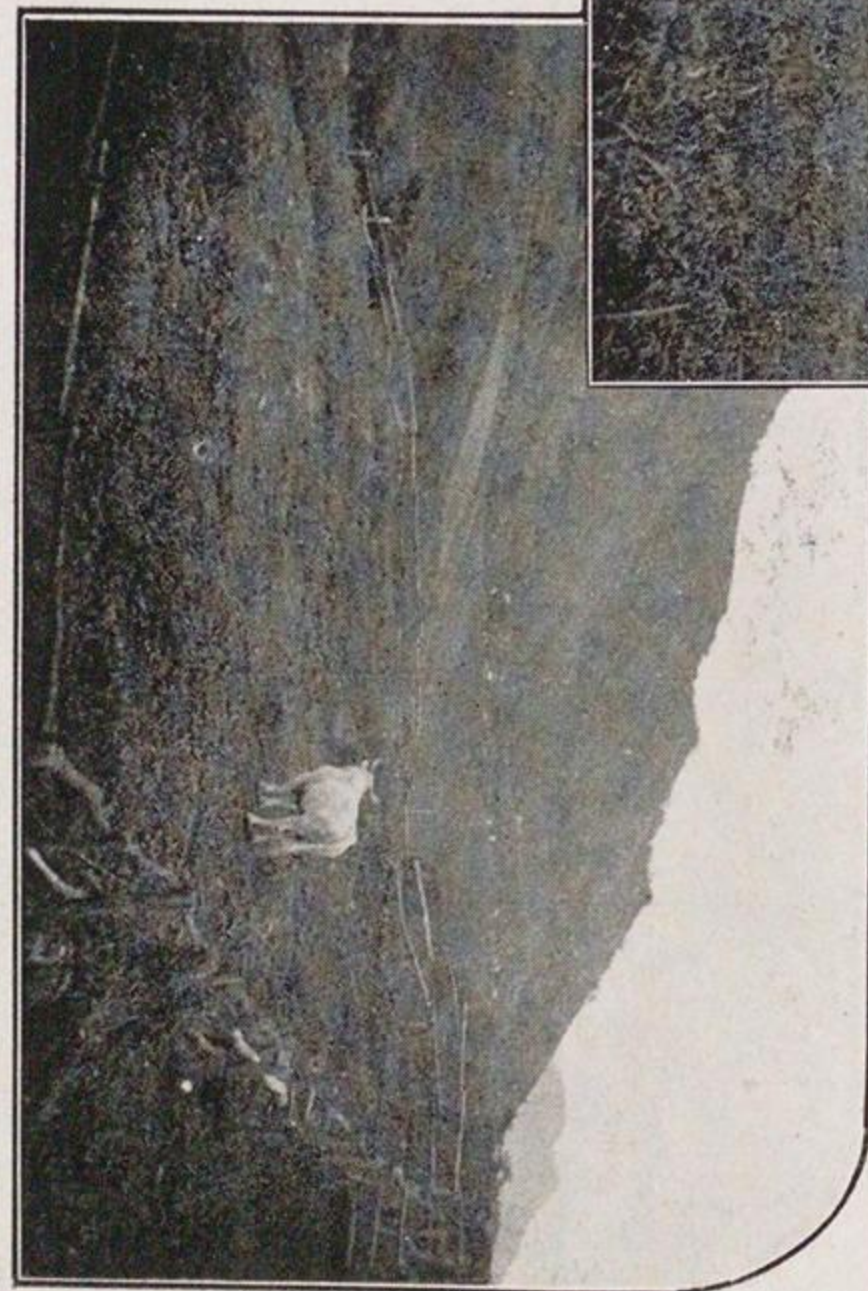
(一其) 場牧津神村牧西



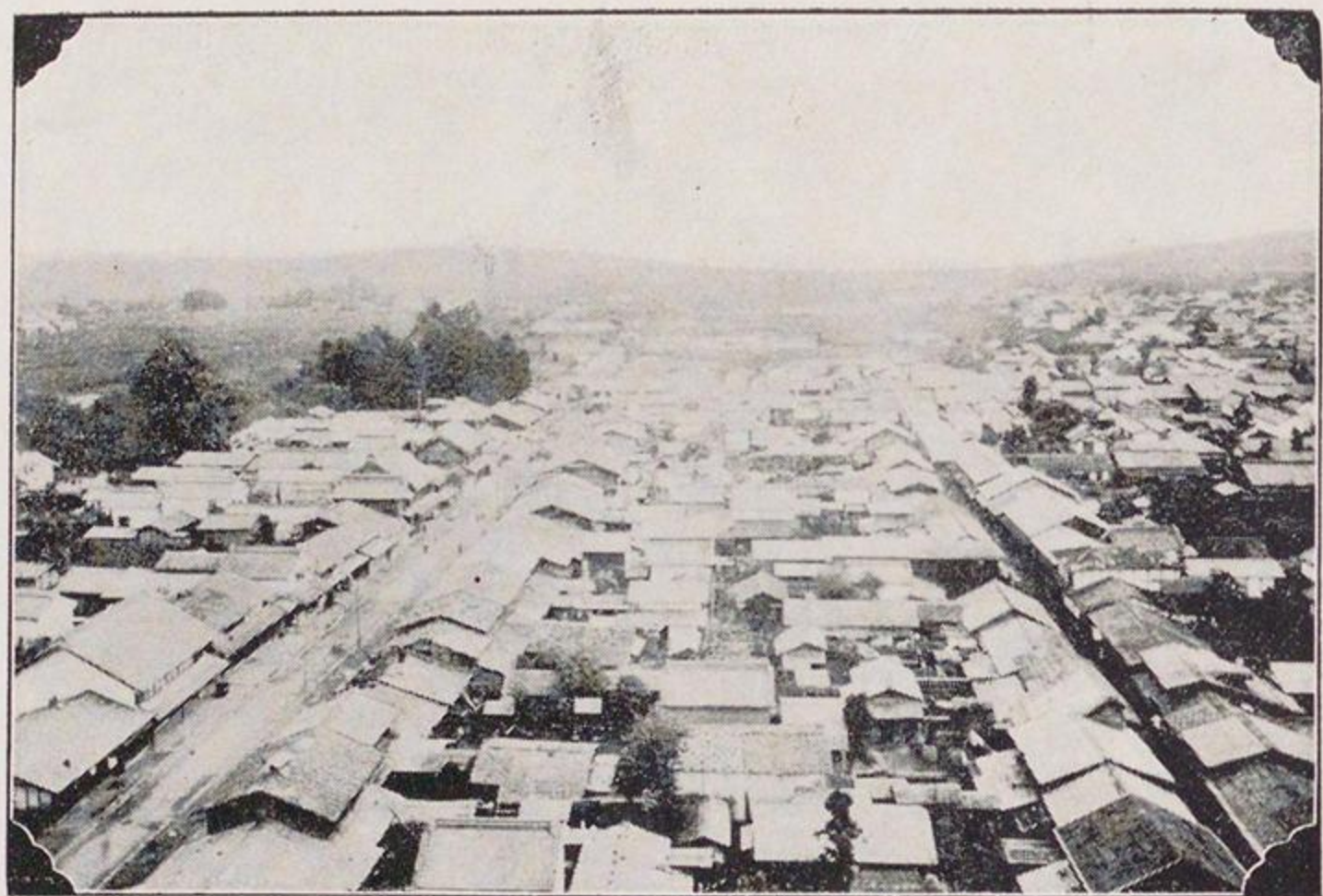
(二其) 全



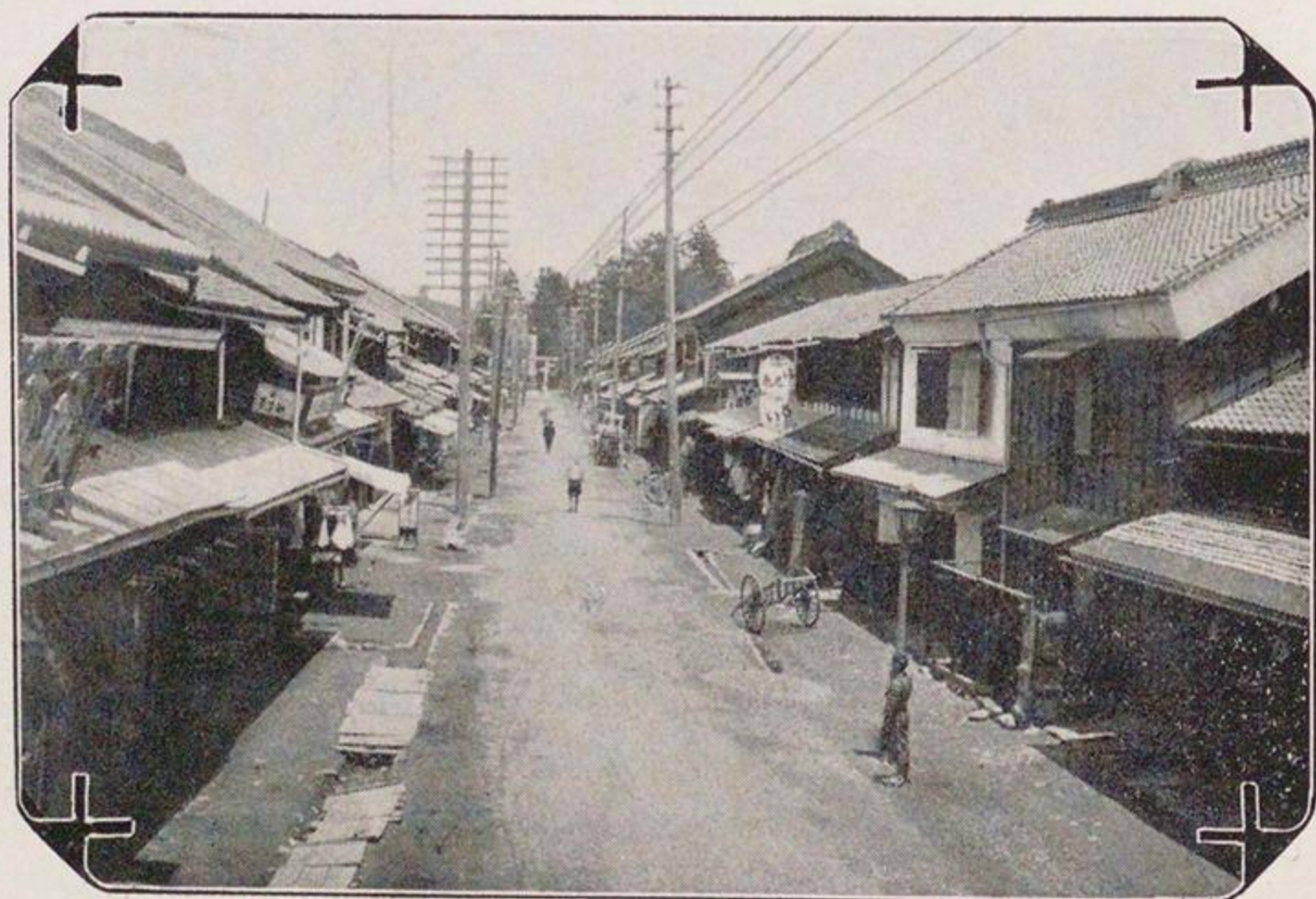
(四其) 全



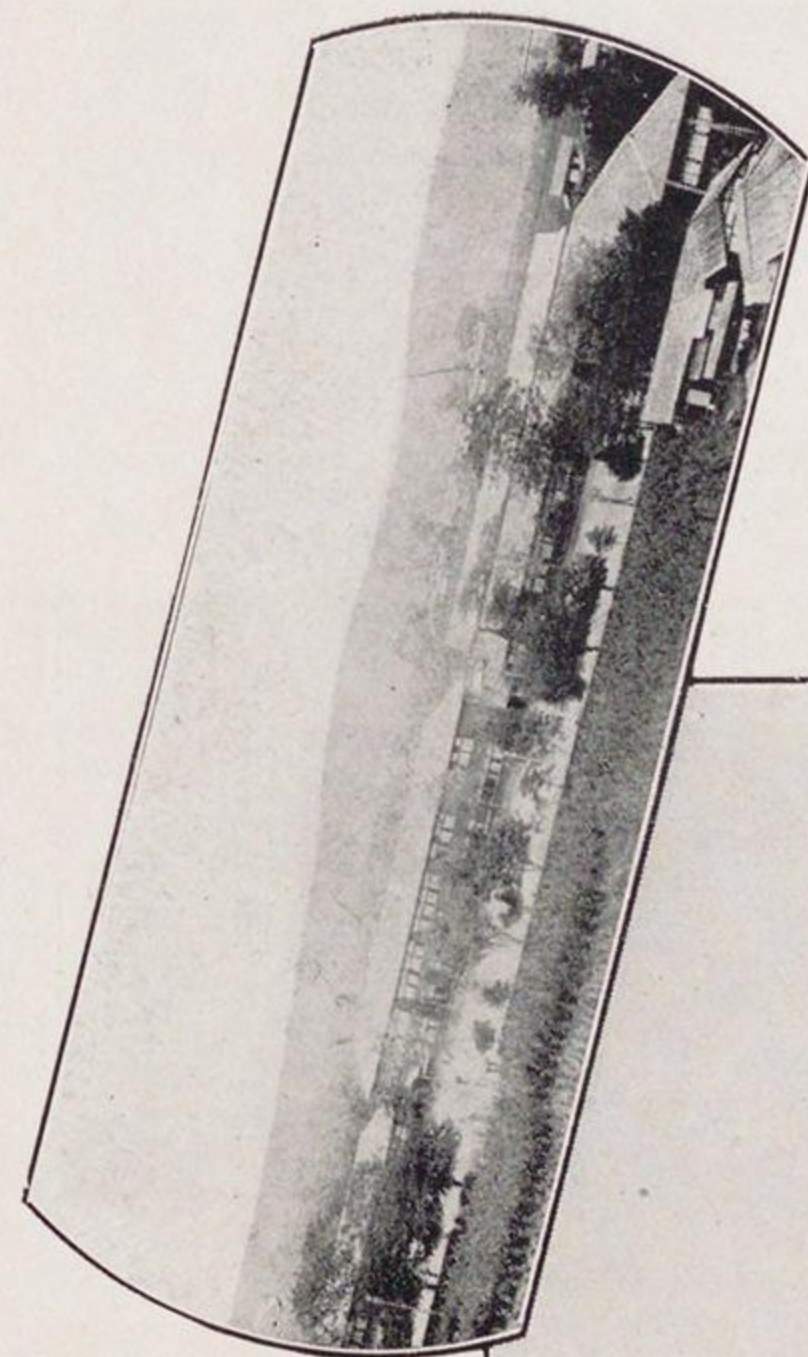
(其三) 全



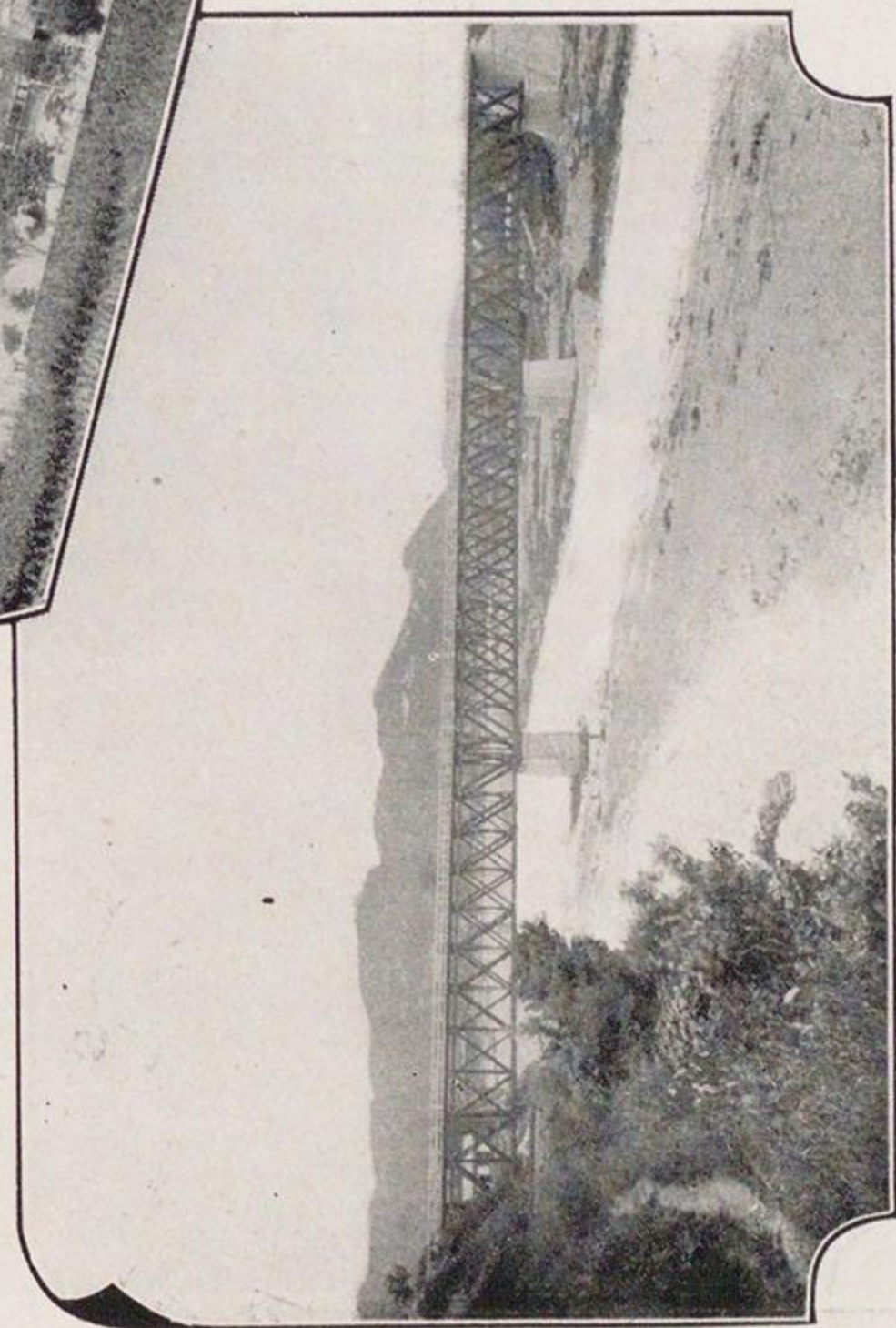
富岡町全景



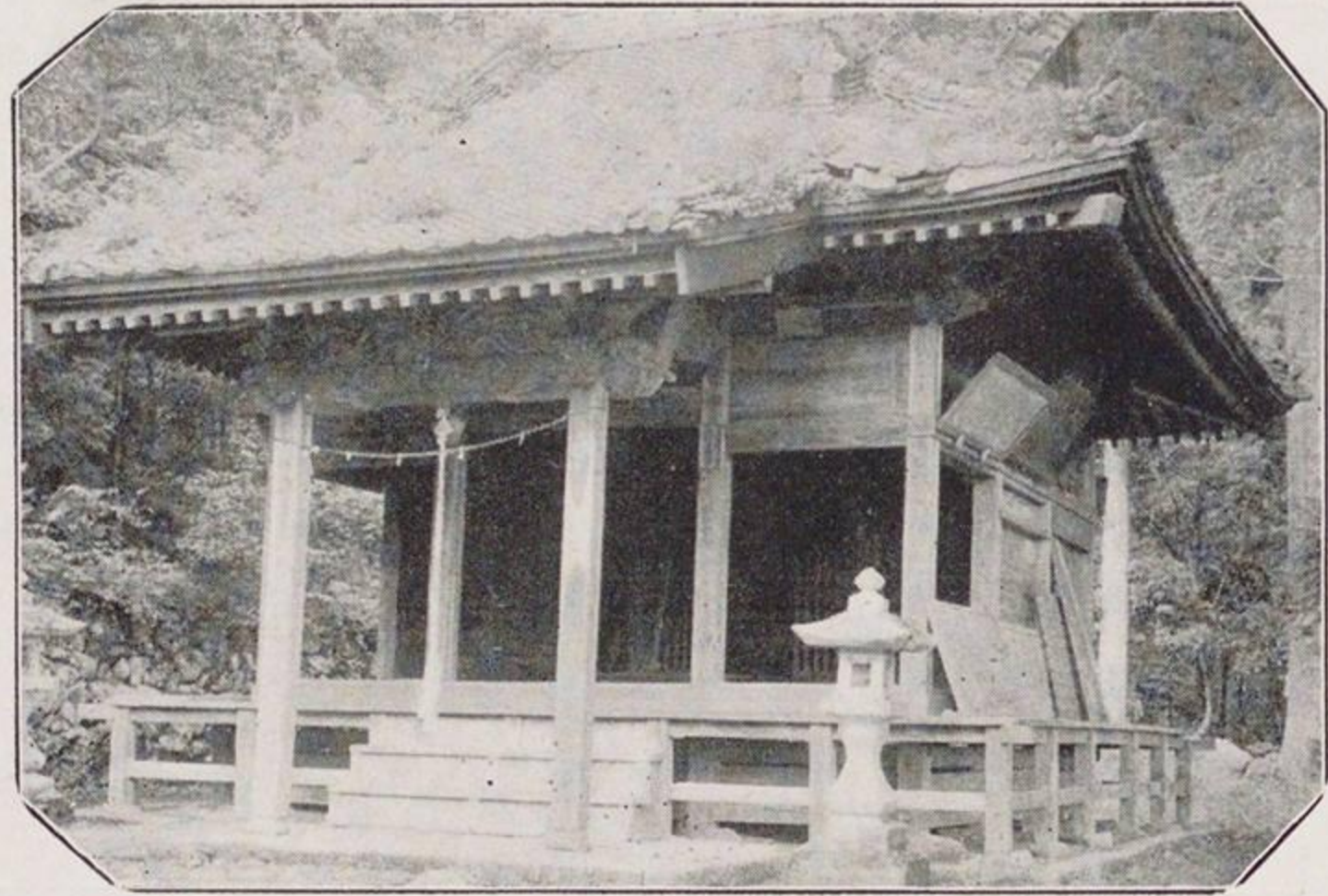
全横町



富岡町小學校全景



富岡町甘楽橋

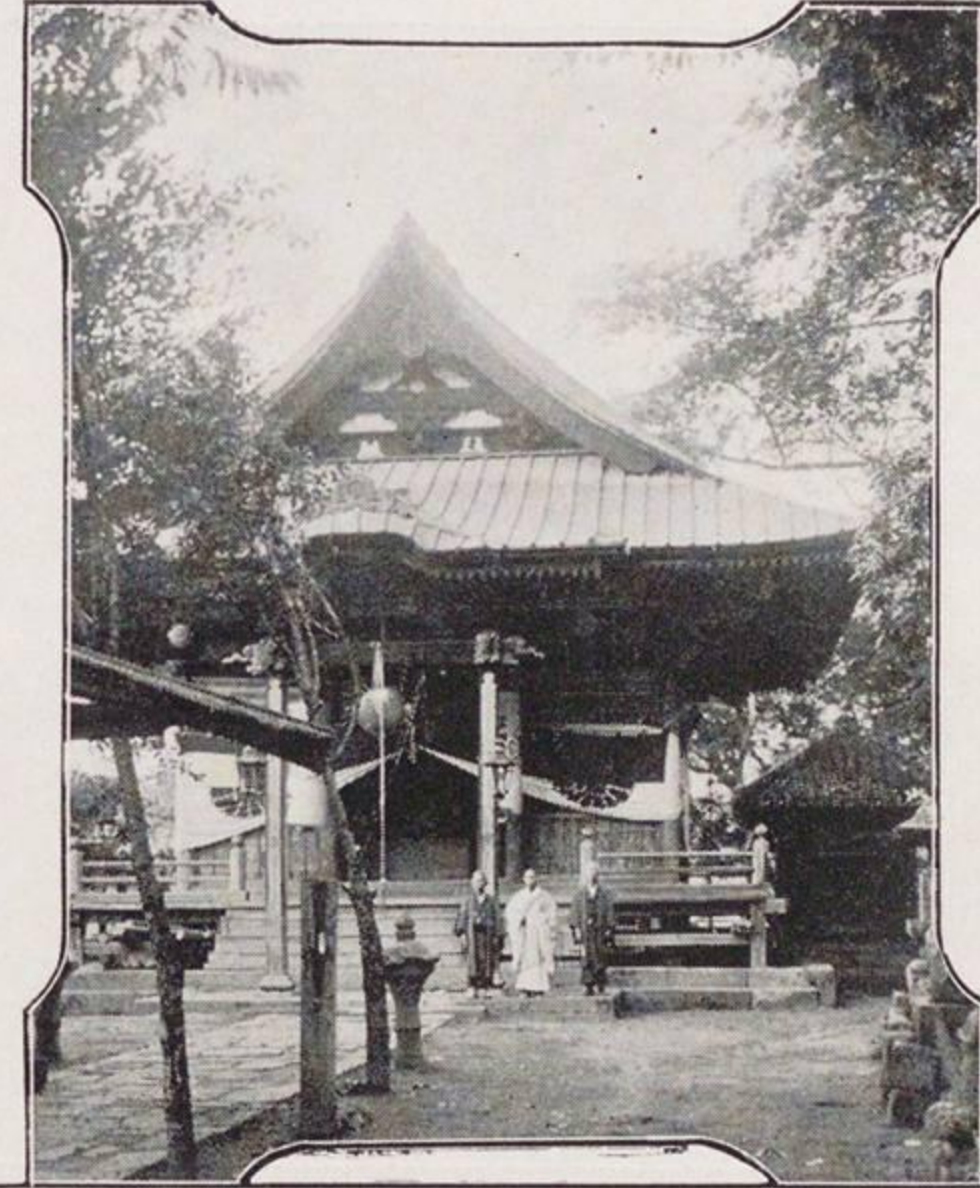


丹生村丹生神社



丹生村鳴澤不動

二



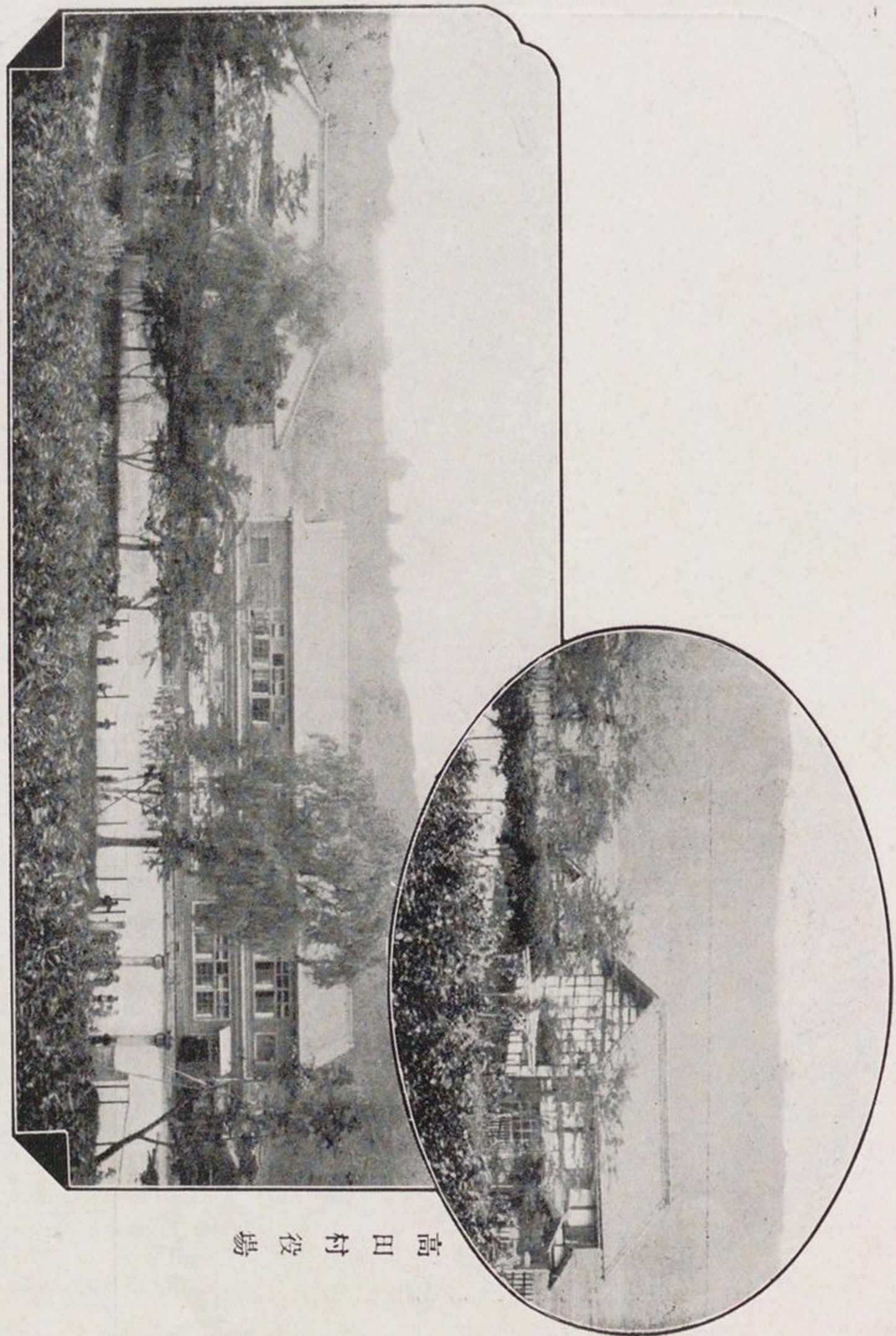
黒岩村大日堂



一ノ宮全景

二〇

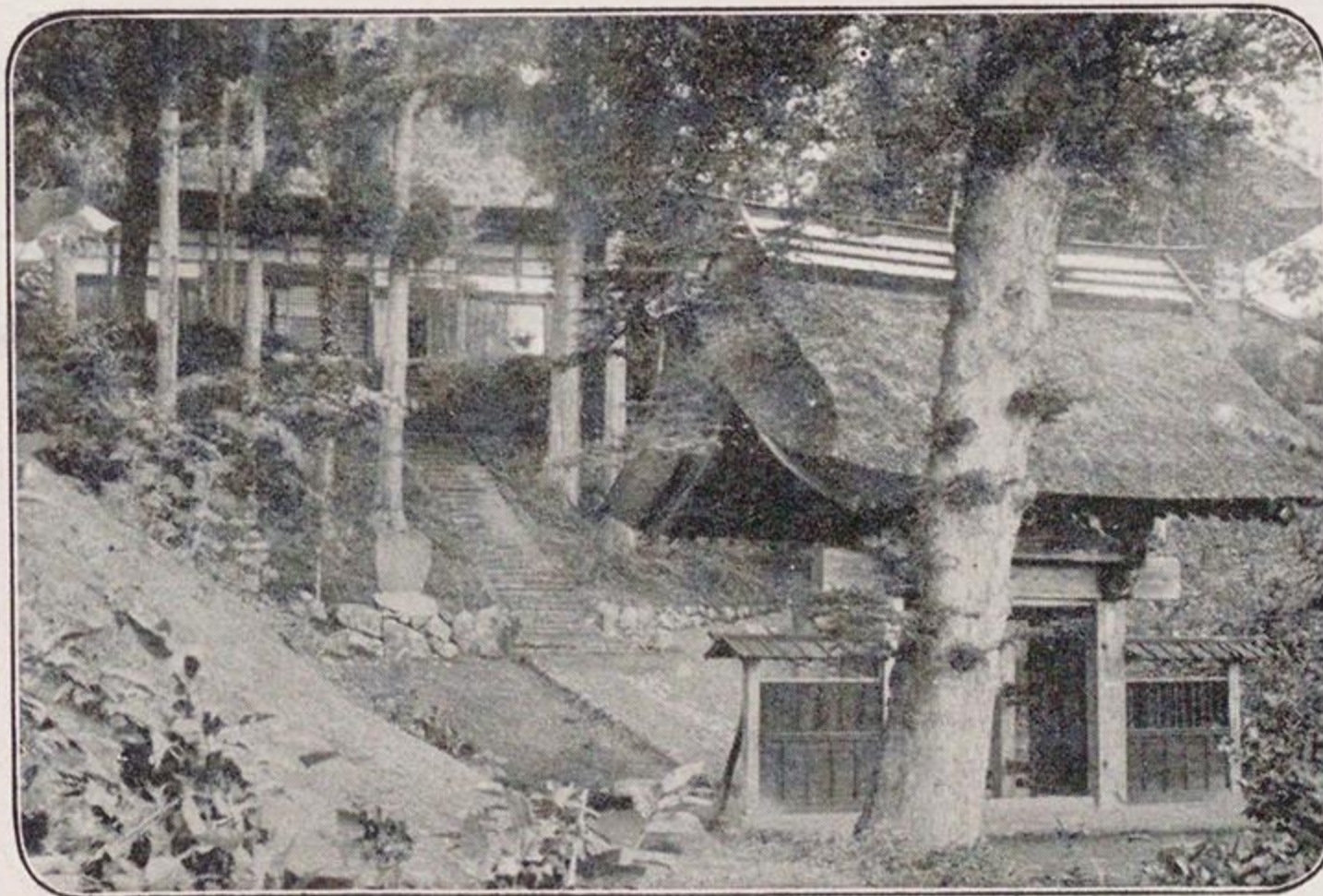
校 學 小 全



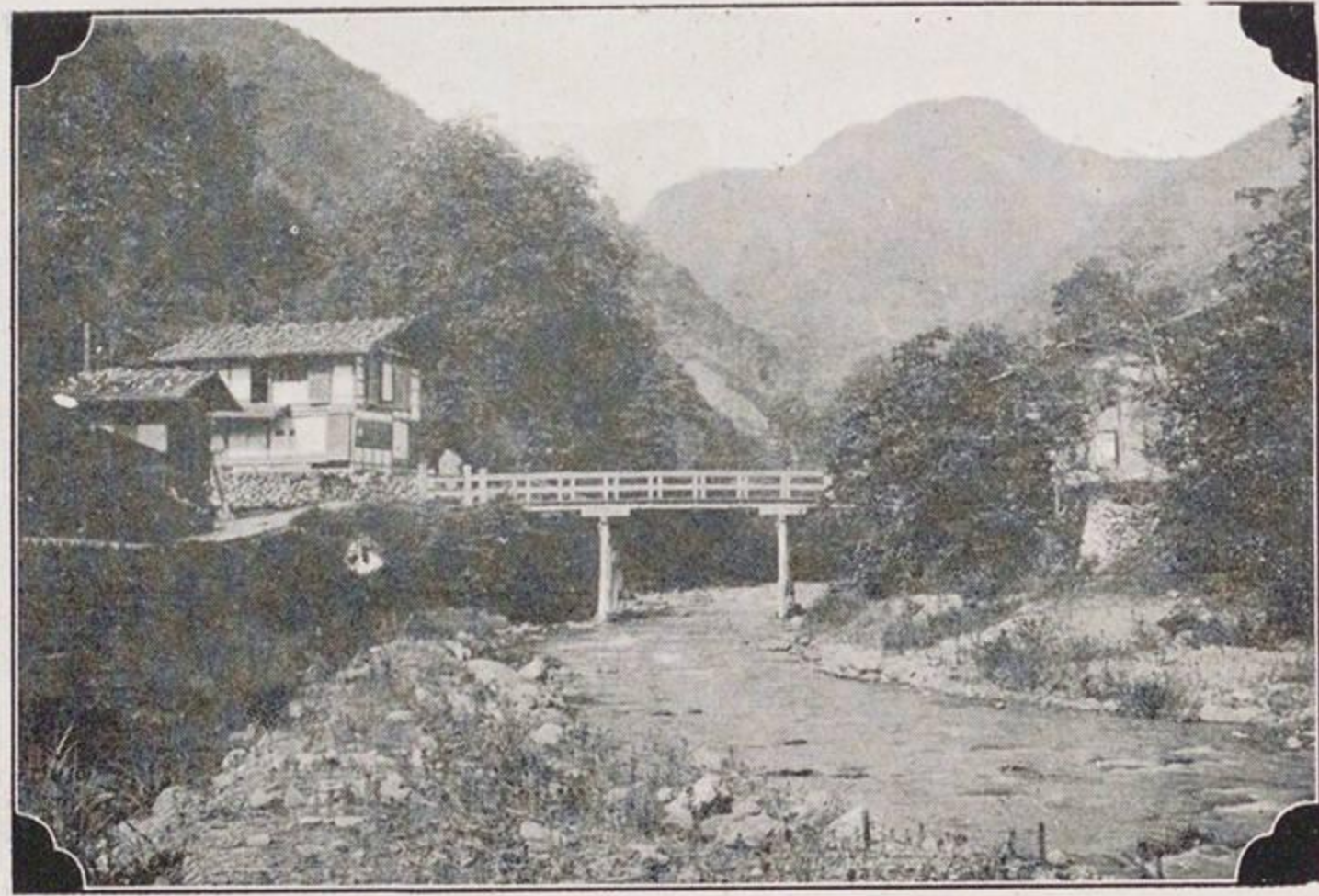
高田村役場



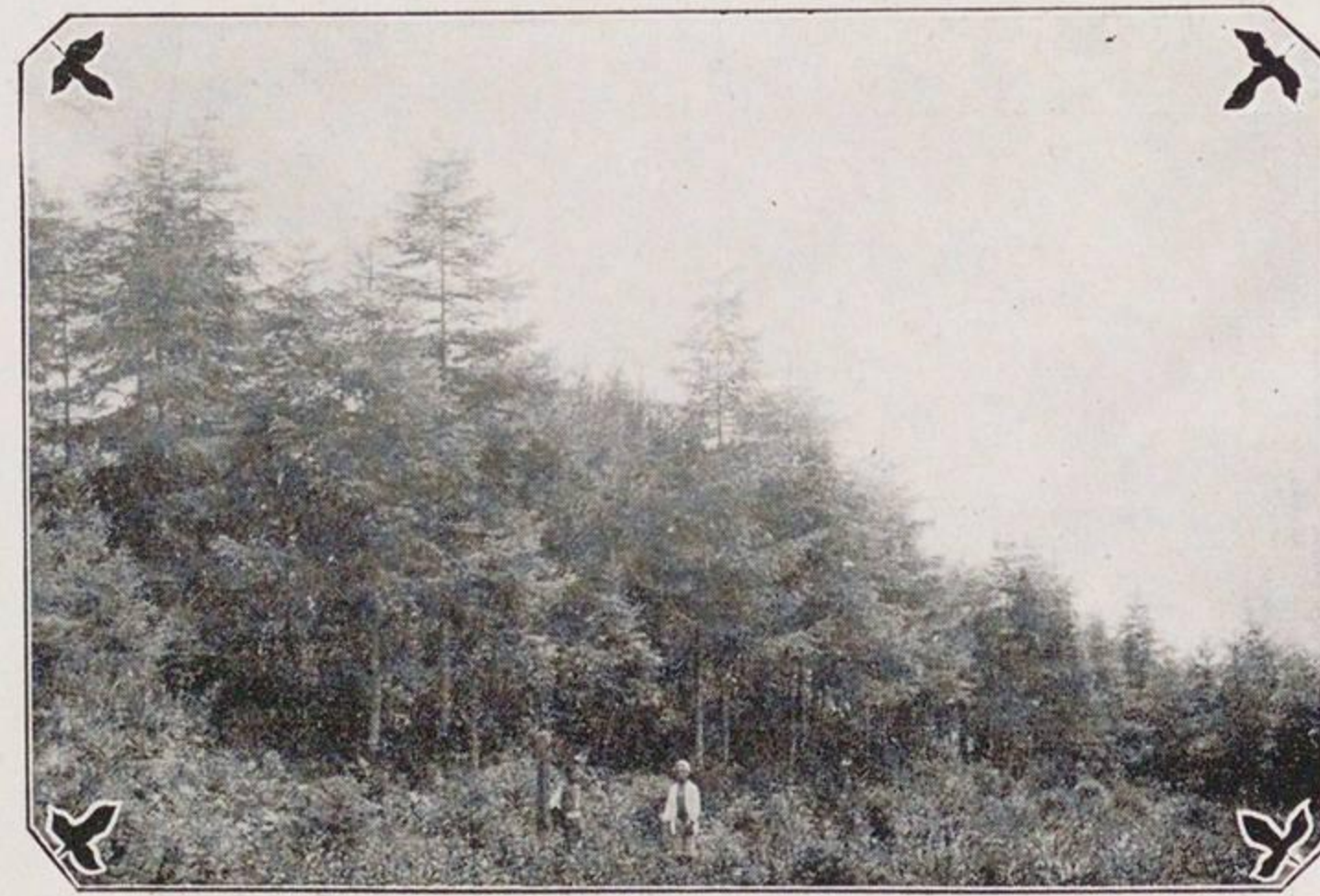
寺 林 永 村 生 丹



寺 城 金 村 全

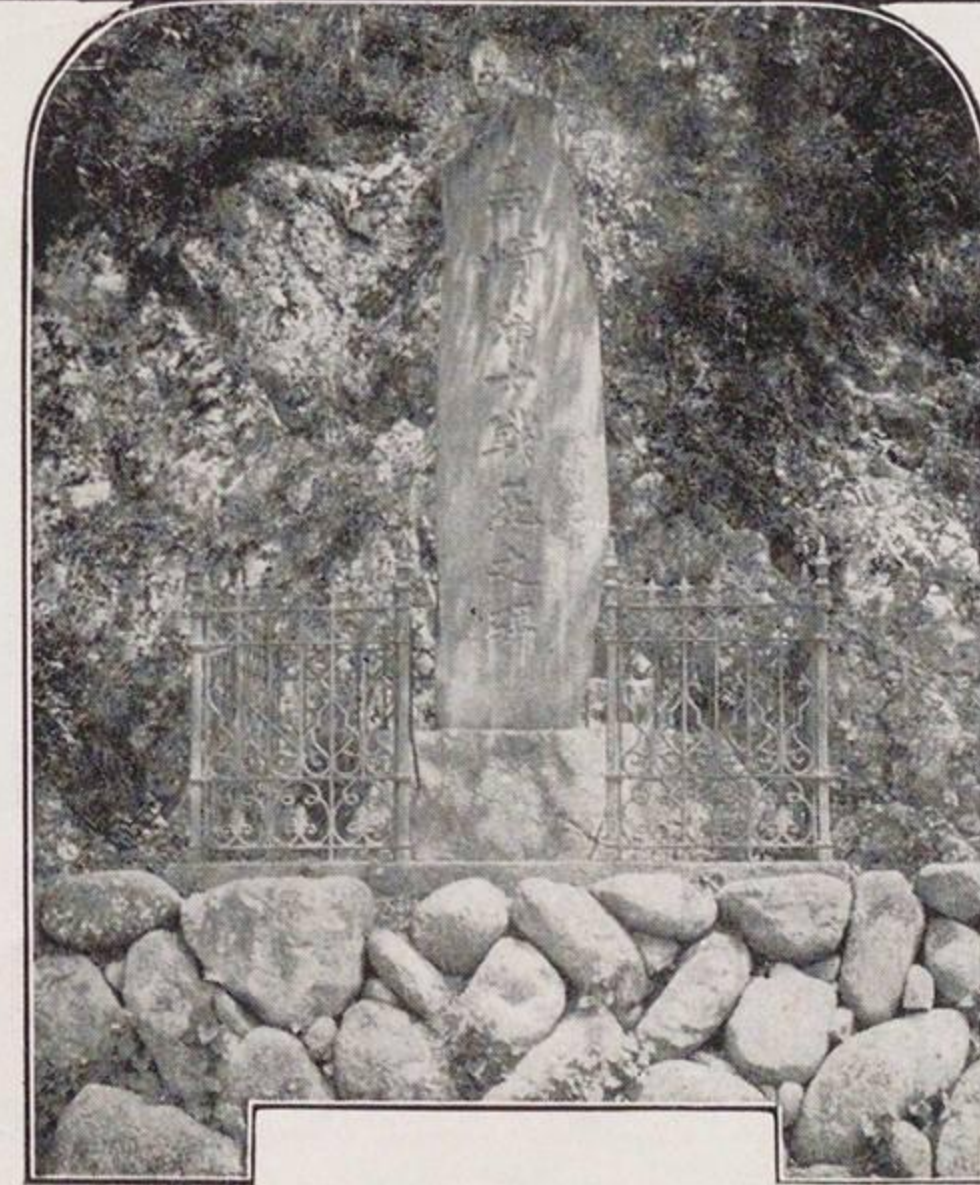


(△望ヲ山船荒リヨ村牧ノ西) 場役村牧ノ西



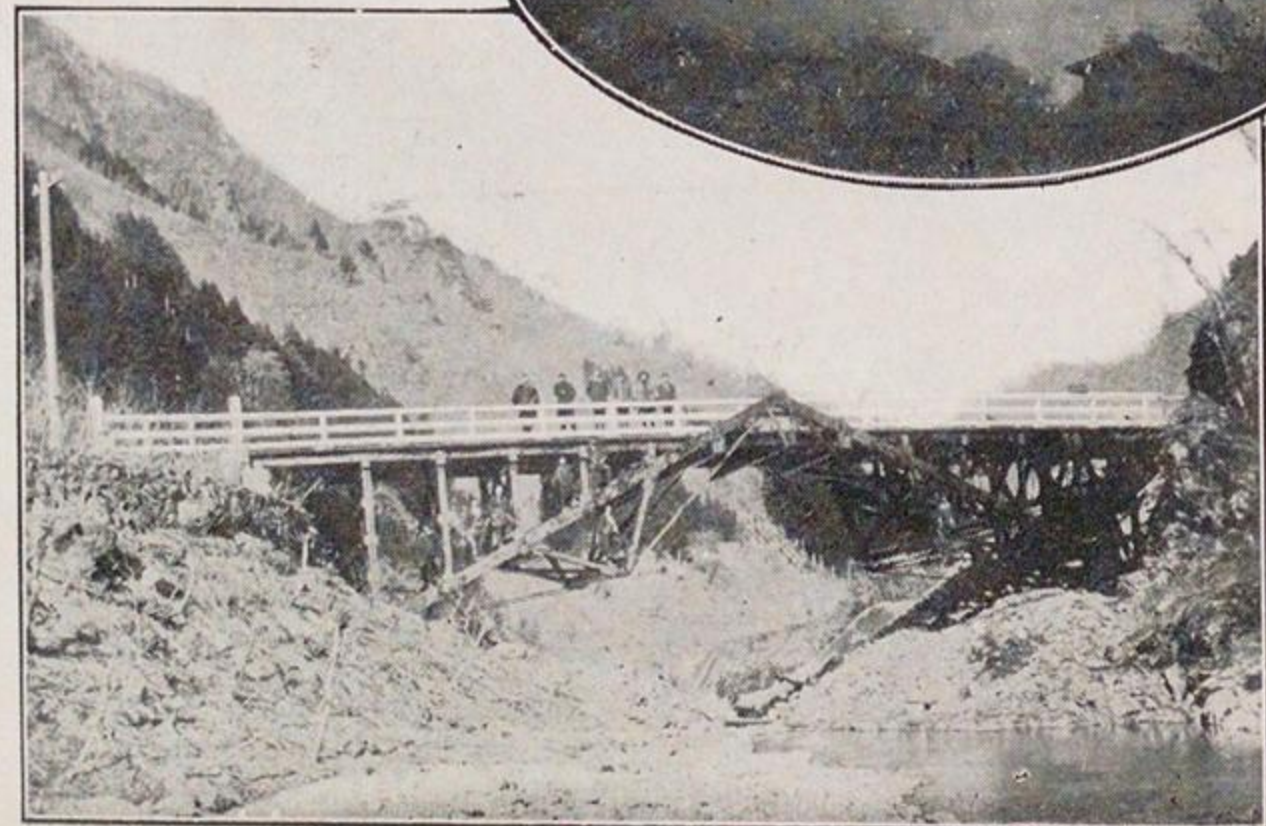
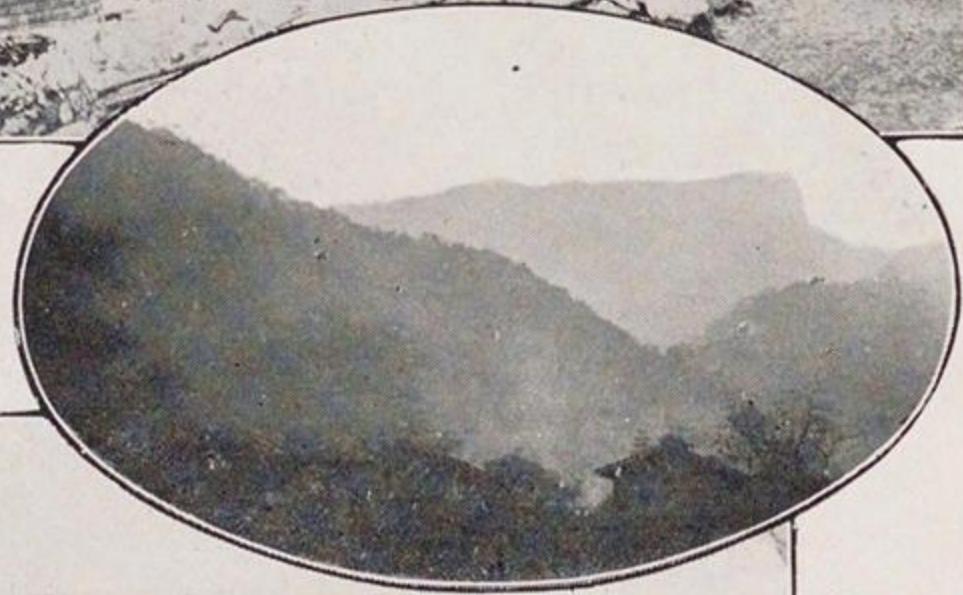
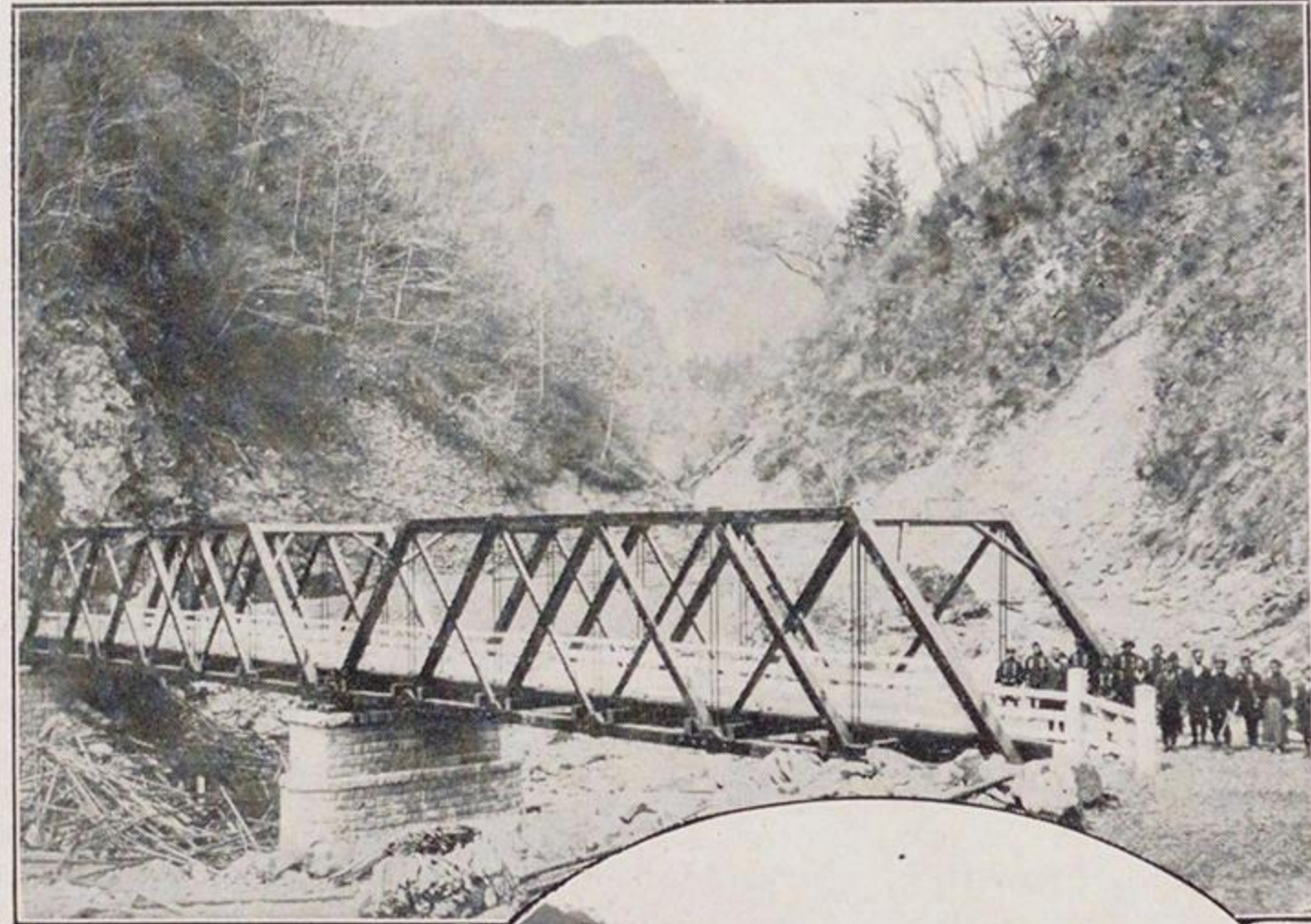
地林造場役村牧ノ西

橋見伏村田高



小坂村高崎藩士戦死ノ碑

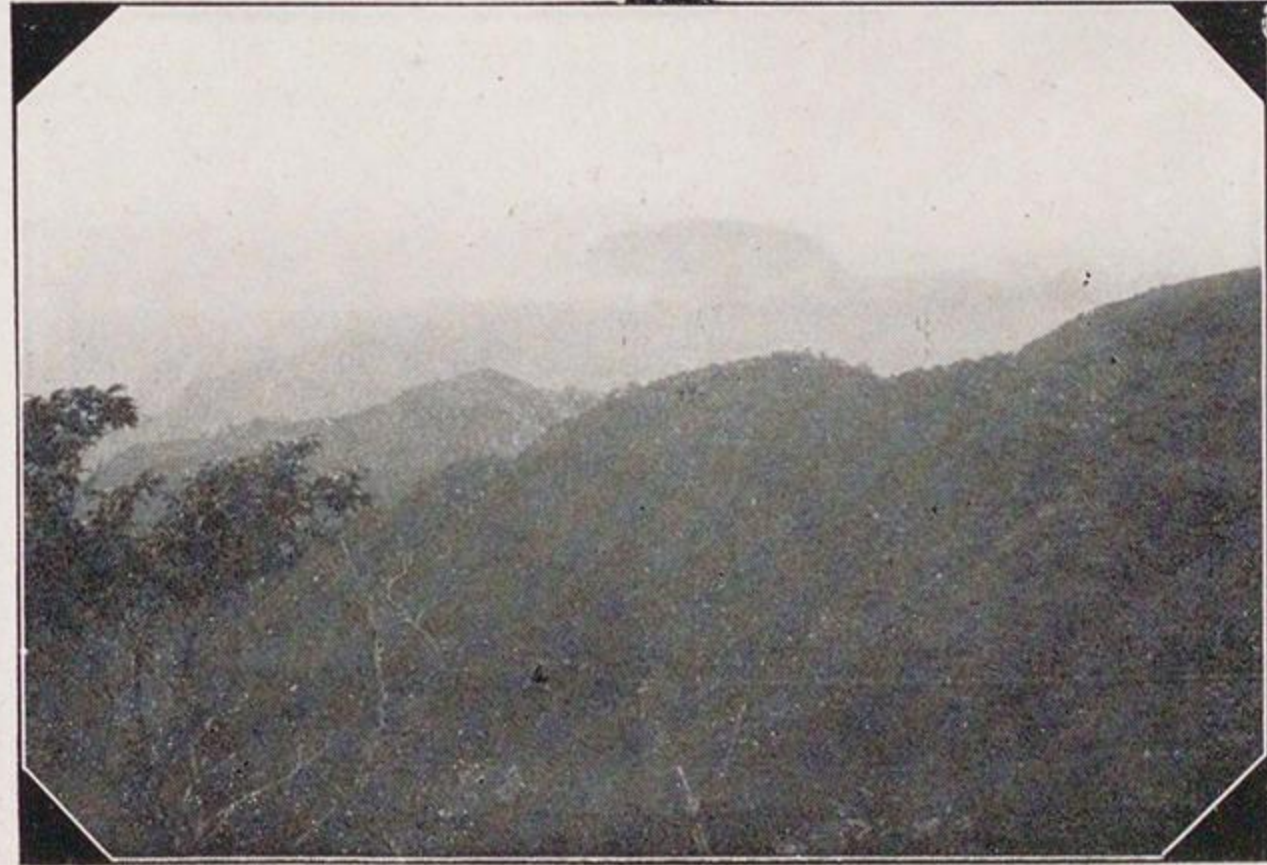
景眞橋川矢道街分追



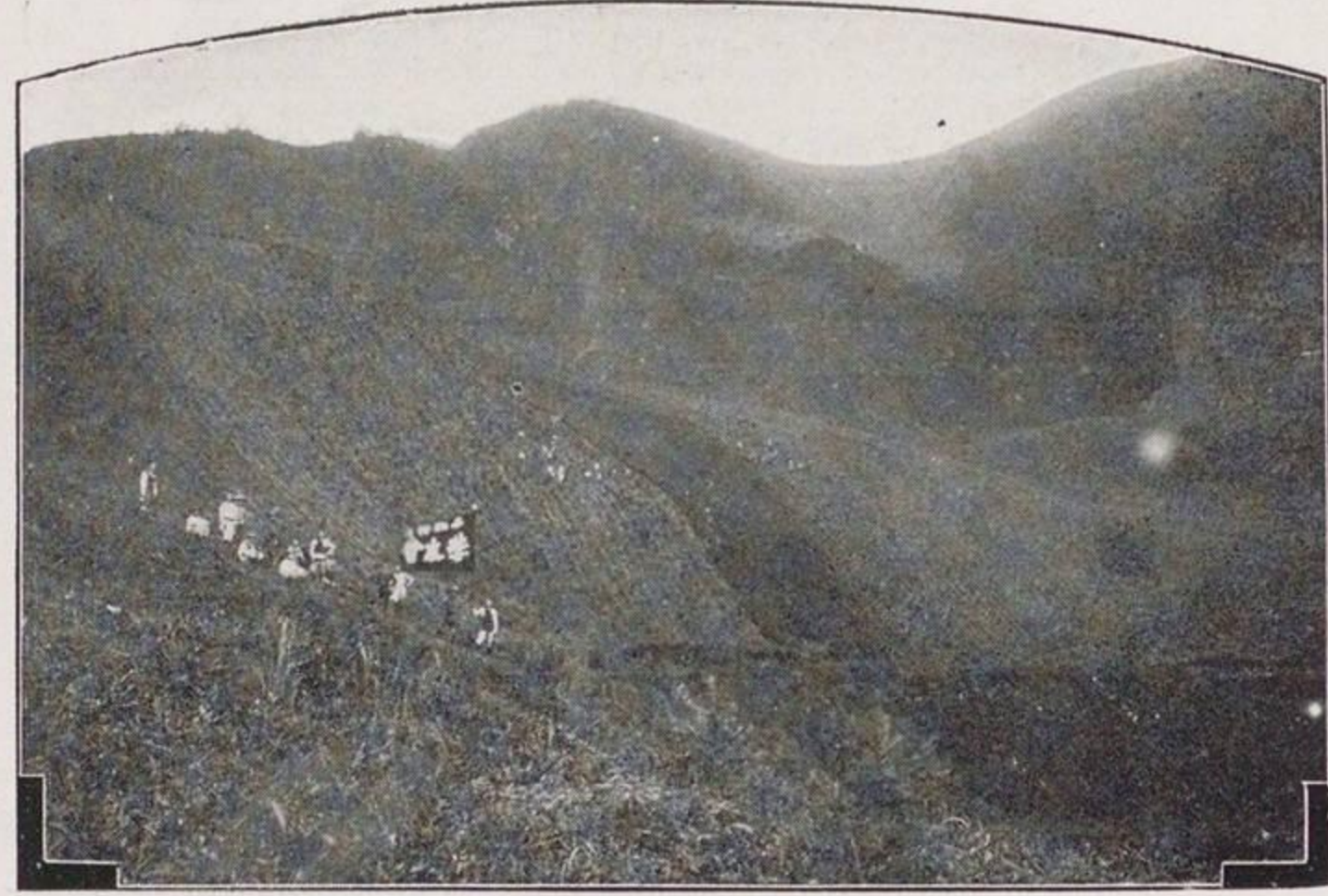
荒船山ノ夕景

景ノ澤ノ芝道街分追

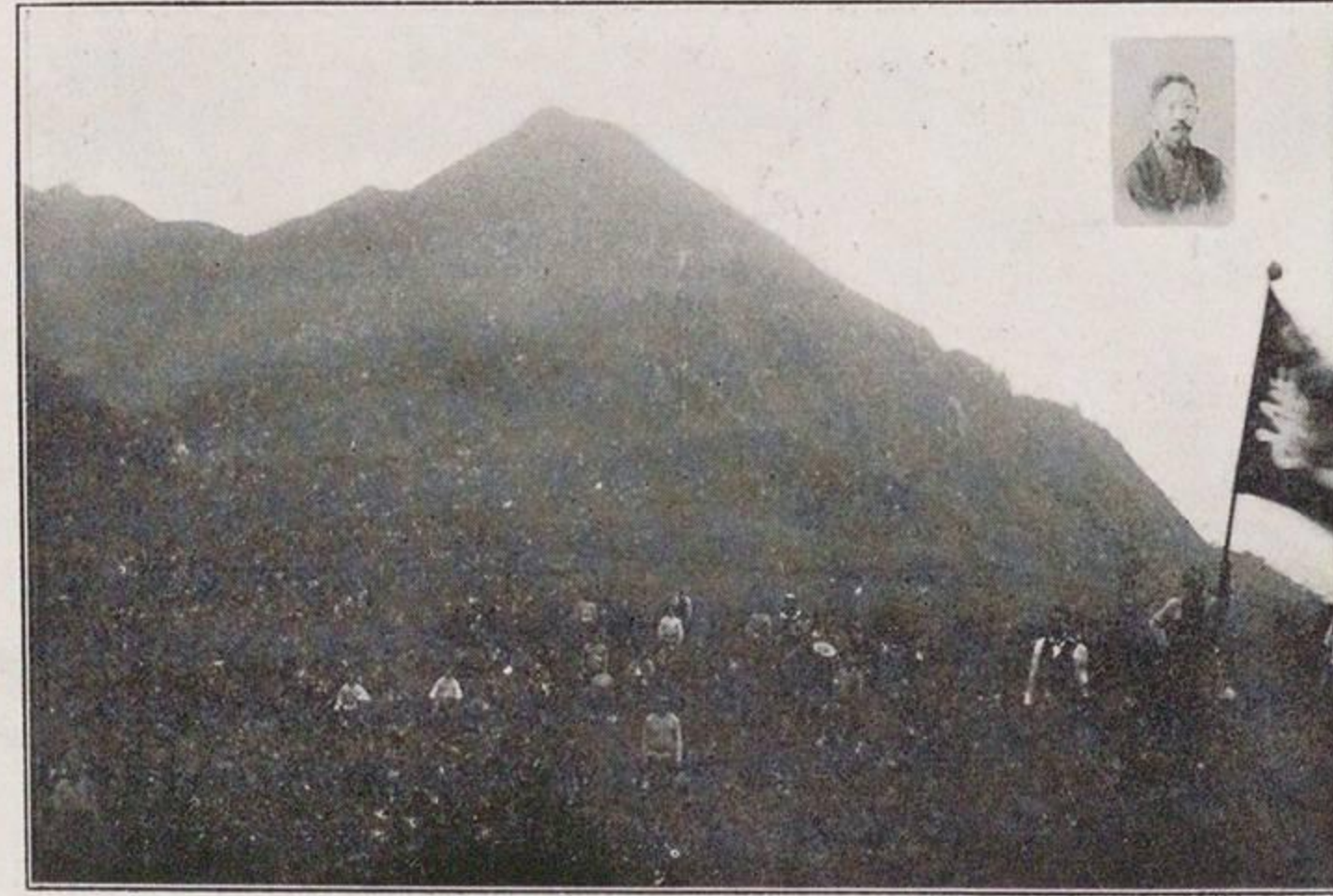
西ノ牧村アシサネ不動尊ノ瀧



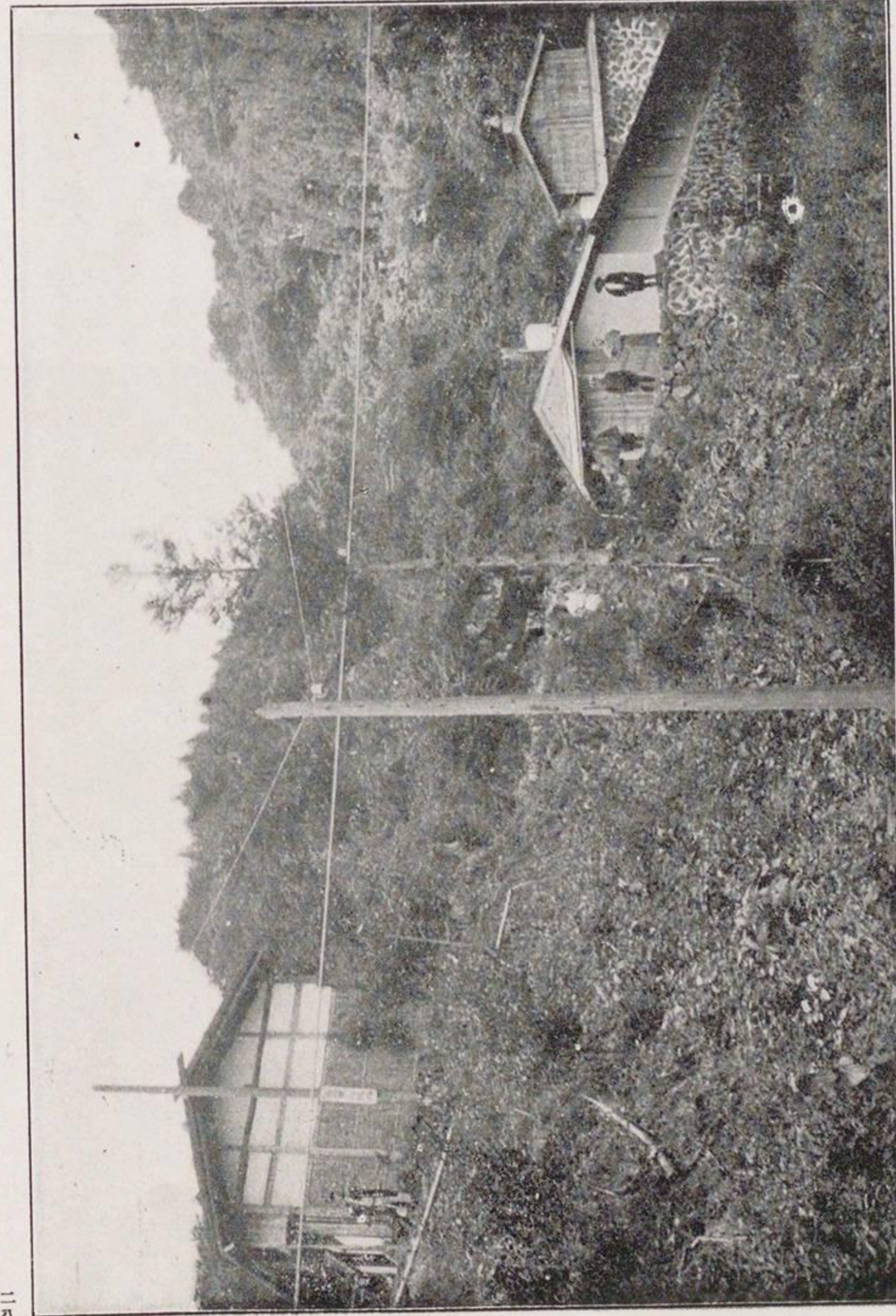
山船荒村全



(一ノ其) 林念紀勝戰露日村牧西

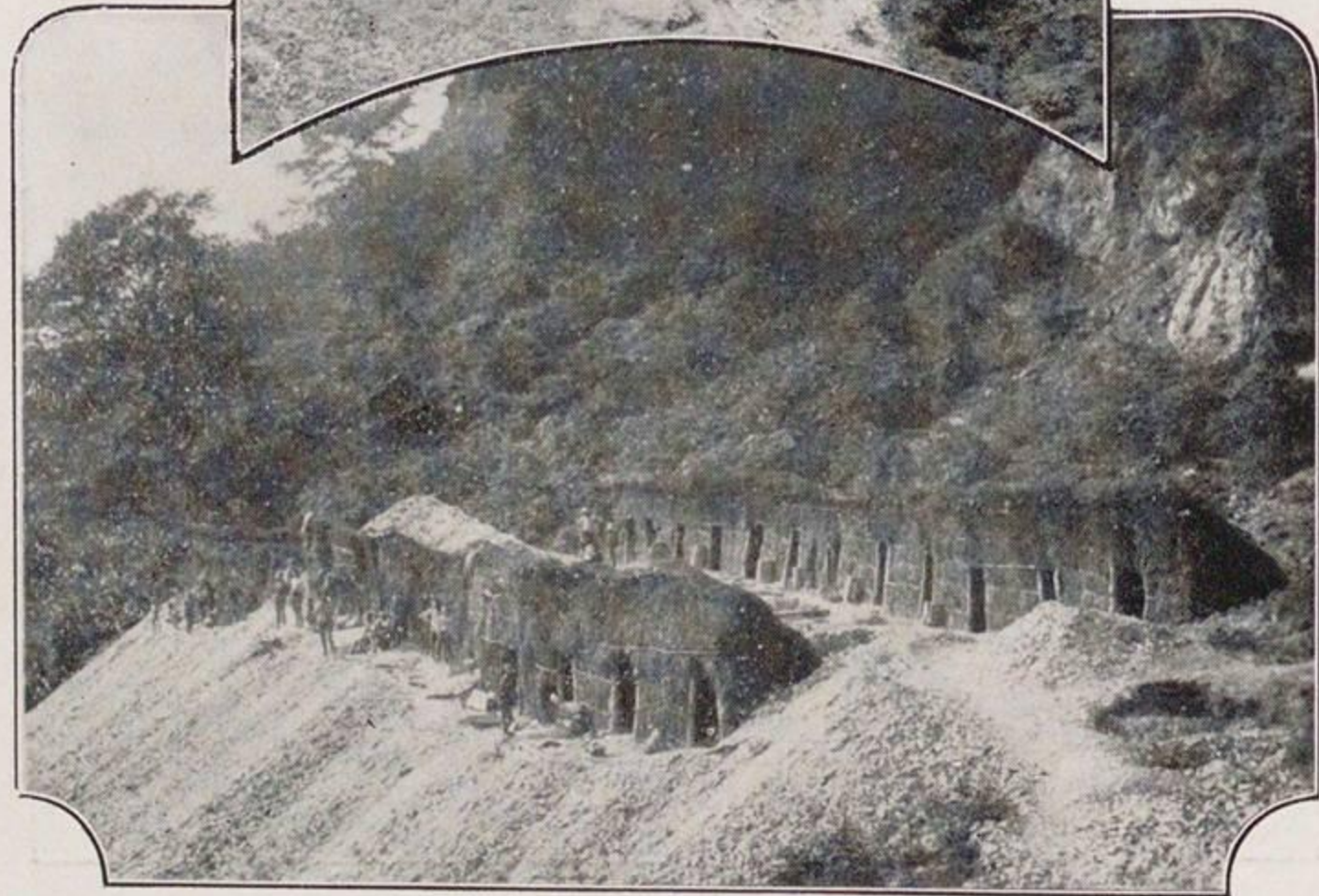
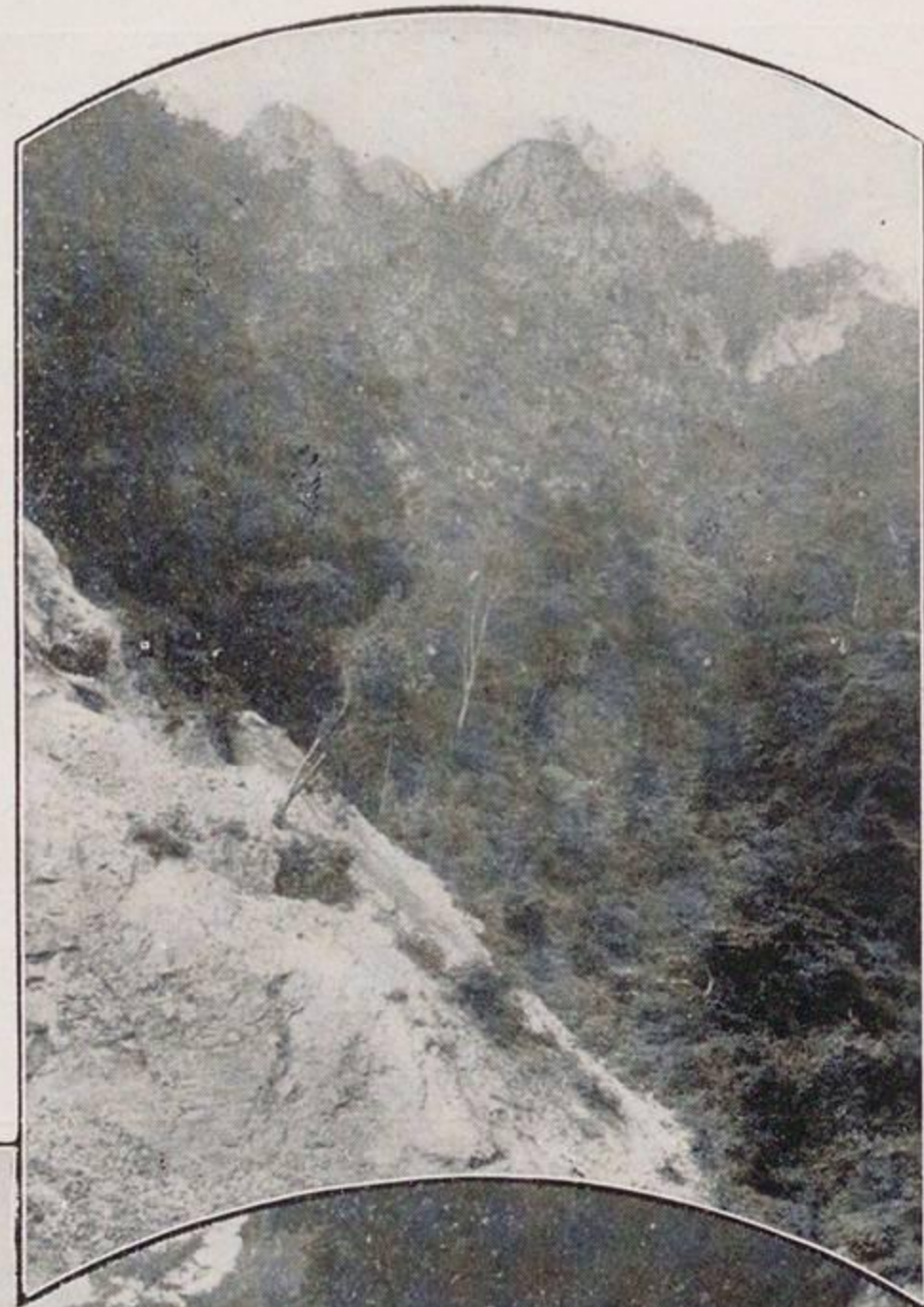


(二ノ其) 全



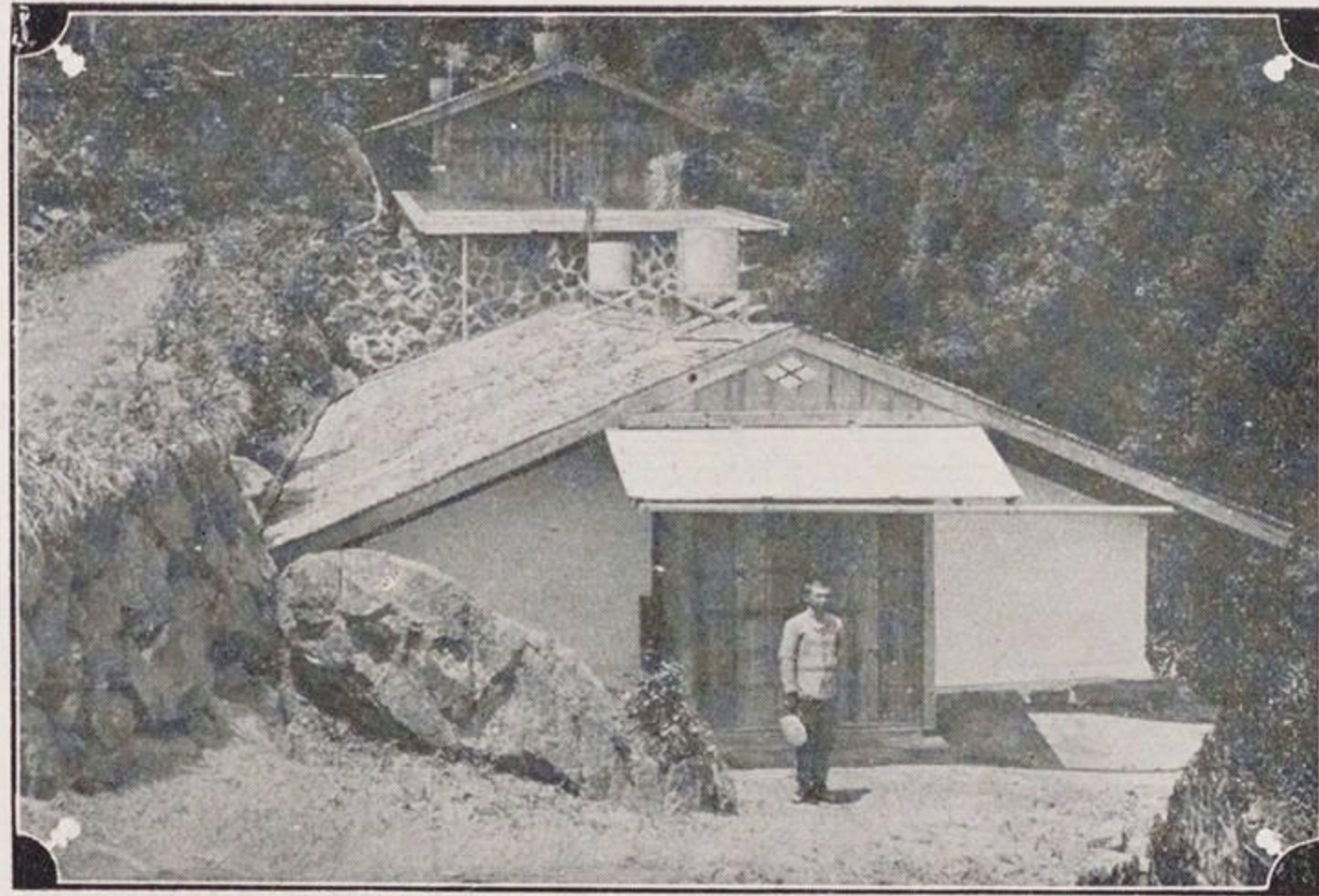
景全ノ穴風船荒

尾澤村尾澤砥山ノ景(其一)

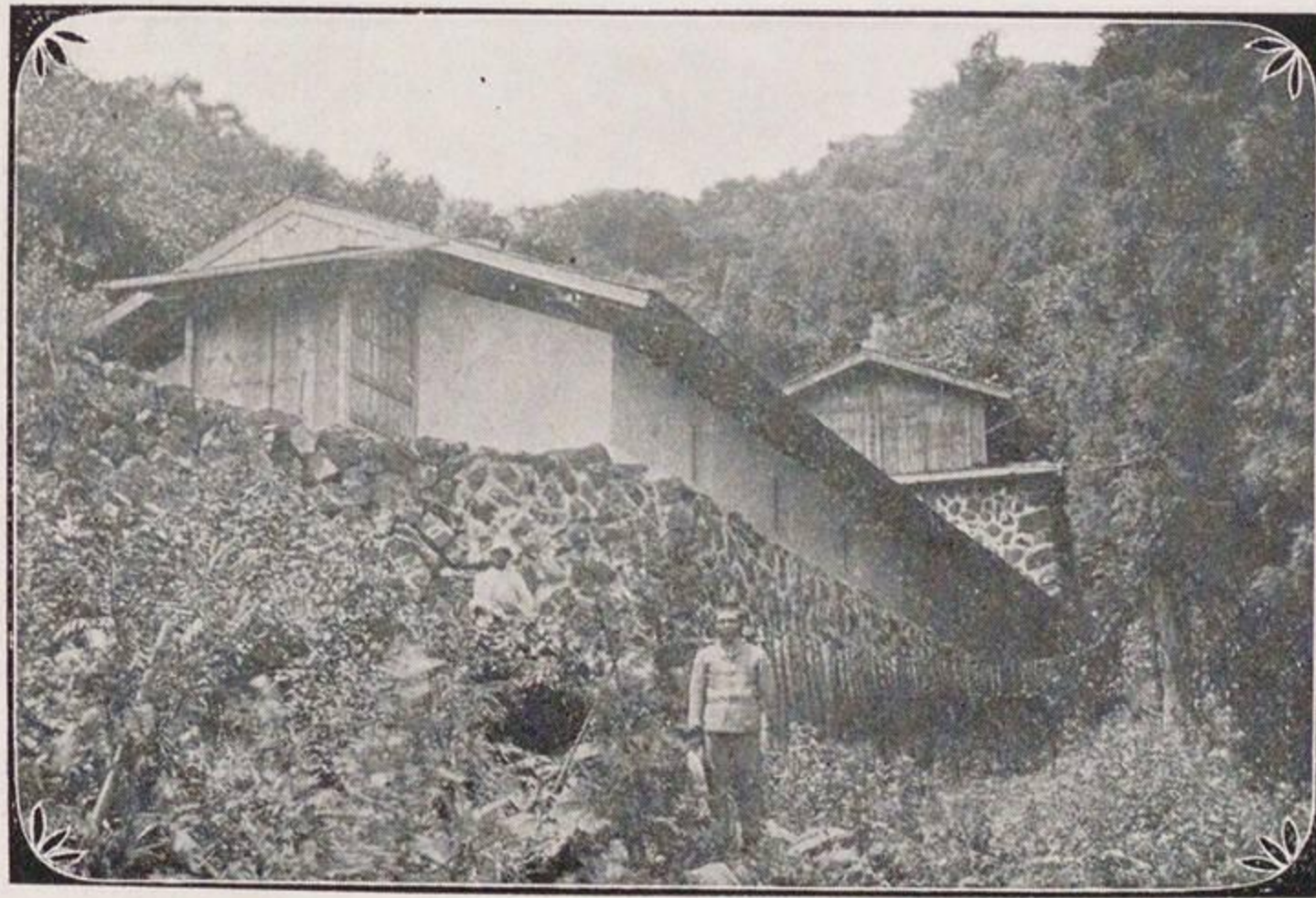


全 (其二)

三

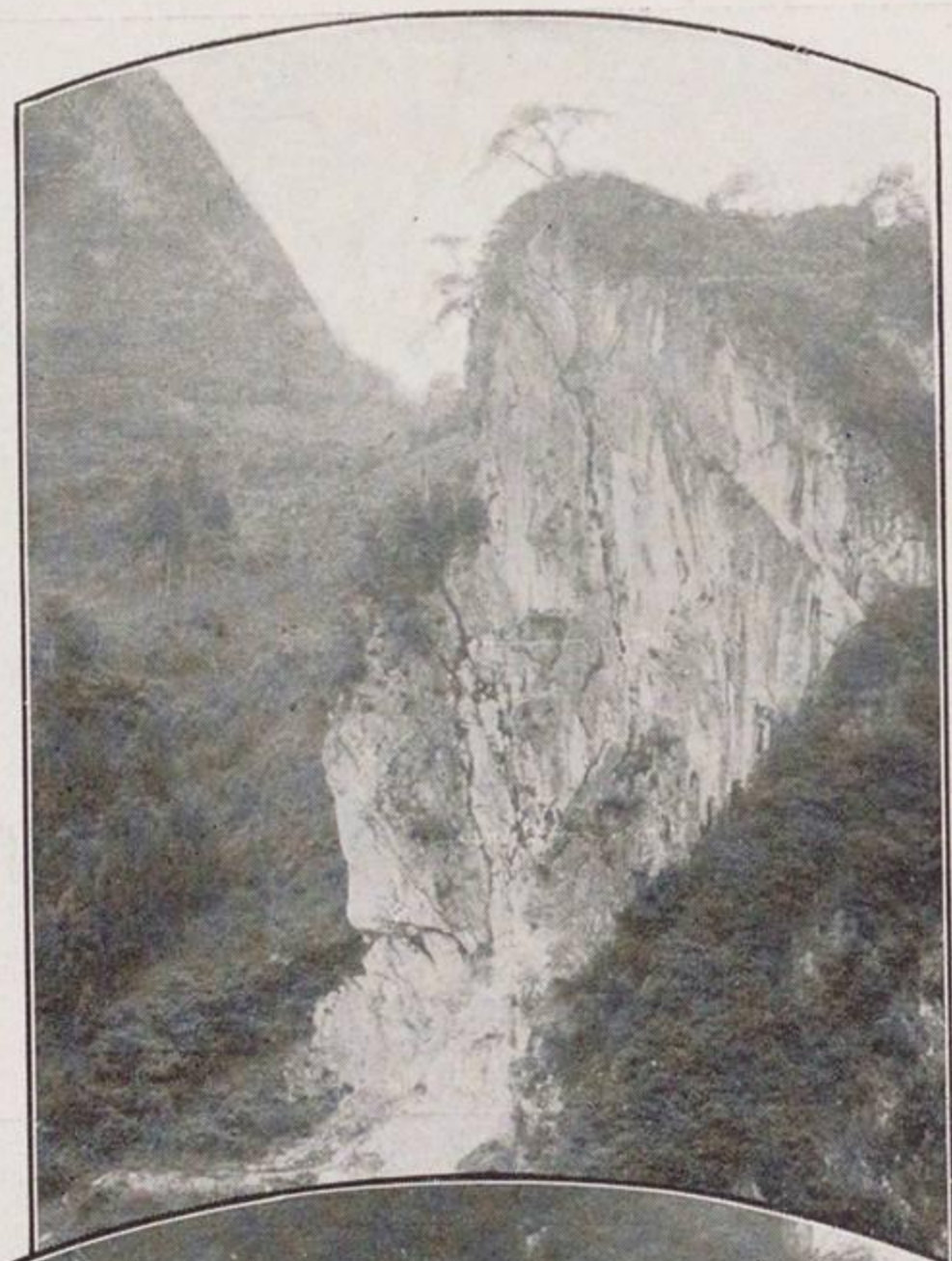


荒船風穴ノ正面



全所ノ側面

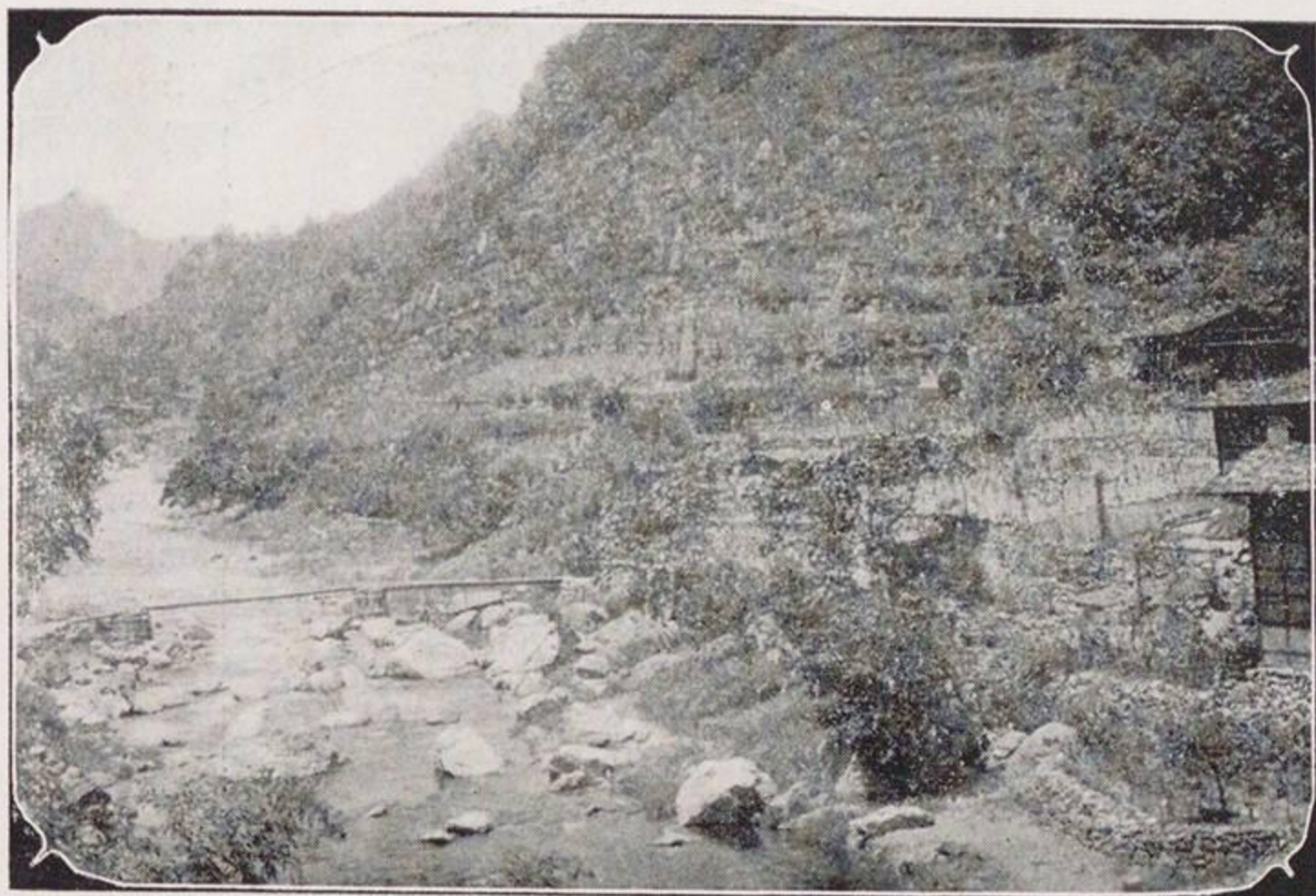
三〇



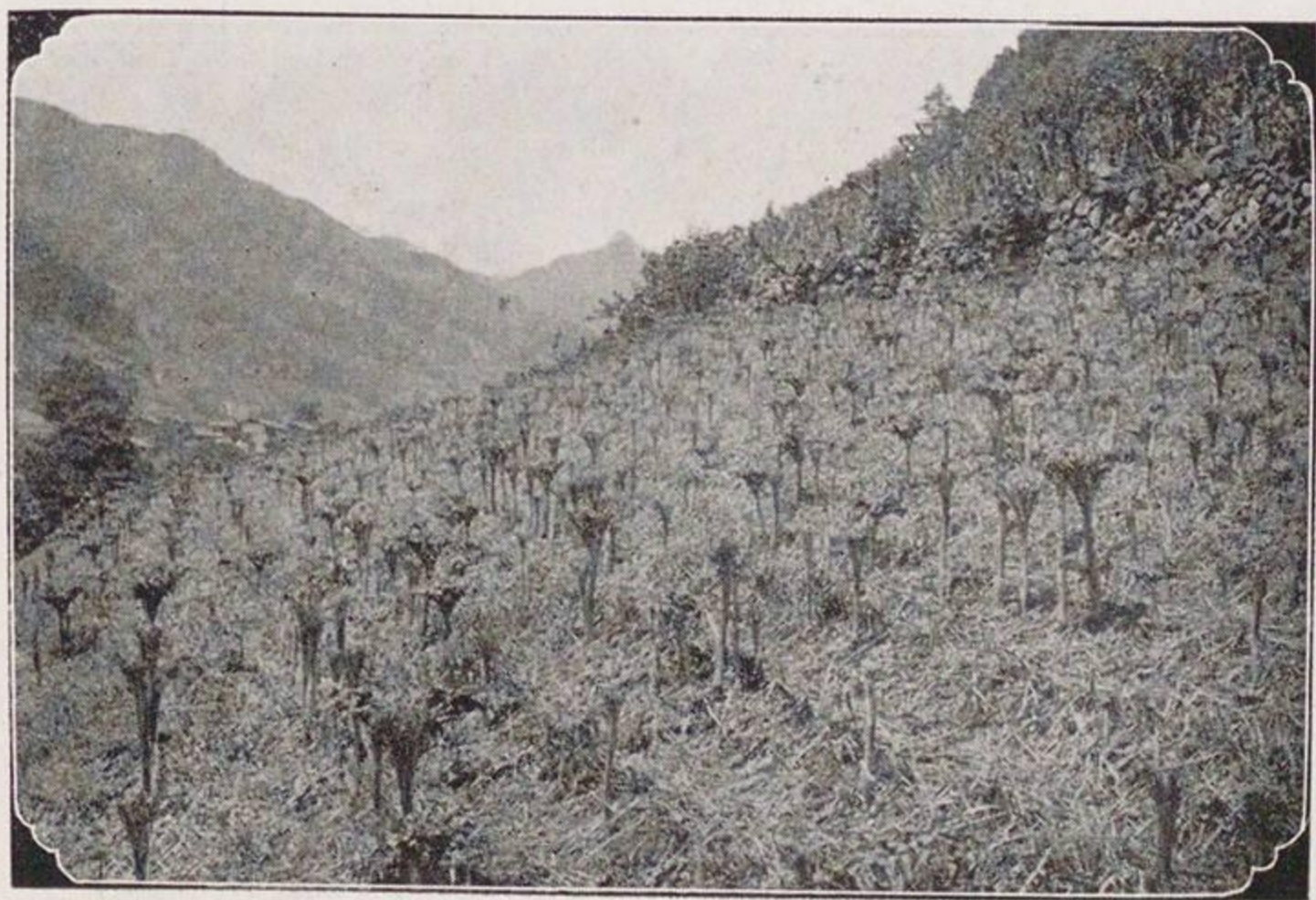
青倉石灰山(其一)



(二 其 全)



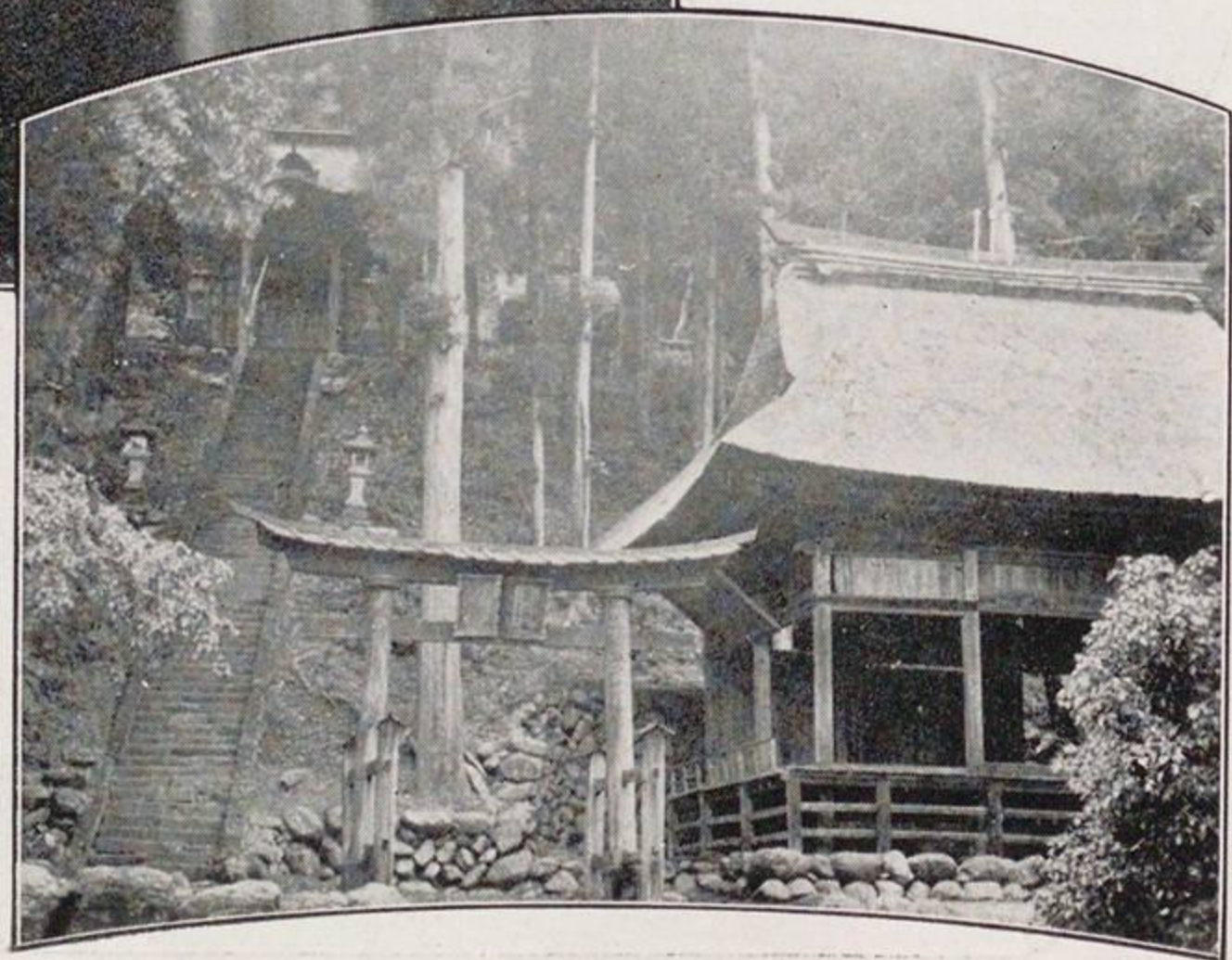
(一其) 景全畑菊菊村形月



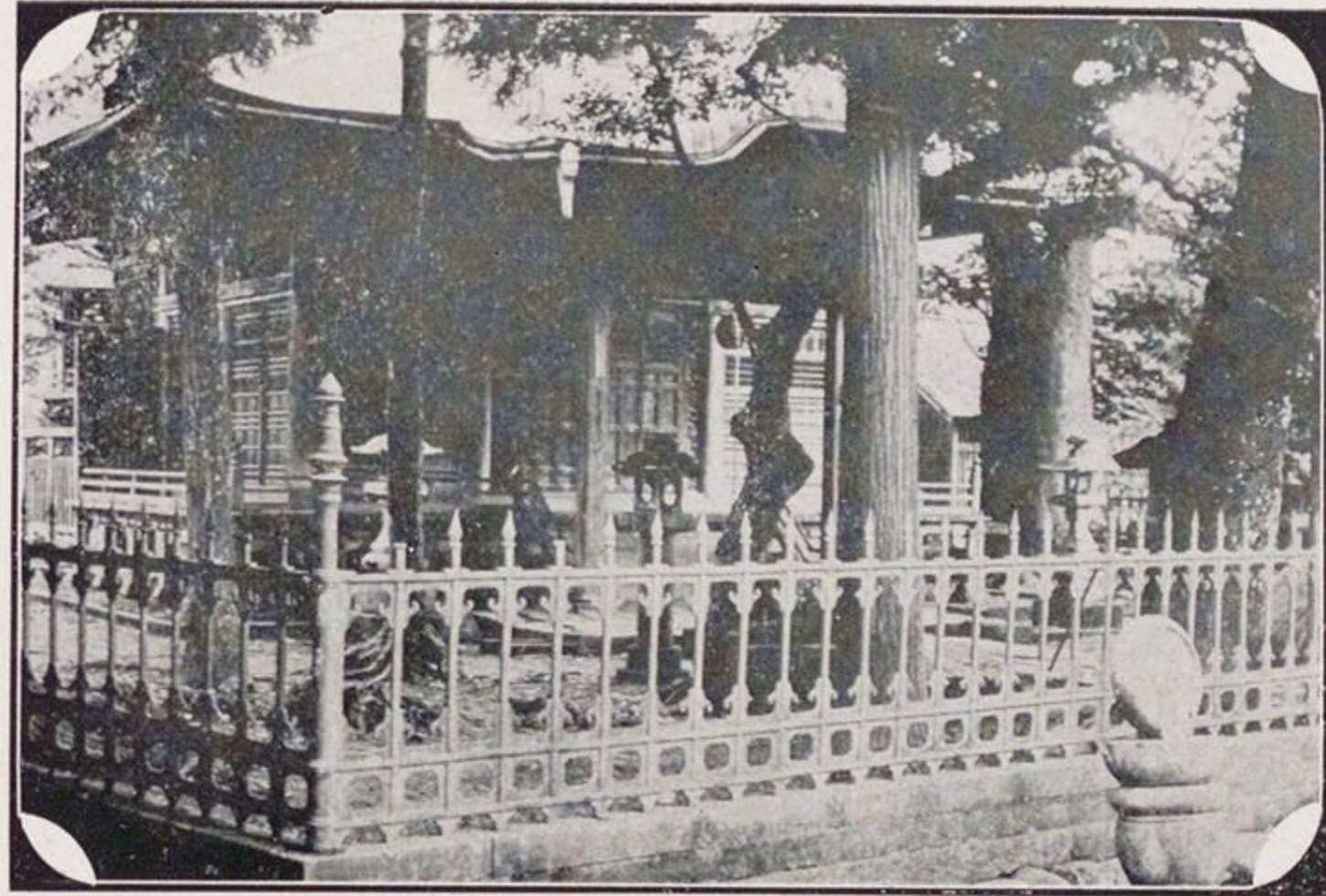
(二 其) 全



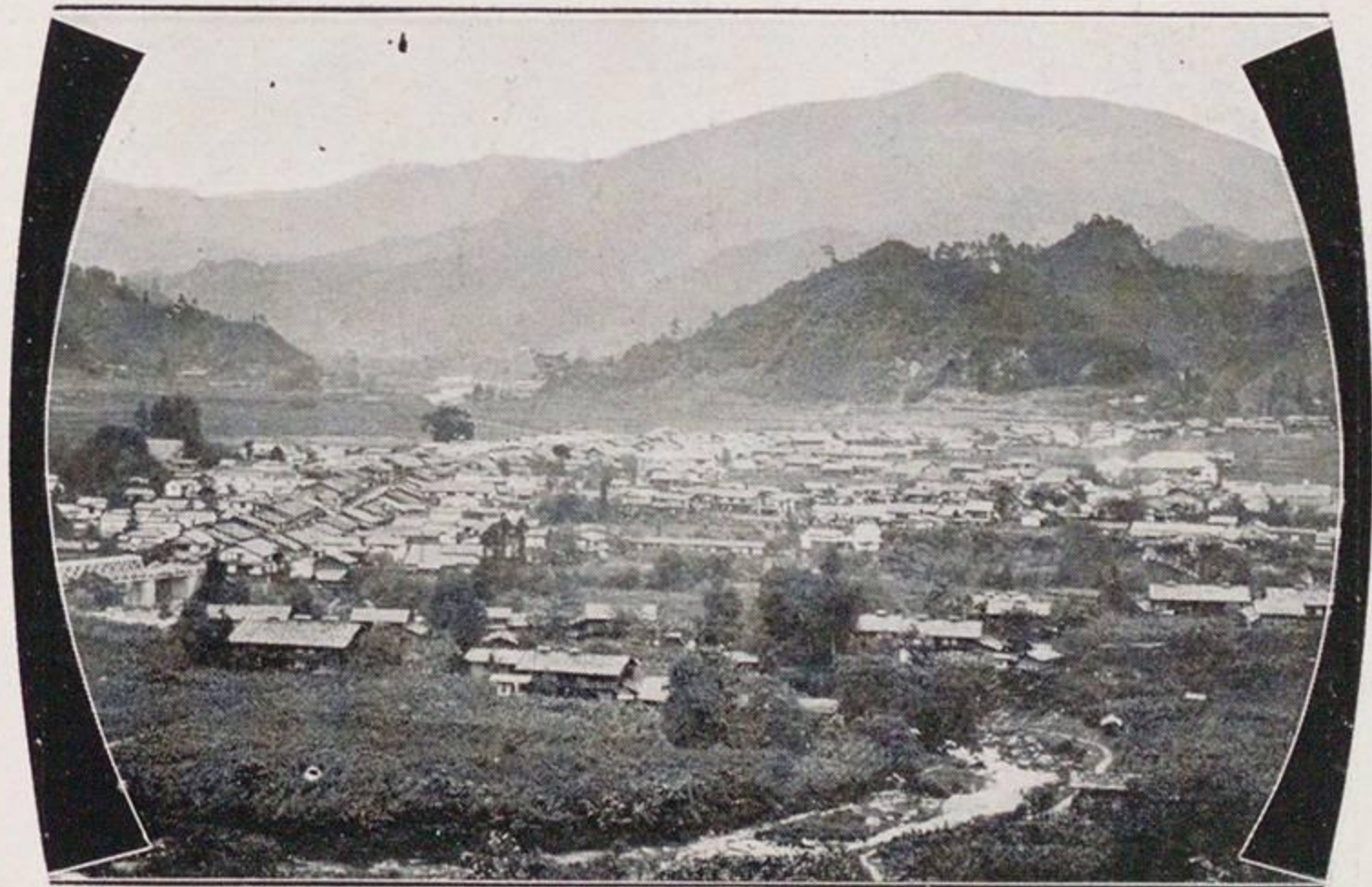
馬山村不動尊ノ瀧



吉田村宇藝神社



社神訪諏社村町田仁下



景全町田仁下

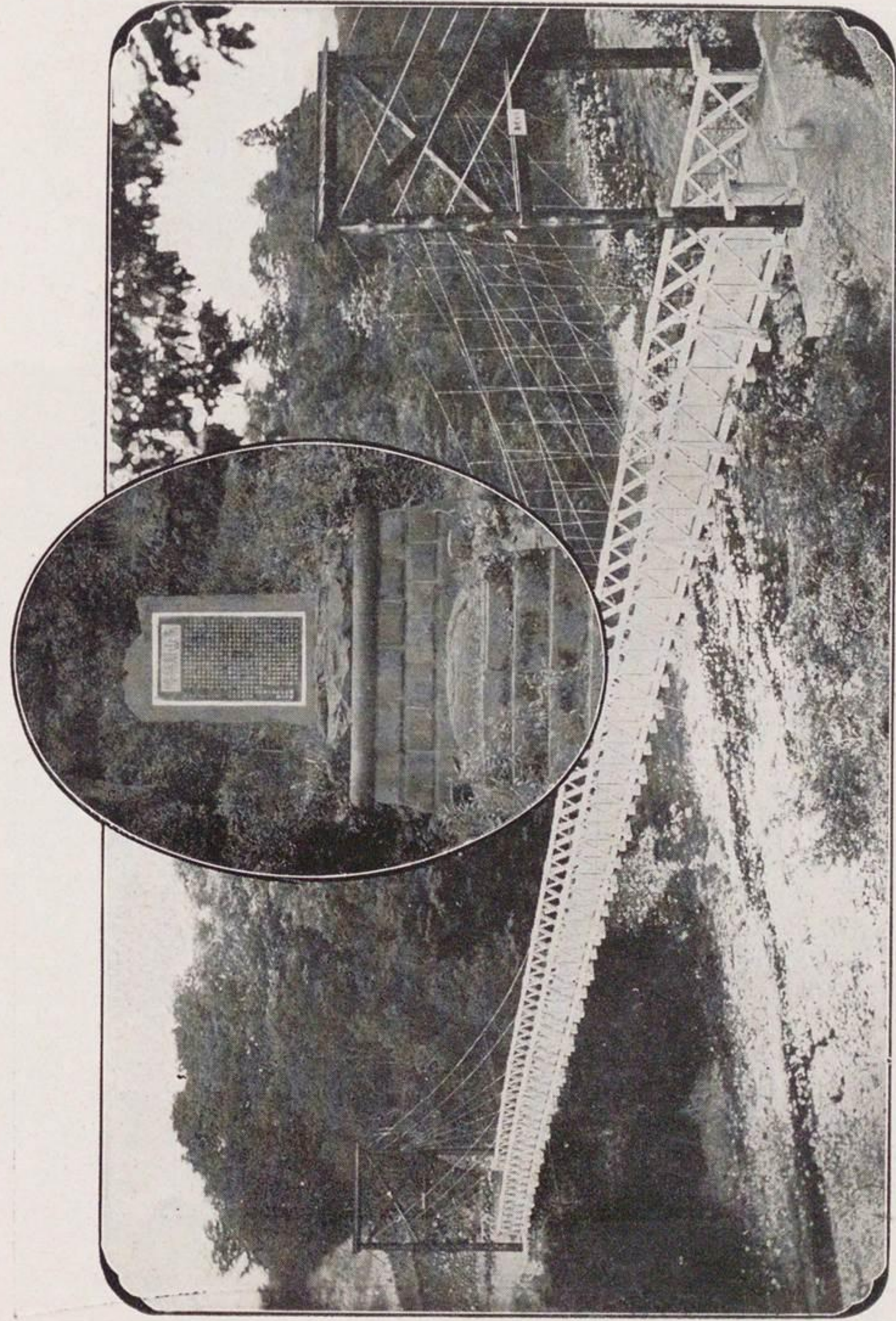


吉田村鳥房神社



全實相寺ノ眞

二七

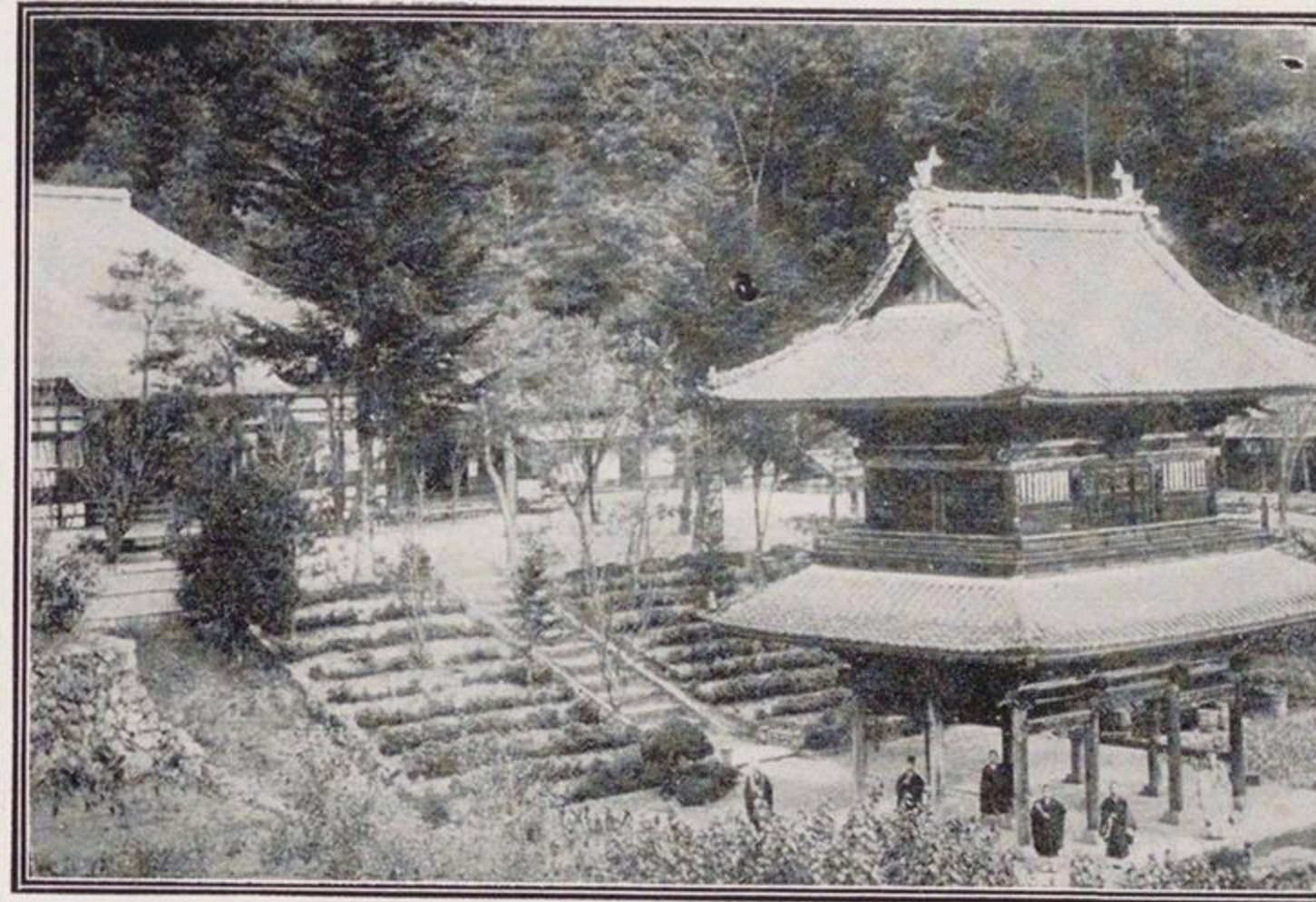


馬山村比佐里橋ト全馬山新道ノ碑

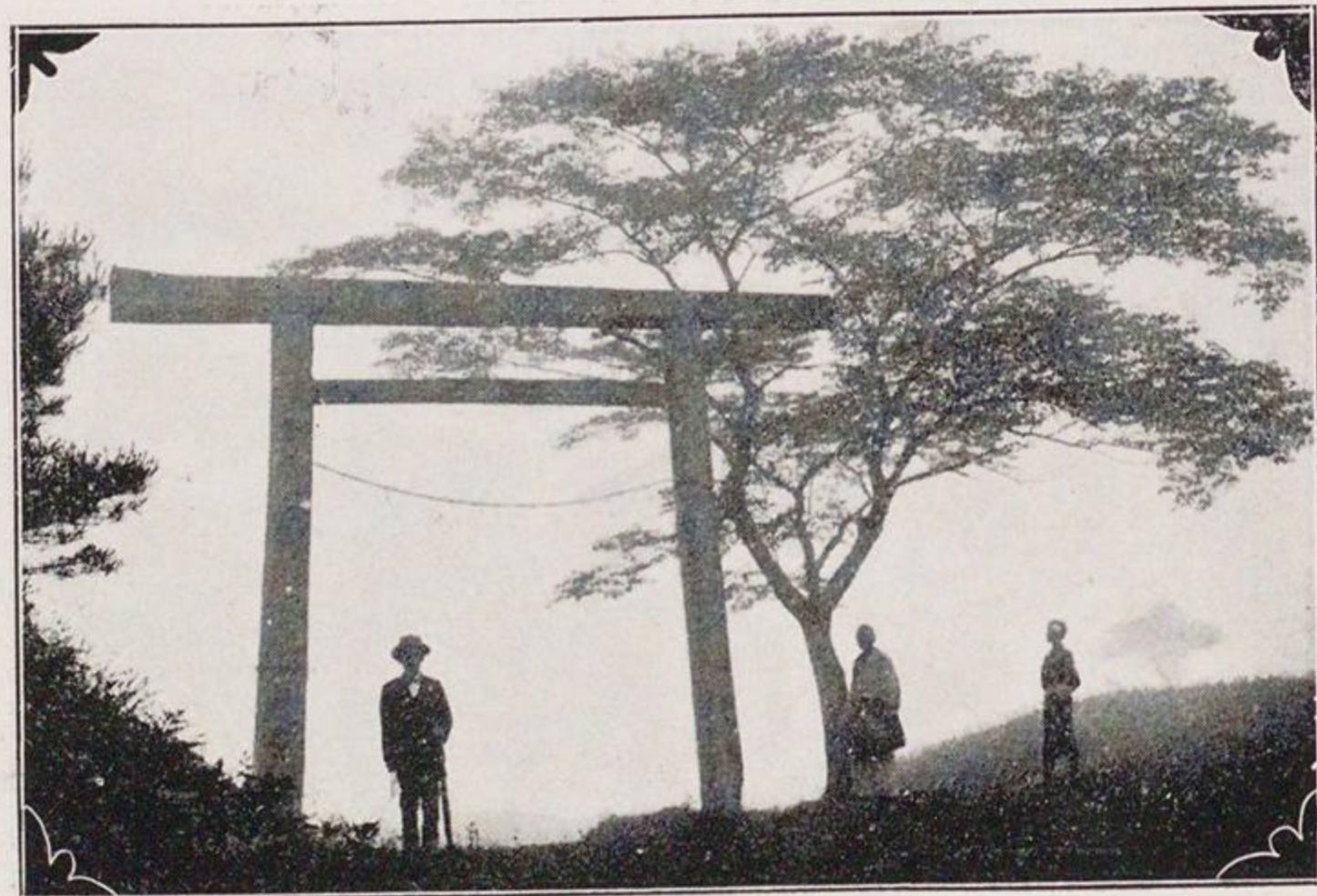
二八



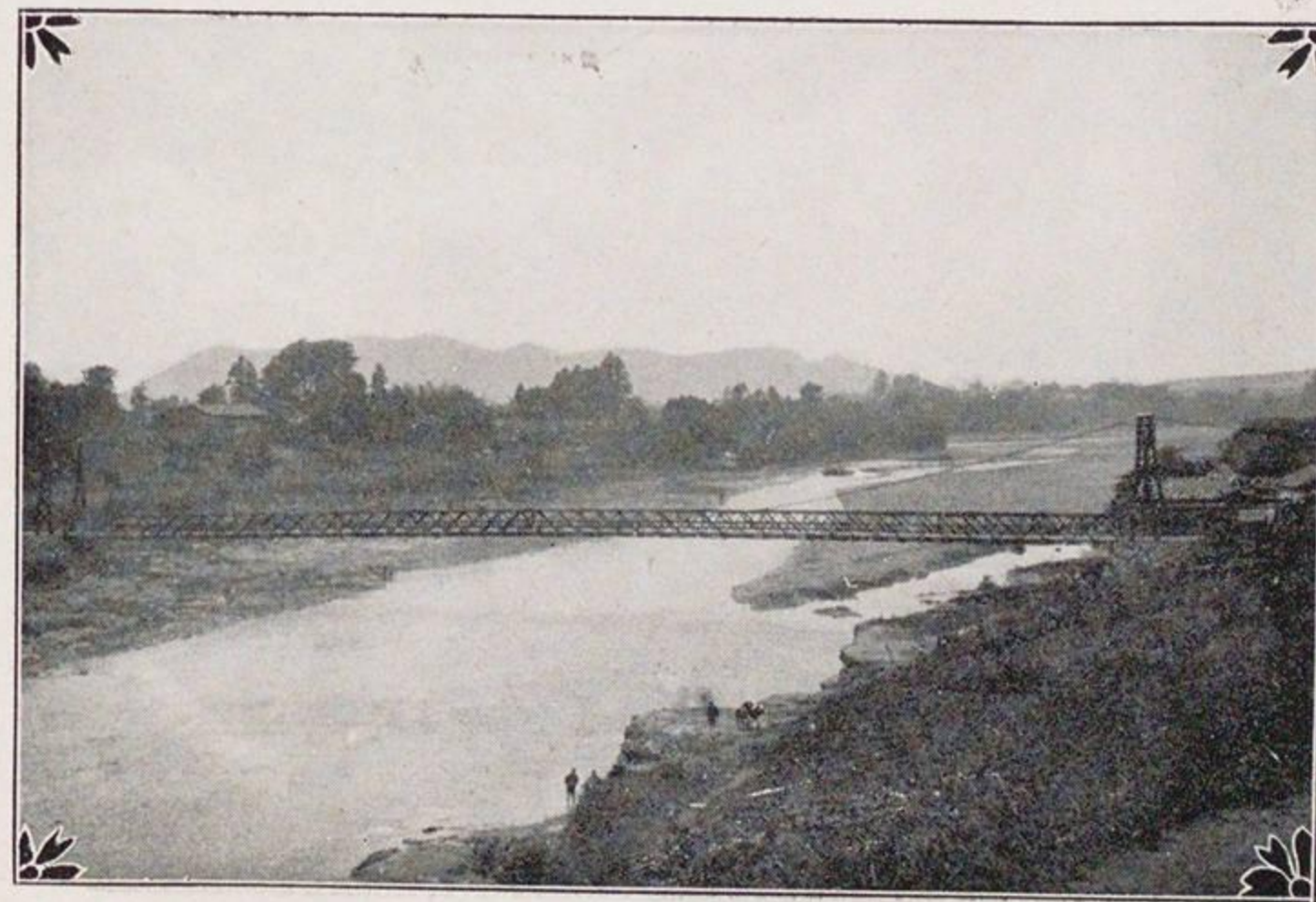
額部村小學校ノ全景



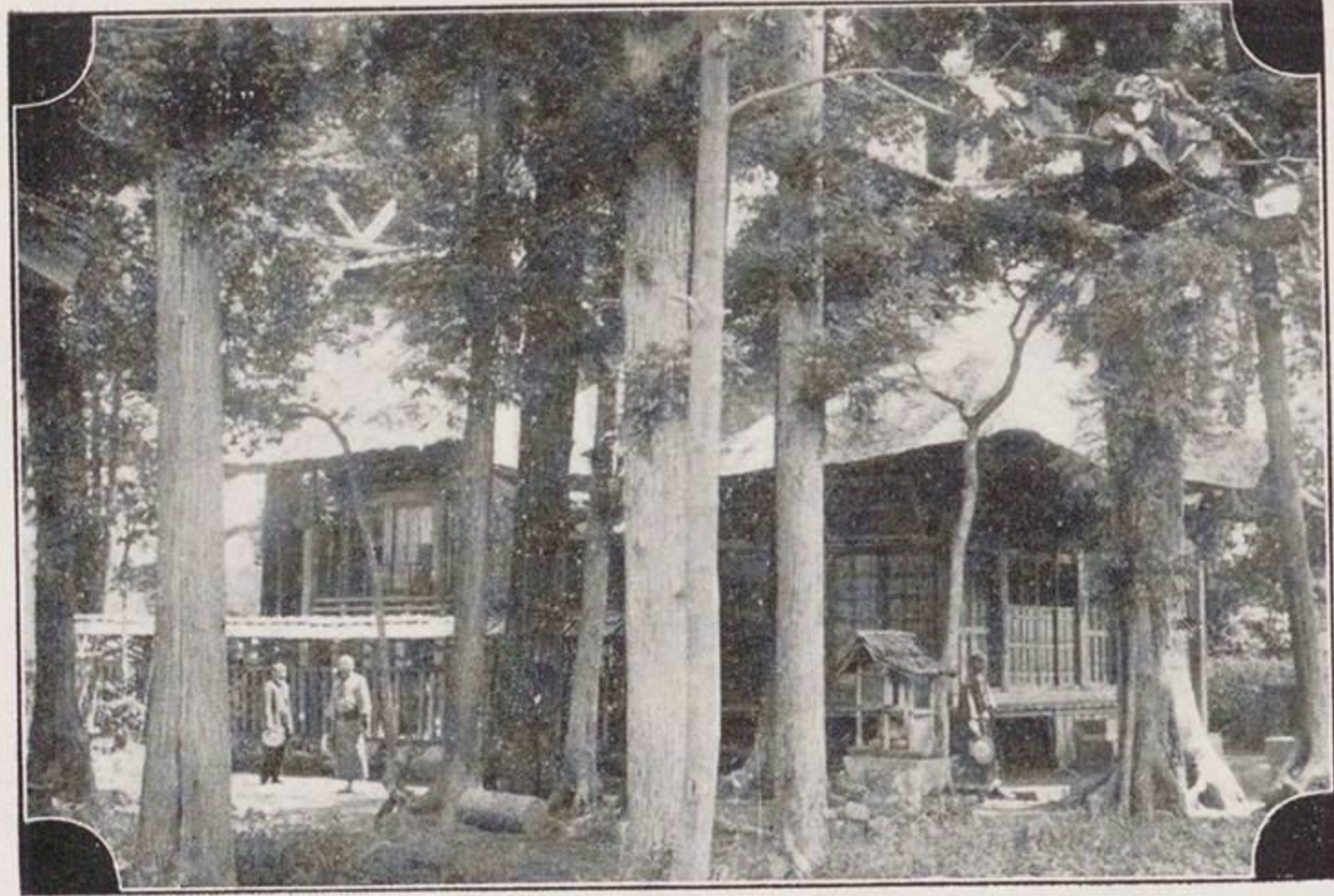
吉田村最興寺



秋畑村稻倉神社



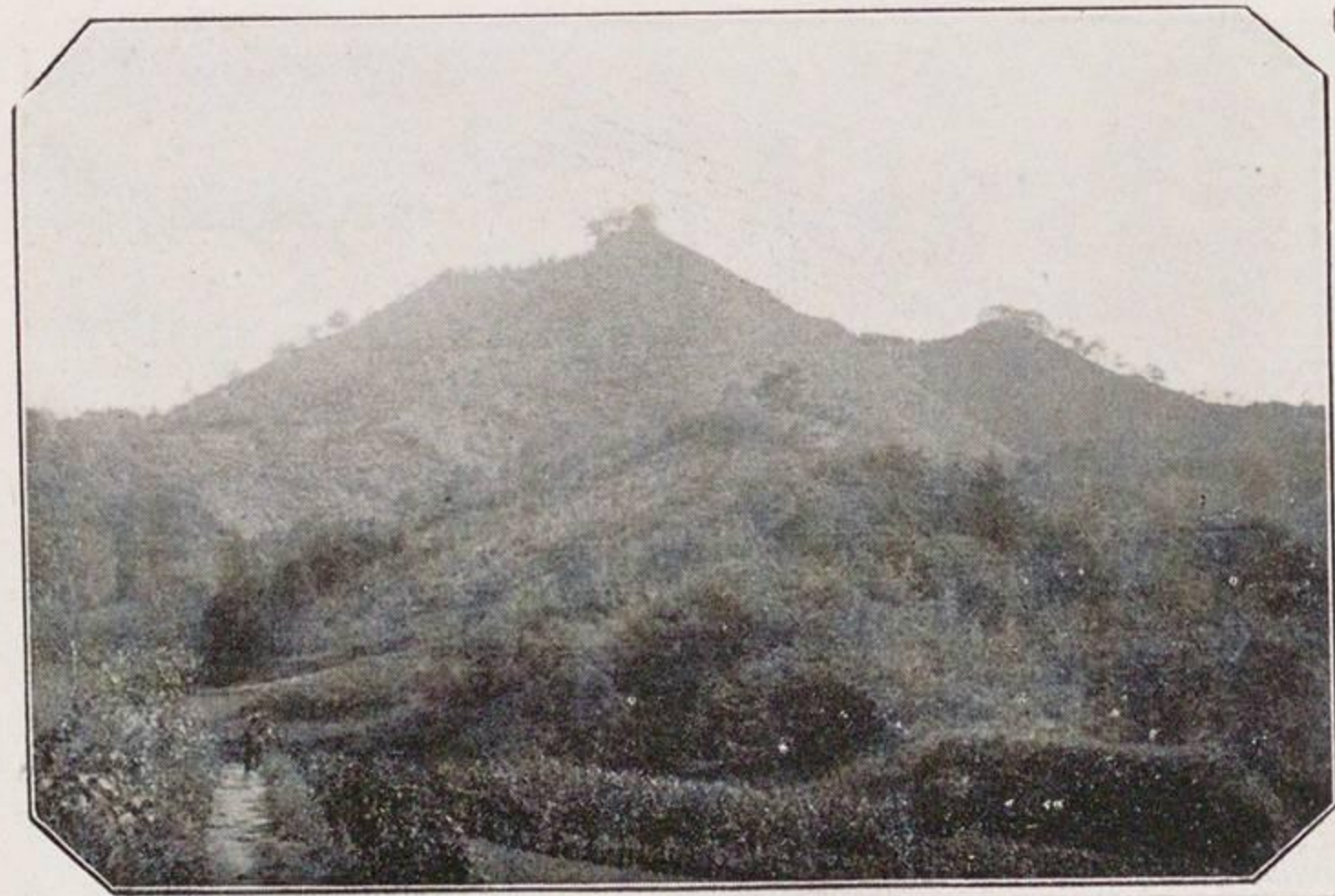
高瀬村桐淵橋



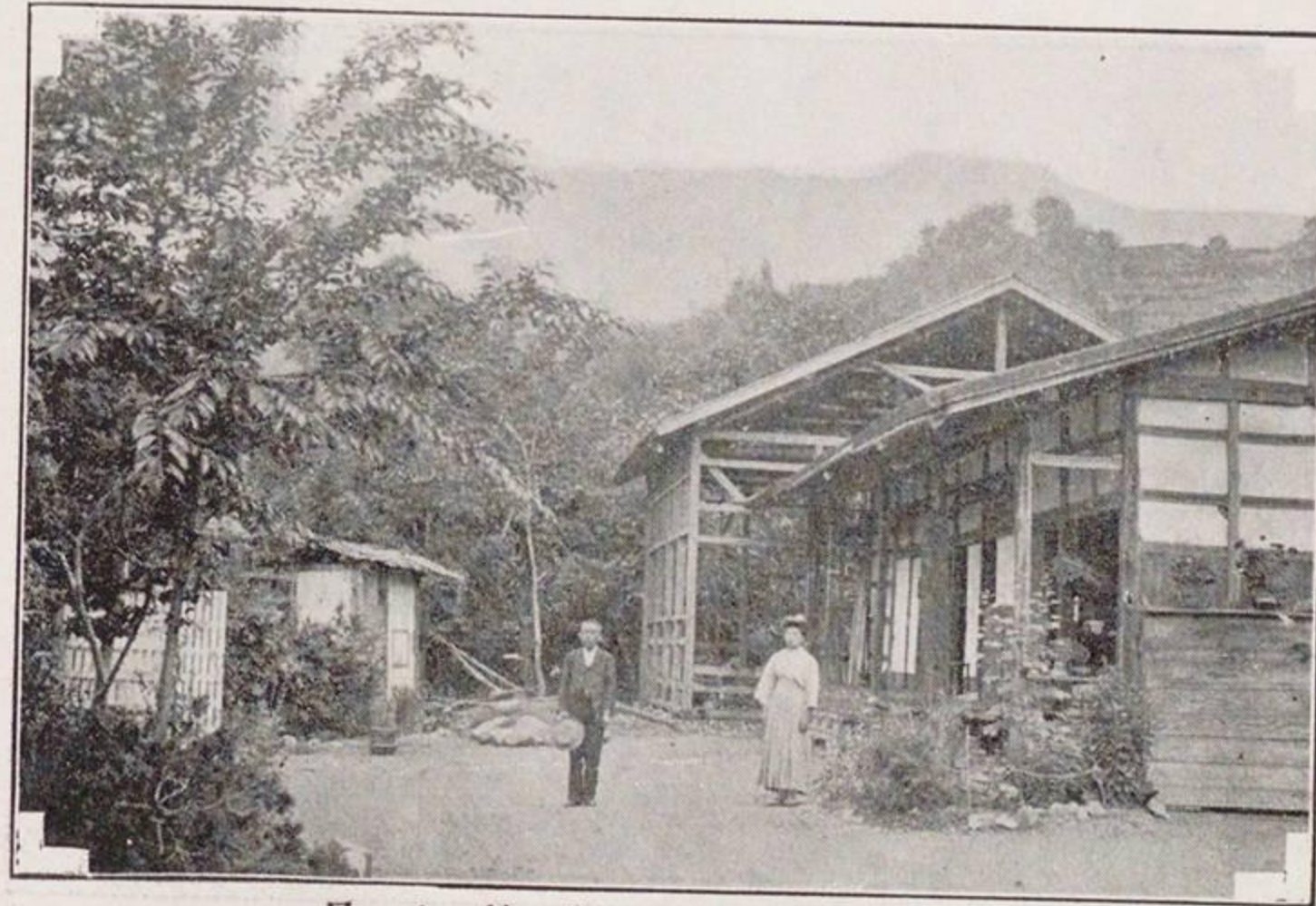
小幡村赤城神社



秋畑村與市八幡



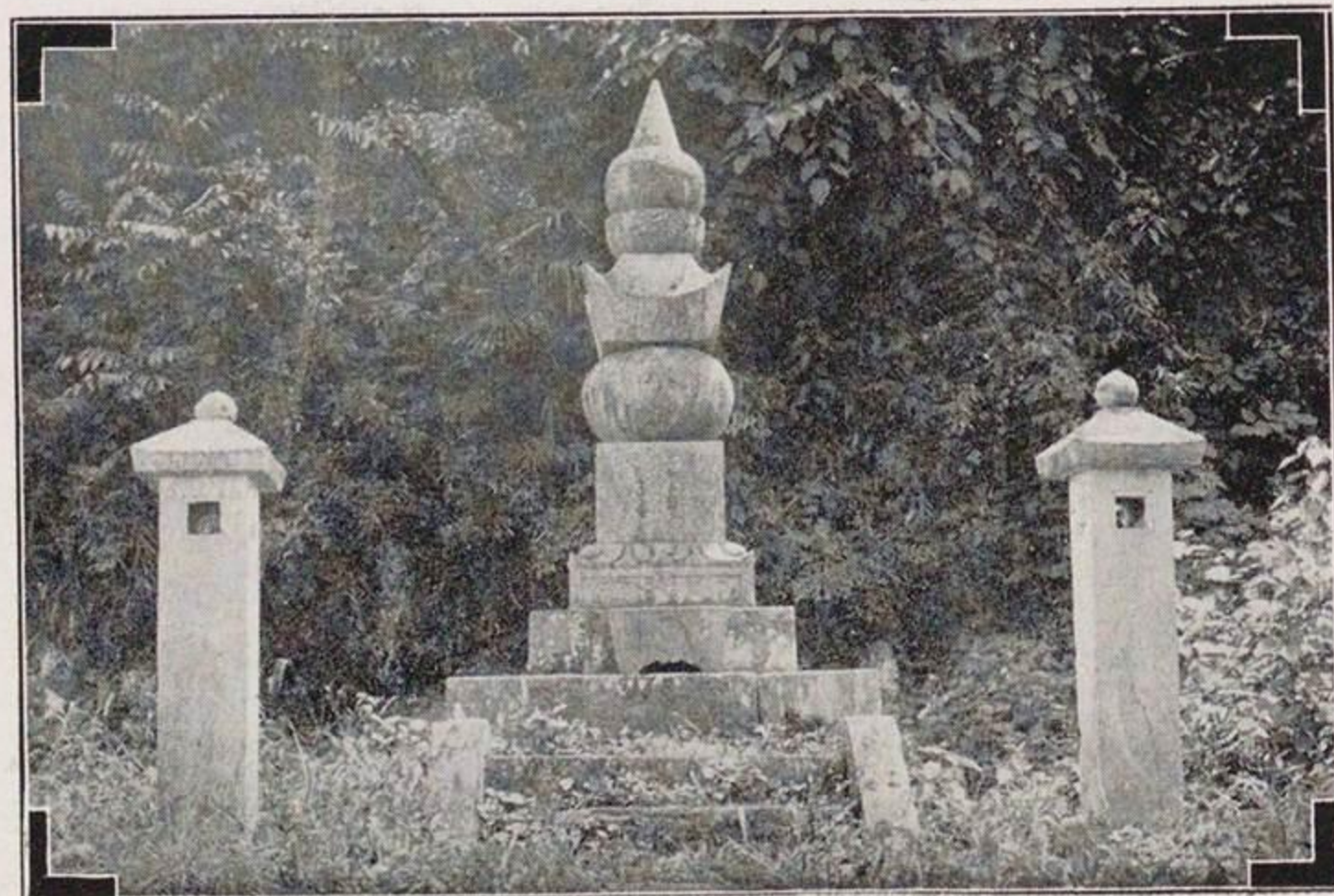
全村國峯城山



全村第二小學校全景

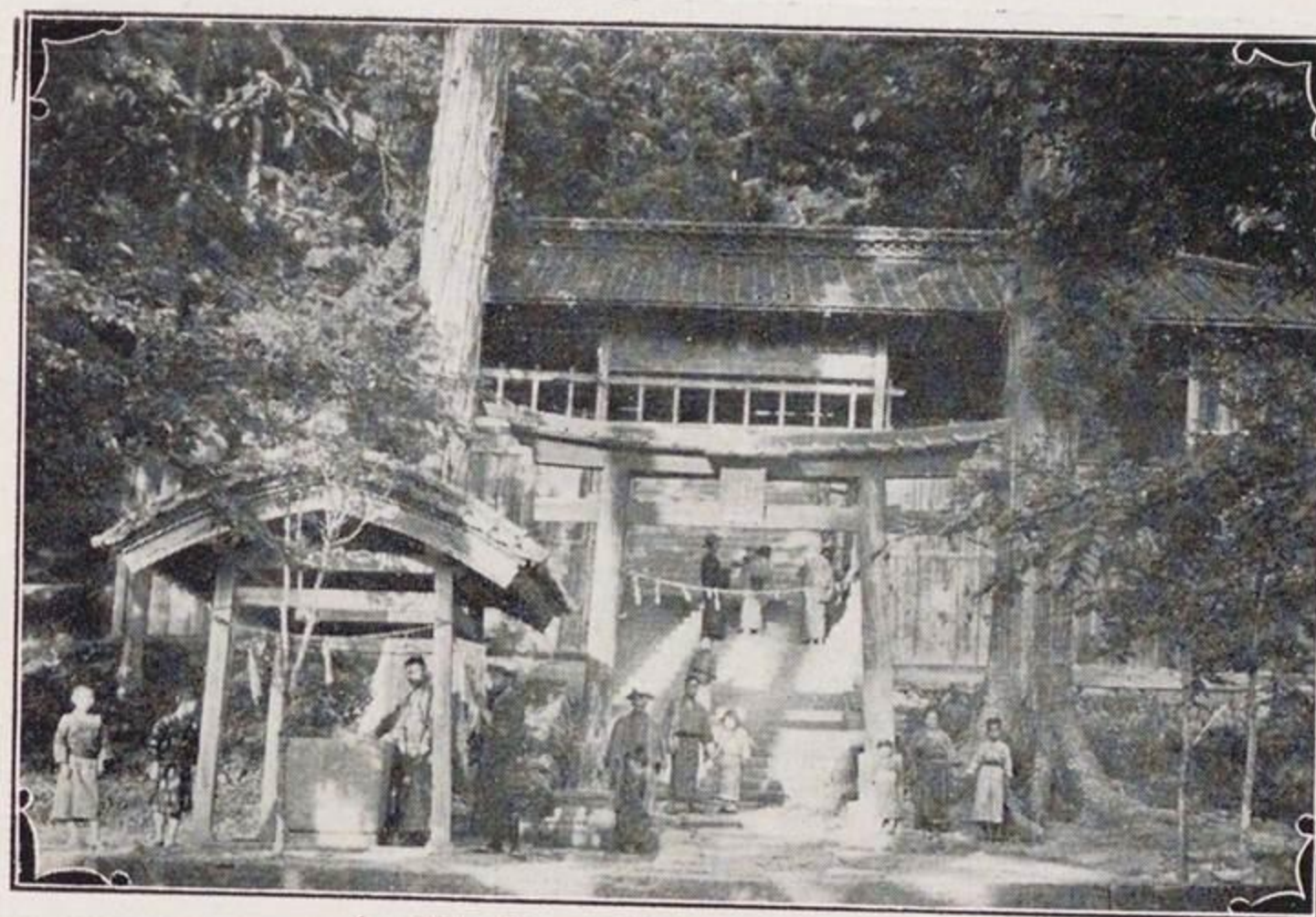


(一其) 景全墓ノ田織村幡小



墓ノ雄信田織村全

四三

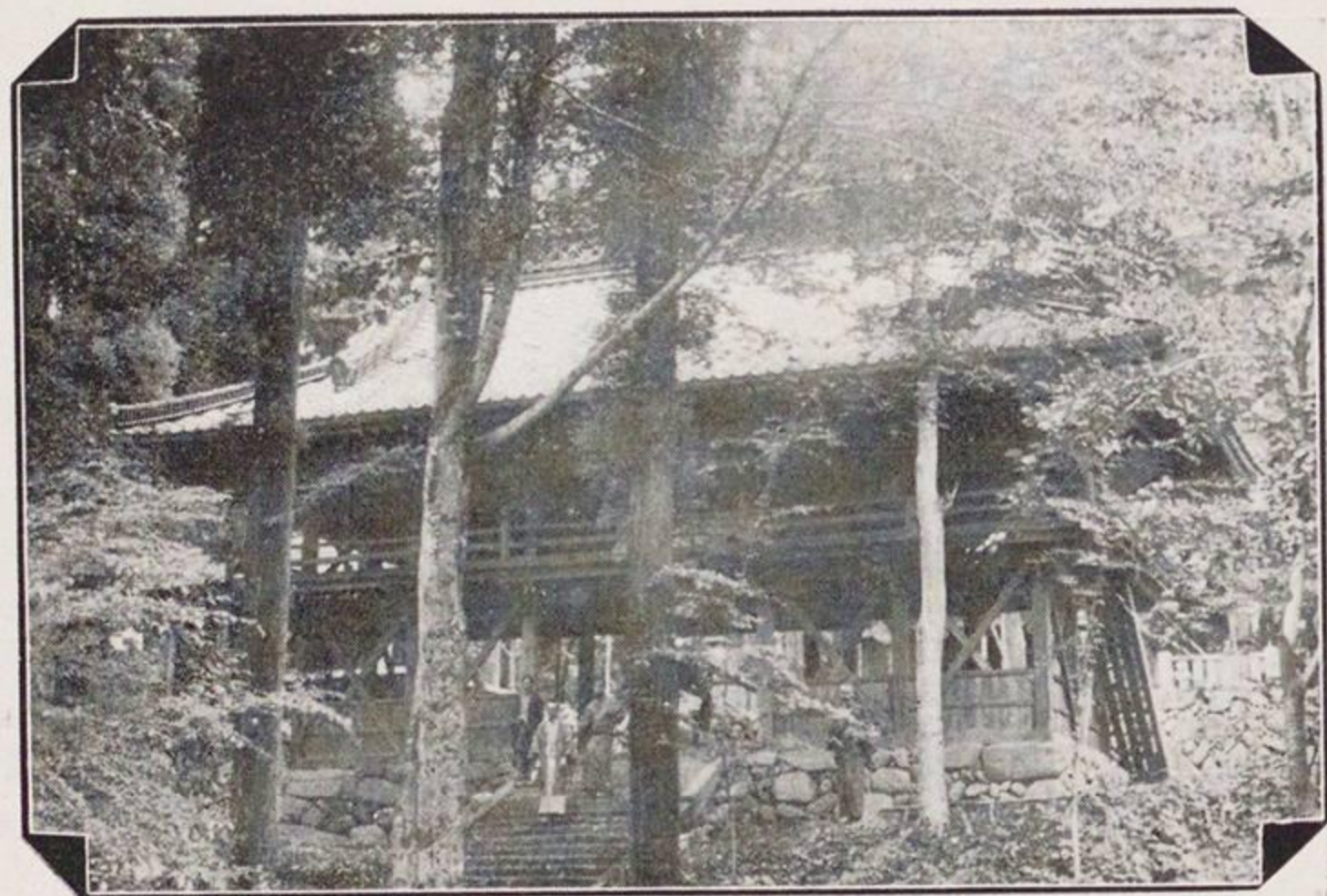


(一其) 景ノ社幡八村幡小

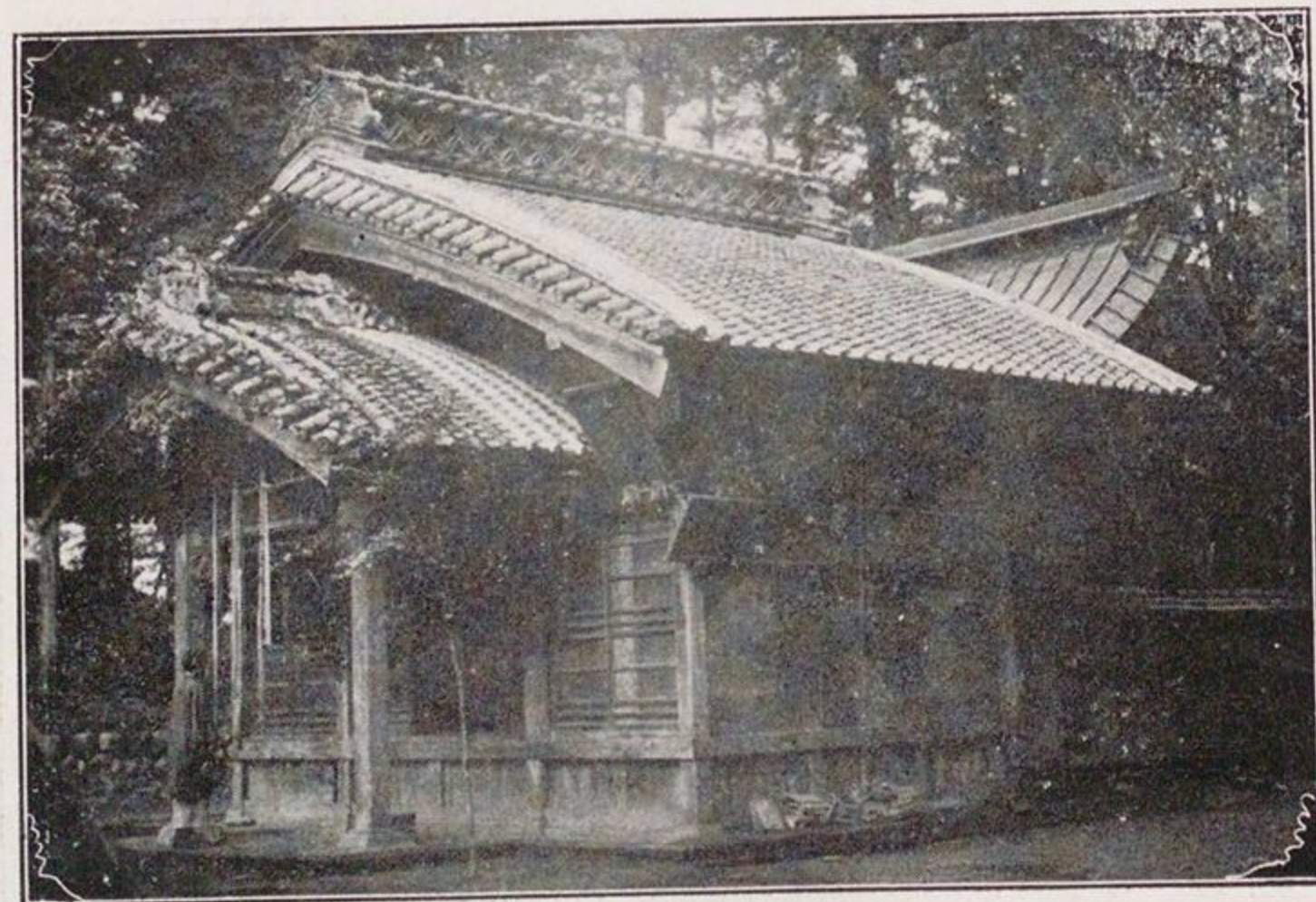


(二其) 全

四二

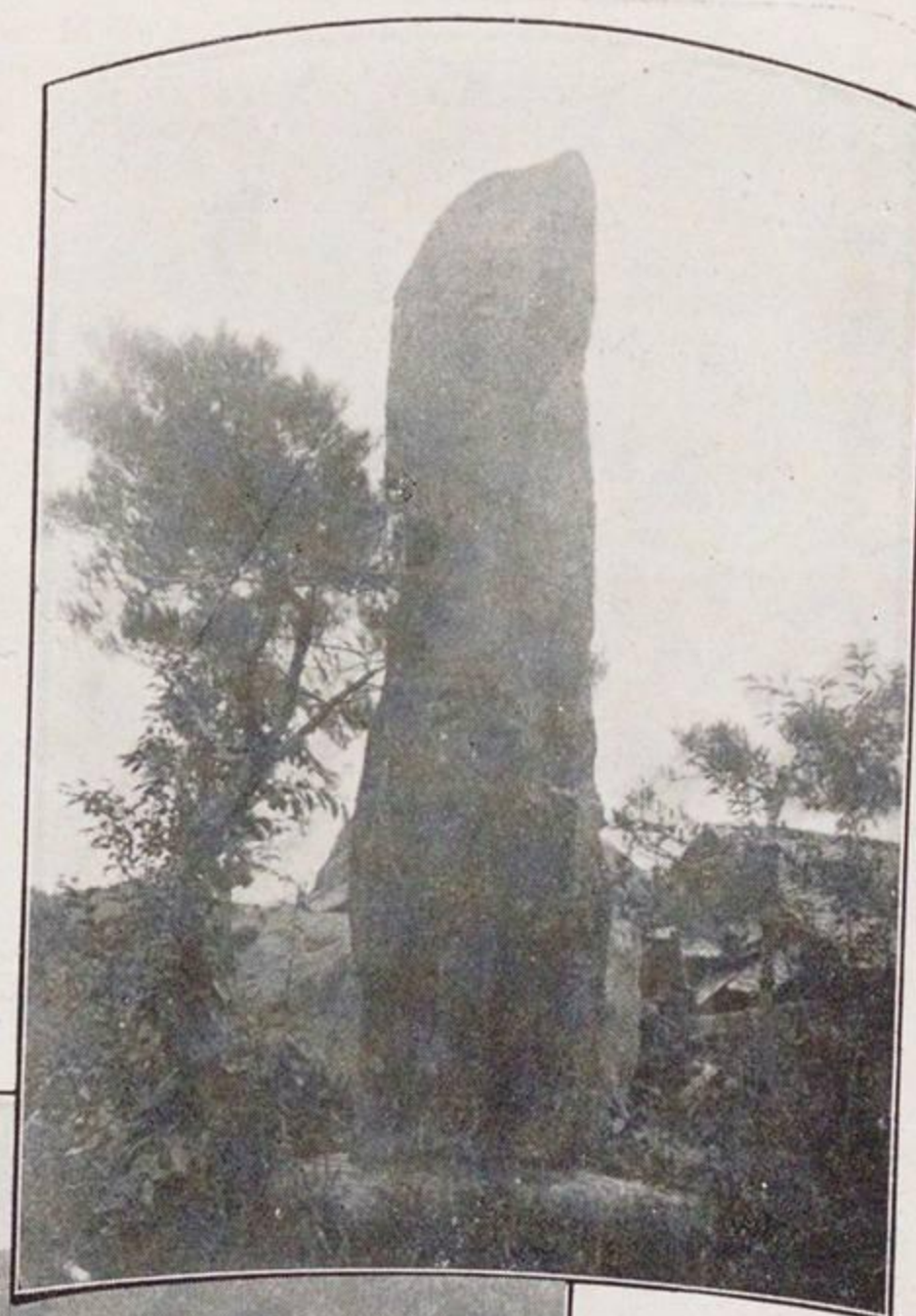


福島町笹森稲荷神社ノ門

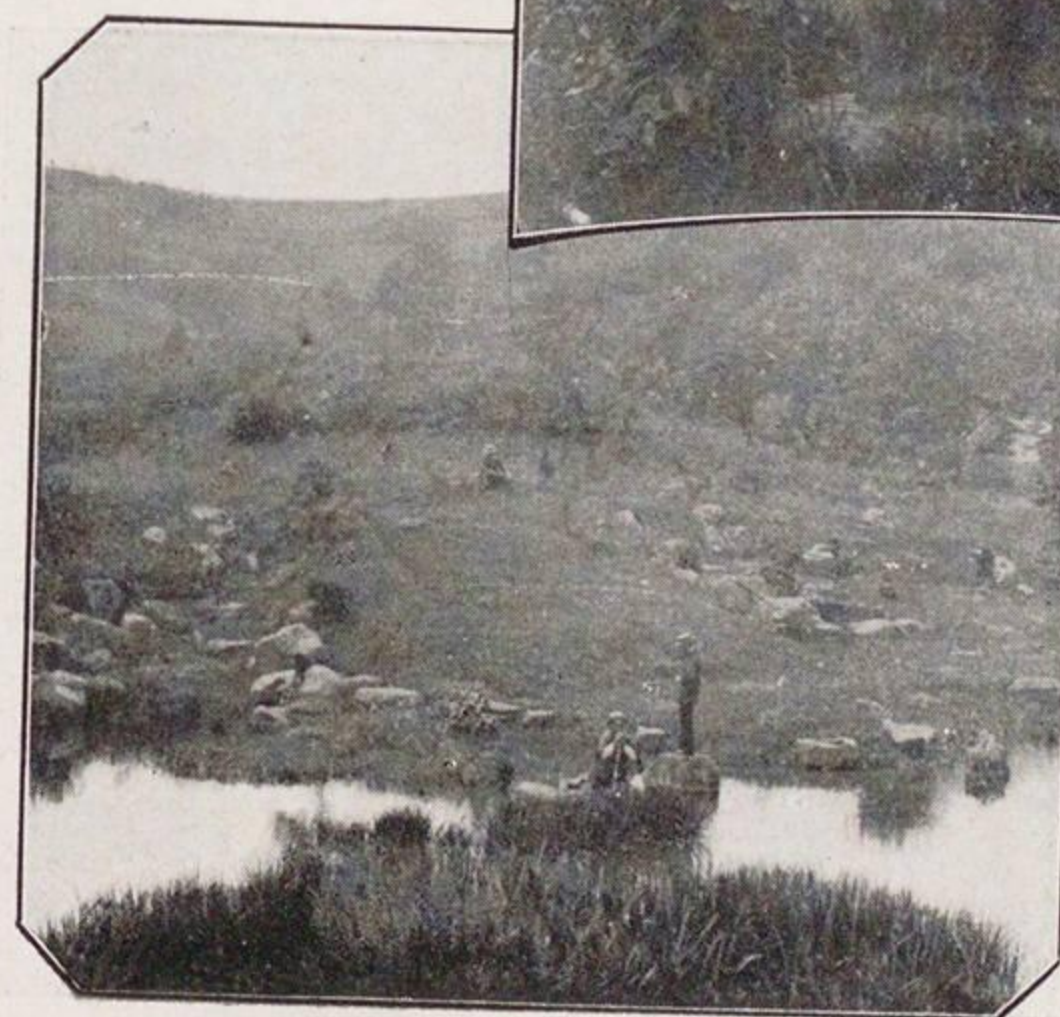


全本社

四五



福島町大日如來



小幡村御殿

四四

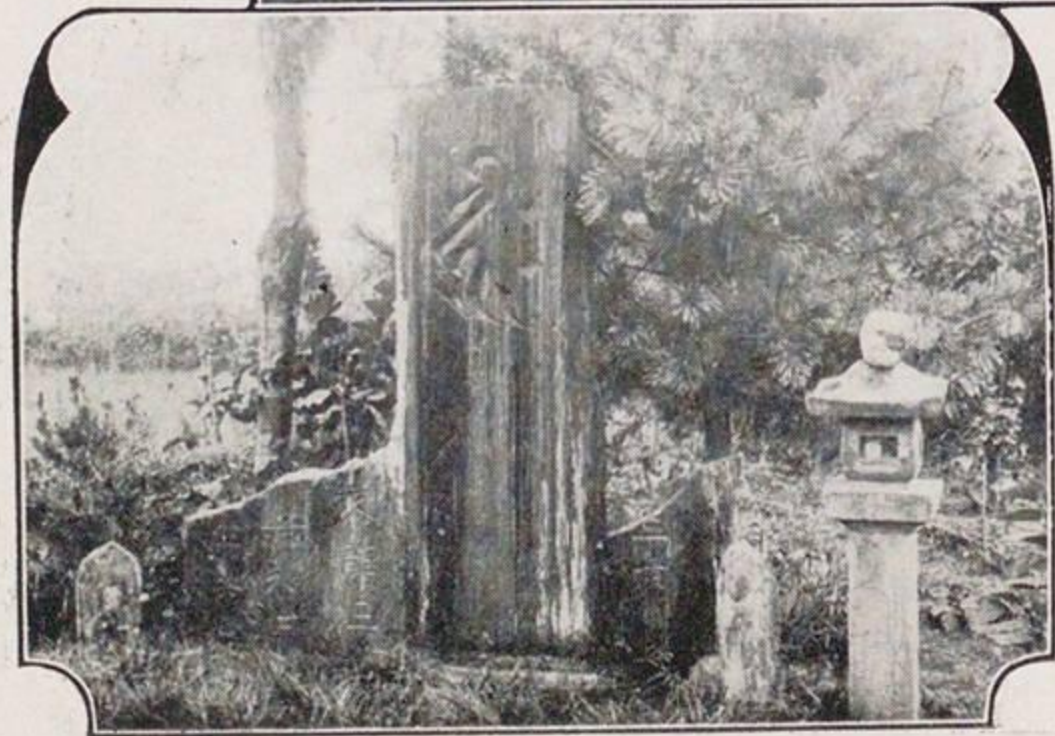
白倉太神神樂殿



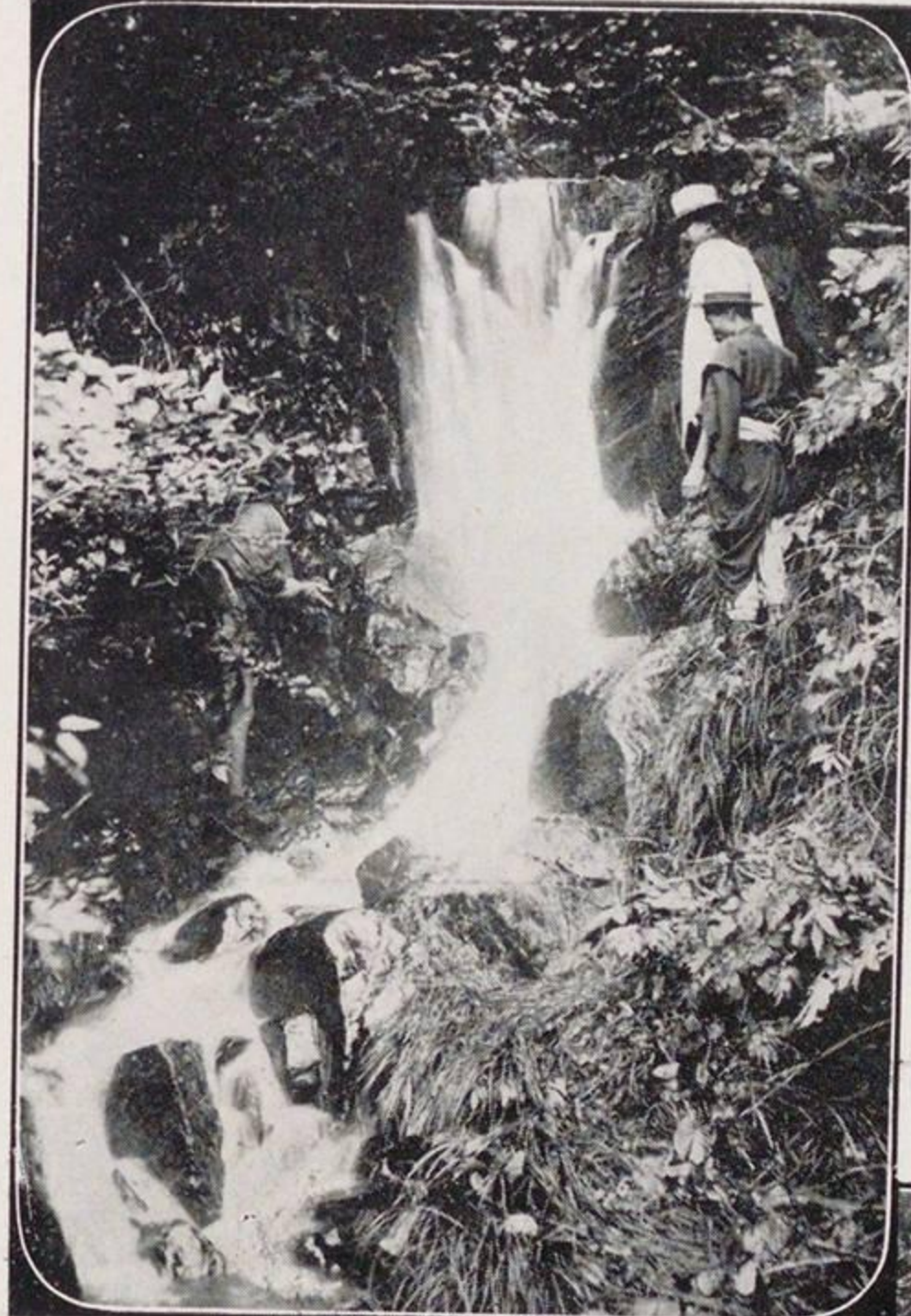
全本社及客殿



新屋村大日如來ノ古碑



新屋村白倉太神境内(其一)不動ノ瀧

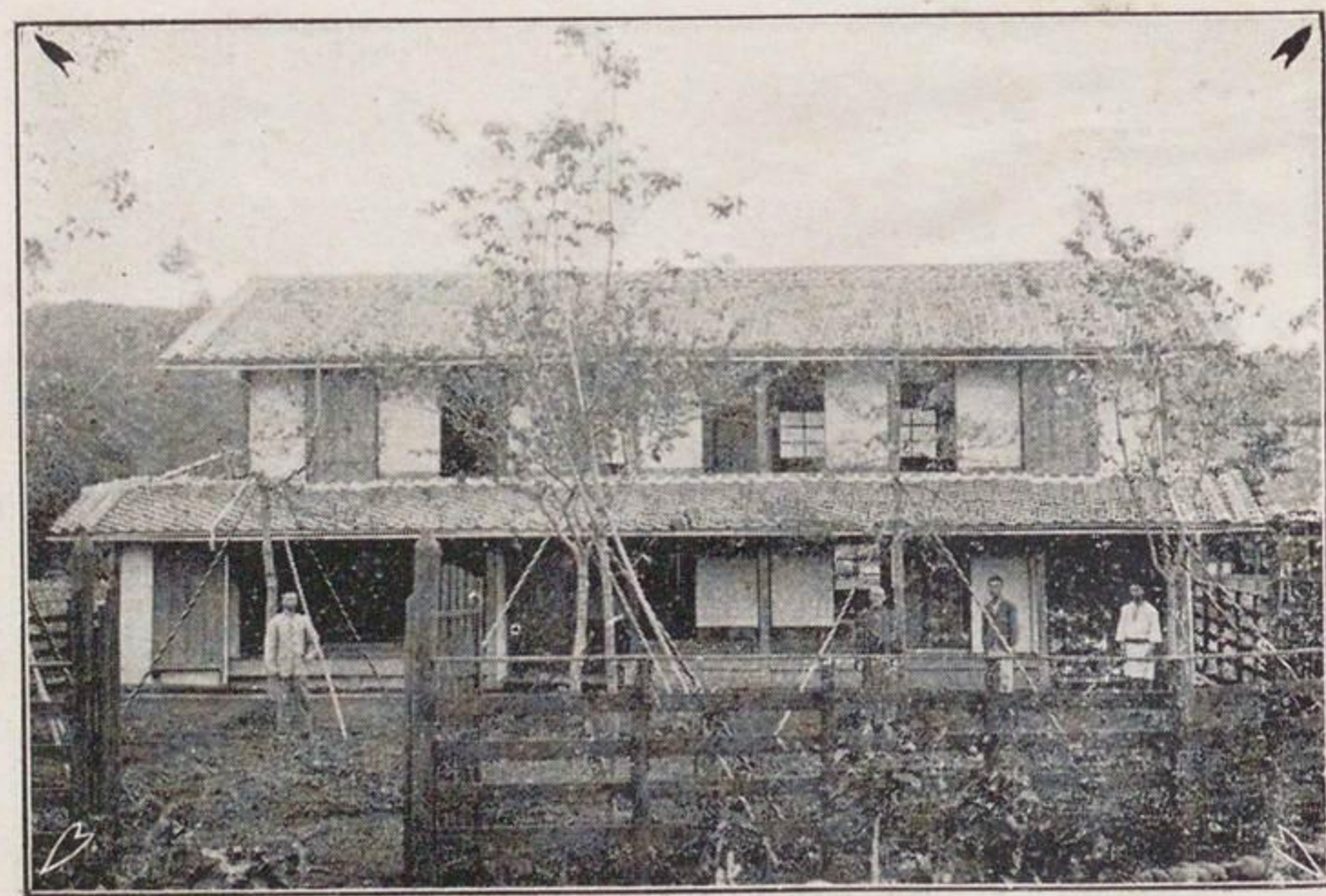


全境内(其二)瀧瀧

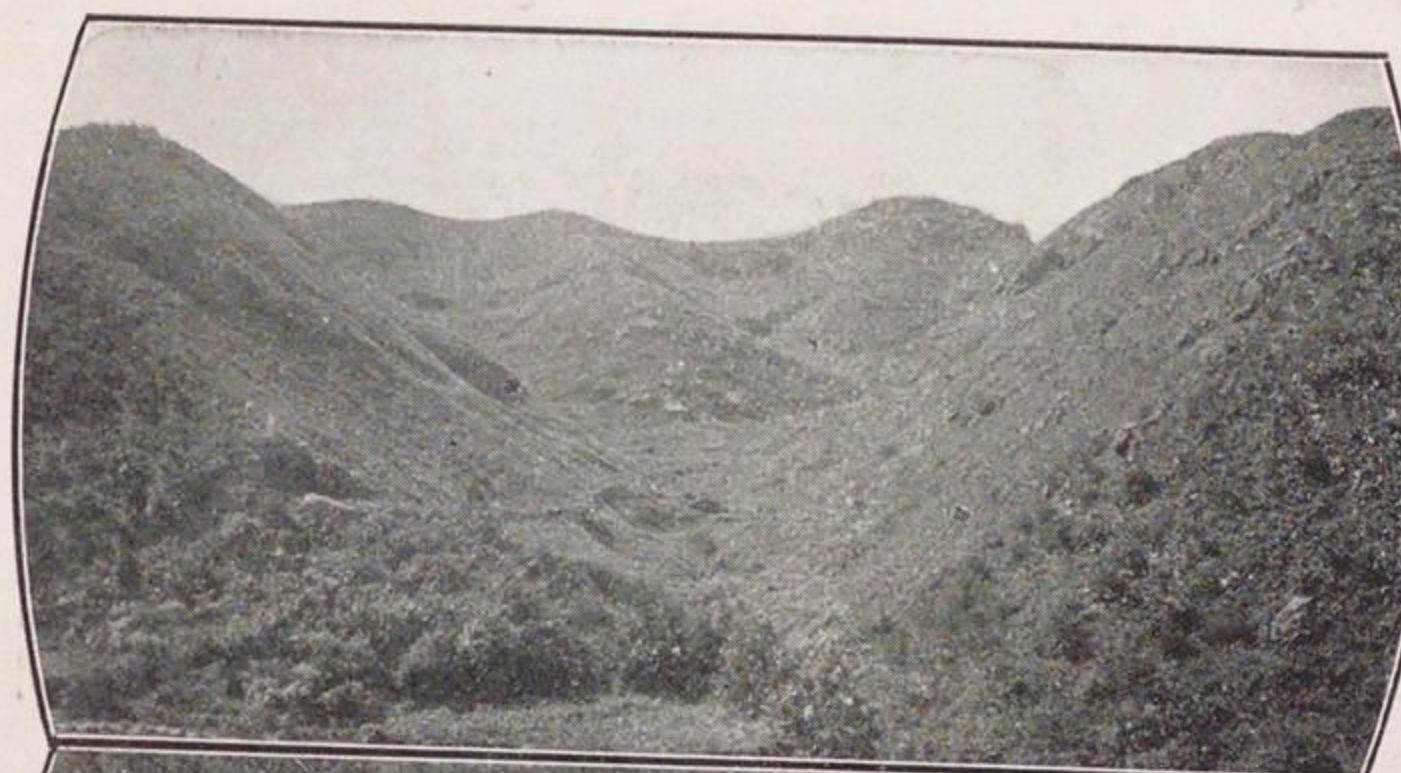




新屋村小學校教員住宅



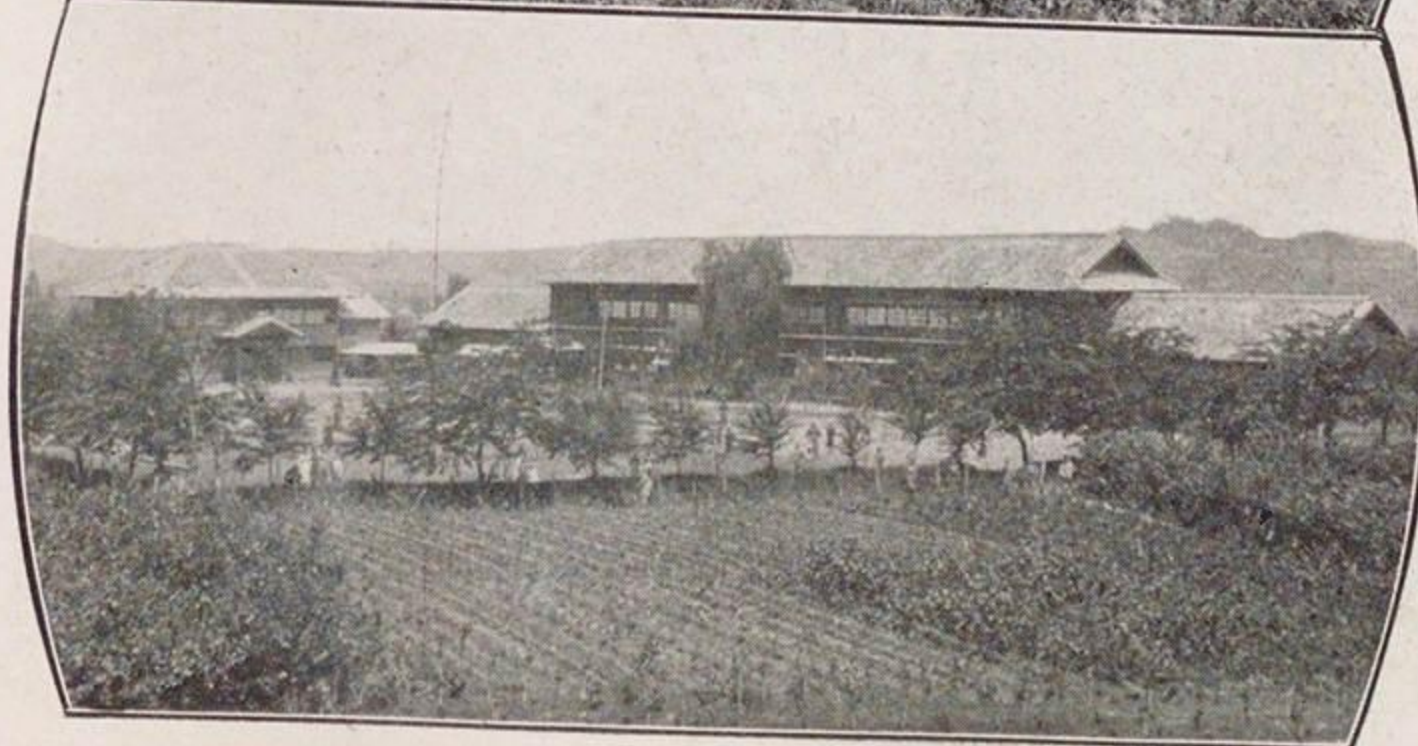
岩平村小學校教員住宅



新屋村小學校紀念林景全其一



全其二



全小學校ノ全景

種 各
造 製 灰 石

販
賣

所 造 製 灰 石 州 上

內 田 有 一

北 甘 樂 郡

下 仁 田 町

商 木 材
負 請 築 建

上 州 下 仁 田 町

山 田 榮 八

停 車 場 通

標 商

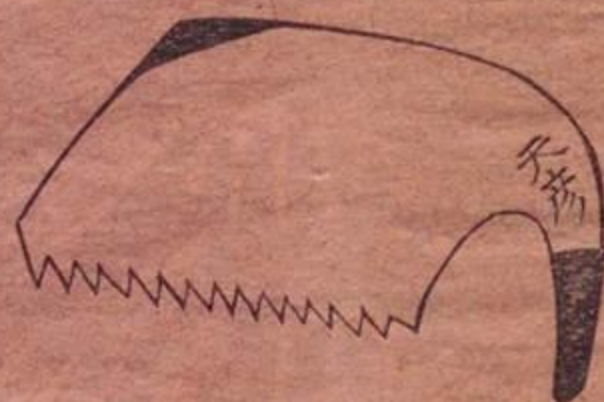
夕

萬 鋸 製 造 工 場

群 馬 縣 北 甘 樂 郡 下 仁 田 町

創 業 者 大 谷 安 五 郎

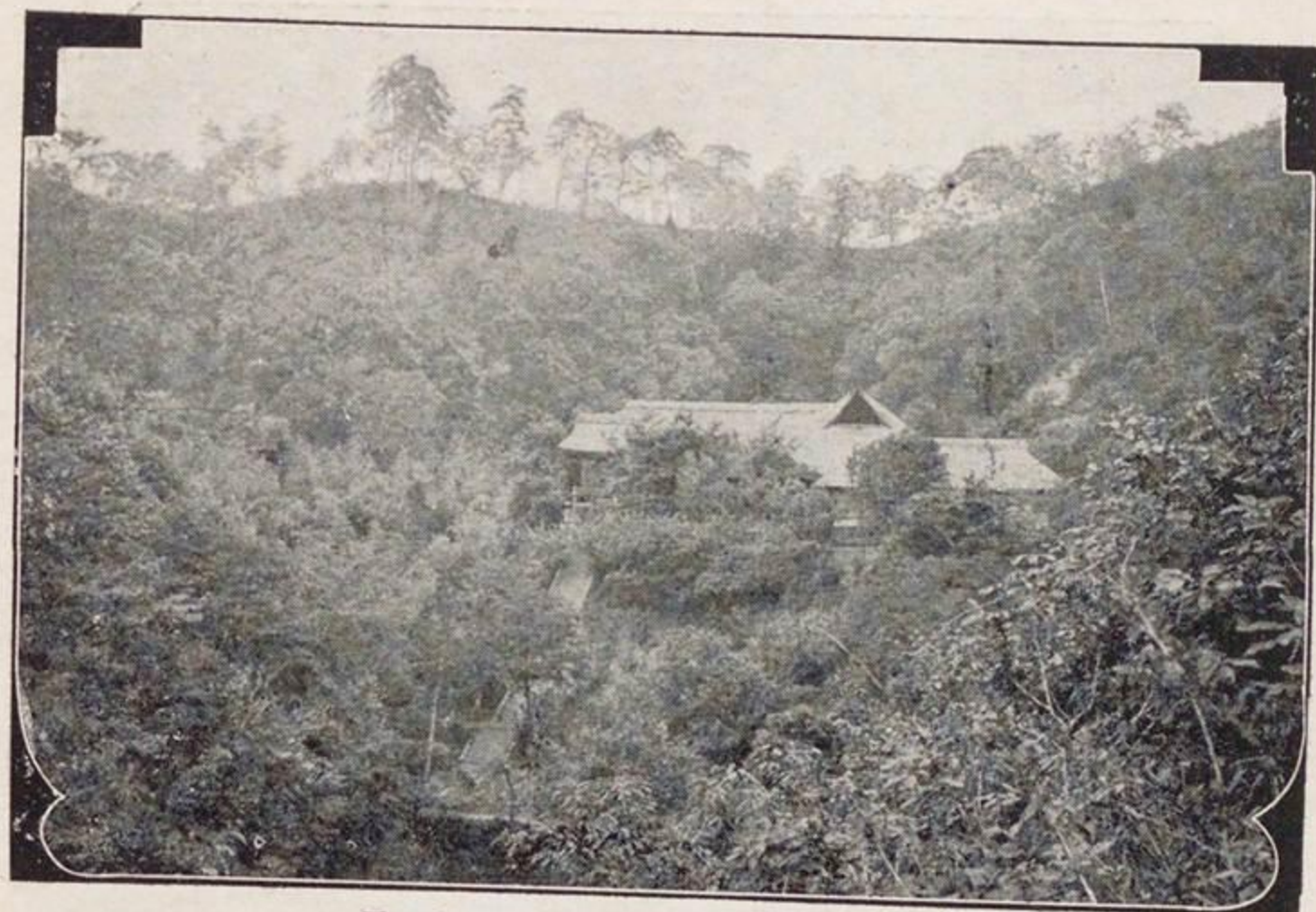
店 主 大 谷 信 次 郎



有 功

各 種 販 賣

前 挽



景 眞 ノ 寺 學 長 村 野 小



景 眞 ノ 寺 成 得 村 全

勉 北甘樂郡
 強 御旅
 藤四館
 通場車停
 飯一之宮町



春 又 昔 一升二付 框製 金八拾錢
 蠶 亦 昔 二百五十粒 平付原紙金壹圓五十錢
 風 更 紗 全 上 框製 金八十錢
 穴 更 紗 二百六十粒 平付原紙金壹圓五十錢
 北甘樂郡黑岩村
 大字下黑岩
 沼田鍋十郎

石灰 製造販賣業
 石 灰 製造販賣業
 富大河原長太郎
 上州北甘樂郡下仁田仲町

眼病一切 **點眼水** はやりめ、かすみめ、ちめ、た
いれめ、のぼせめ、つきめ、め
ぼし、其他トラホーム (金五錢)
皮膚 絲がせ、水むし、火傷、田むし
白花膏 其他皮膚、手指より分泌する
専門 糜爛、痴癬 (金五錢)

上野國北甘樂郡磐戸村
製劑 本舖 **淺川藥房**

蠶 下木村一升二付キ二百二十粒 北甘樂郡下仁田町
又 昔全 上二百四十粒
種 大圓頭全 上二百粒 市川竹十郎

廉價販賣 吳服 北甘樂郡下仁田町
太物 市川吳服店
(電話十三番)

牛乳搾取販賣業 北甘樂郡小坂村字下小坂
精養舎 神戸浦吉

書籍文具 北甘樂郡下仁田仲町
筆墨紙各房具 櫻井文林堂
洋物雜貨種類 下仁田風景繪葉書發行所

味噌 釀造及米穀販賣業 北甘樂郡磐戸村
油 大田屋號 大井田龜壽

絲繭 商 傘 北甘樂郡下仁田町
楮綿 今井直太郎 (電話參番)

有功清酒

喜

代

泉

北甘樂郡下仁田町

醸造元 渡邊治作

最新式

製	揚	座	乾	鐵線廻轉機
絲	器	繰	燥	
用	械	器	器	
取	踏	桑	デニール器	
器	取	切		
械	器	器		

右の諸機械類如何程多數の御注文にても期日を誤らず製作仕候

北甘樂郡磐戸村

伊佐治鈴吉

厚深の信用と勉強の店の弊驚勿
なるを
驚工事の完全と價格の低廉なるを

蒸 瀛 罐 製 造
非 常 ポ ン プ 修 繕
專 賣 洗 湯 釜
製 糸 機 械 附 屬 品
輕 動 水 車
建 築 用 ホ ー ル ト 類
諸 車 製 造

附屬品は最新式にして完全なるを備へ置候
御來觀用命度仰付候

北甘樂郡

正 佐藤正三郎

磐戸村

驚技術の巧致にして業務に忠實なるを
七
驚工事に堅牢永に堪

牛乳搾取販賣業
北甘樂郡磐戸村
精養舎
支店 吉田芳五郎

牛乳搾取販賣業
樋口八十吉

弊店は各位御托送の貨物を最電
も丁寧親切にして確實迅速に
御取扱申候
上野國下仁田停車場前
内國通運株式會社取引店
電話
番七下
福田運送店
店主福田文四郎
(下)略電

米 穀

薪炭問屋
折込造紫繩印
吉島崎商店
上州下仁田停車場前
(電信零號シマ)

製茶紙類商
上州富岡町
市萬屋商店
(電零マルイチ)

春蠶種
又青陸伊媛
昔熟奧錦達
一升二百五十粒
全全全全全
一一一一一
二百六十粒
秋蠶風穴種更紗
群馬縣北甘樂郡馬山村
大字馬山村
岩井龜太郎

牛乳搾取販賣業
北甘樂郡下仁田町(下仁田社裏通)
惠比壽舎 黒澤虎造

群馬縣北甘樂郡下仁田町大字下仁田町四拾七番地

株式會社下仁田銀行

(電話特 一三三番)

創立明治貳拾九年七月
資本金拾萬圓

諸積立金五萬參千五百圓

- 一、定期預金、當座預金、特別當座預金、貸付金
- 一、爲替、荷爲替、代金取立
- 一、證券割引、公債賣買
- 一、其ノ他銀行一般ノ業務

營業科目

營業課目
商標、株券、褒狀、印紙
免狀、地圖、插畫、名刺
切符、手形、鑑札、肖像
其他御注文に應ず

前橋市石川町

玄明堂印刷所

片平晃太郎

富岡上町

吉田金太郎

(電話一六番)

洋服雜貨

橋橋市壁町二番地

吉田金太郎

(電話四三六番)

高等裁縫

◎弊館ハ市ノ中央ニテ縣廳其

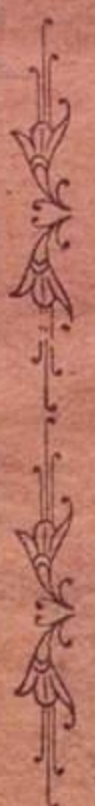
他諸官衙ノ御用達ニ便ナリ



前橋市桑町片原

旅館住吉屋

[電話百〇七番]



◎弊館ハ寫真器御携帶旅客ノ

便利ヲ計リ暗室ノ設備アリ

味噌 釀造
醬油 釀造
石灰 製造

石 油 問 屋

上州下仁田町二百三十七番地
野殿屋號

久小川 達平

(電話八番)

三重德用炭群馬縣一手販賣

雜穀肥料
洋粉醬油
木炭石油

谷矢野問仁助

(電話參參番)

富岡停車場前

雲母製造水車業

甘樂煙草
元賣捌

合名會社

電話參四番

代表社員 井上梅吉
社員 高橋永十郎
社員 井上利三郎

絹糸紡績株式會社

原料買繼商

富岡町字下町

淺川忠太郎

電話十一番

蠶種製造業

又昔

北甘樂郡富岡町
童兒社

荻野千代吉

支那種

下木村

牛乳搾取販賣業

富岡町字七日市

東陽舍 新井金藏

御料理 仕出し

富岡上町

御料理

富岡町

都壽し

招福亭

大蒲焼

源氏

蒲焼 天婦ら

南裏通

宮本町

上州富岡上町

新井屋號

海産物 商店

灸

今井久吉

(電話參八番)

北甘樂郡農會物産共進會

北甘樂郡富岡町

登録商標



座繰機械

製造本舗

長崎徳次郎

に於て參等賞受領

字七日市町

一府十縣聯合共進會に於て二等賞受領

斧

精糸改良

踏繰機械

製造販賣

白井照吉

北甘樂郡富岡町品評會に於て貳等賞狀受領

北甘樂郡富岡町
北甘樂郡富岡町

蠶種製造業

蠶春 又昔
蠶春 伊達錦
蠶秋穴風 白龍

北甘樂郡小幡村

柳澤富貴藏

蠶種製造業

白玉新井清六

富岡町大字富岡字瀨下町



座繰機 踏繰機 檢尺機

北甘樂郡富岡町字下町 工藤嘉吉

製 造

販 賣

陸軍御用

中小學校生徒諸氏に特はに勉強仕候

高崎市鍛冶町十八番地 本店 狩野榮三郎
北甘樂郡富岡町百〇番地 支店 金高西八郎

靴製造店



座繰機 踏繰機 外建具 指物類

富岡町 佐々木由藏

宮本町

和洋製 御菓子 製造販賣

富岡町 扇屋號 影森菓子店 字仲町

酒 醬油 味噌
釀 造 販 賣
官 鹽 元 賣 捌
衡 器 販 賣

山

上州 富岡町

橫山八百作商店

電話十五番
電器(ヨヤ)

材 木 販 賣
土 木 請 負
建 築

み

上州富岡町停車場通り

橫山材木店

電話四十七番

玉錦

印醬油

釀造元

上野國富岡町

大黒屋號

西岡市兵衛

振替口座壹九五三五
電器一三一(又ハ)一三三

釜 印 味噌

和洋酒類販賣

商標

畝

改良製糸

踏取機械製作所

福田慶次郎

北甘樂郡富岡上町南仲通り

改良桑刻機
 改良中折バツタン
 改良足轉製糸機械
 改良葉煙草展調機
 改良和洋建具指物
 神社佛閣道具調刻物品々

中村商會

製作主任 **中村正則**

群馬縣北甘樂郡富岡町

(電略ナカ)

弊店製造の機械類は各縣農事試驗場の御用命有之
 尙ほ幾多農蠶器商店等へ特約販賣致し居り候

商標



改良製糸

踏取機械製作所

北甘樂郡富岡上町

有賀平三郎

北甘樂
教育會
發行

群馬県立図書館



0243218-5